「HDDコンポ〈ネットジューク〉／システムステレオ」サポートページ
http://www.sony.co.jp/netjuke-support/
"ネットジューク"の最新情報や、困ったときの対処方法などを掲載しています。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口
フリーダイヤル……………0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル……………0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「305」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

4-114-863-**06**(1)

SONY HDD搭載ネットワークオーディオシステム NAS-D500HD/M700HD

SONY

HDD搭載ネットワークオーディオシステム

NAS-D500HD/M700HD

取扱説明書

NETJUKE

安全のために ⚠警告

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

以下の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

1. 電源を切る
2. 電源プラグをコンセントから抜く
3. お買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理を依頼する

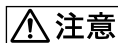
警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

HDD搭載ネットワークオーディオシステム

NAS-D500HD/M700HD

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT
MP3
HDD HARD DISK DRIVE
ATRAC
LinearPCM
WMA
AnyMusic
DSEE

NAS-M700HDのみ
MiniDisc
MDLP

必ずお読みください

ハードディスクについて

ハードディスクは衝撃、振動などに弱いため、下記を必ず守ってご使用ください。詳しくは、139ページをご覧ください。

- 衝撃を与えない。
- コンセントを差したまま本機を動かさない。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しない。
- 録音、再生中は、本機を動かしたり、コンセントを抜かない。
- お客様ご自身で、ハードディスクの交換や増設をしない。故障の原因となります。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合は、データの修復はできません。

本機のハードディスクに記録されたデータは、通常の使用において壊れる可能性があります。お客様が保存したデータは、本機のバックアップ機能を使用して、外部に接続した別売りのUSBハードディスクに定期的にバックアップをとってください。
ハードディスク内のデータが壊れたことによる一切の責任を弊社は負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本製品に含まれるソフトウェアについて

本製品のご使用を開始される前に必ず、本製品に含まれるソフトウェア等に関するお知らせ（「ソフトウェア使用許諾契約書」（153ページ）と「ソフトウェアに関する重要なお知らせ」（154ページ））をご覧ください。
お客様による本製品の使用開始をもって、このお知らせの内容をご確認の上、ご同意いただけたものとさせていただきます。

録音についてのご注意

- 大切な録音の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に録音されていることを確認してください。
- 本機を使用中、万一不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件にしたがって修理を致します。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、録音、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本機をネットワーク接続して利用するサービスについて

サービス内容は予告なく変更されたり、終了することがありますので、あらかじめご了承ください。

著作権保護について

あなたが本機で録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。（NAS-M700HDのみ）
（お問い合わせ先（社）私的録音補償金管理協会（sarah）
住所：東京都千代田区麹町1-8-14麹町YKビル2階
Tel：　03-3261-3444）

本書で使われているイラストについて

本書で使われているイラストや画面は実際のものと異なる場合があります。特に記載のない場合、イラストはNAS-M700HDを使用しています。

取扱説明書の使いかた

この取扱説明書ではリモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

HDD：HDDジュークボックスで使える機能
CD：CDで使える機能
MD：MDで使える機能（NAS-M700HDのみ）

目次

準備する

HDDジュークボックスに取込む·HDDジュークボックスから転送する

再生する

編集する

ネットワーク接続・設定

インターネットに接続して使う

ホームネットワーク機能を使う

その他の設定をする

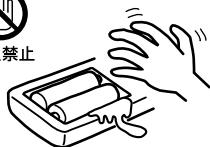
困ったときは

注意事項/主な仕様

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱などによる大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、数時間たってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

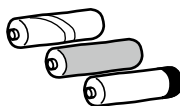
⚠ 警告

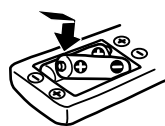
電池は乳幼児の手の届かない所に置く

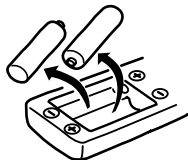
電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

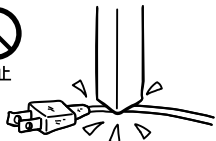
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

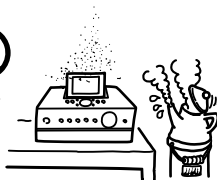
警告

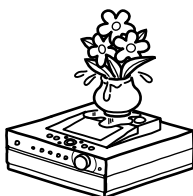
下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

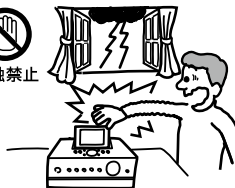
万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

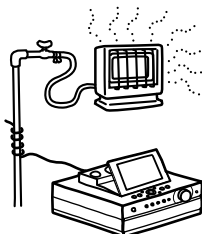
キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。
内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

本機やアンテナ線、電源プラグなどに触れると感電の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

NETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-T/100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

⚠注意

下記の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。
呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。特に、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

安定した場所に置く

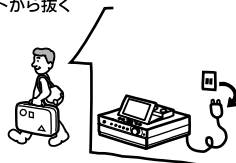
ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。
通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離されません。

コード類は正しく配置する

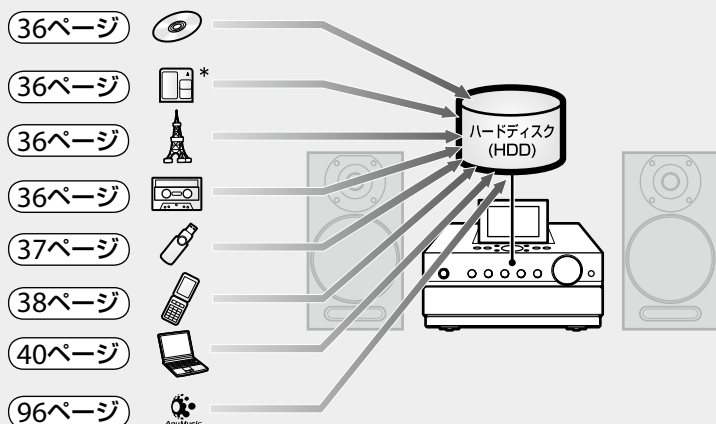
本機に取り付ける電源コードやAVケーブル、ネットワークケーブルは、足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

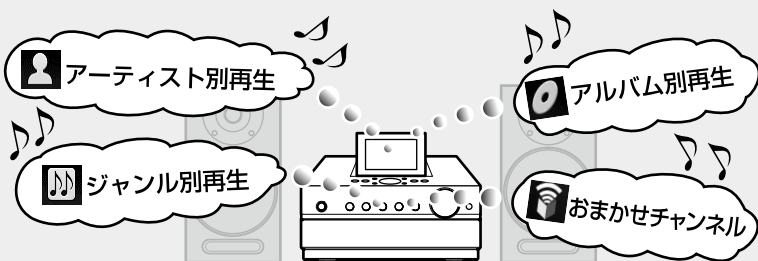
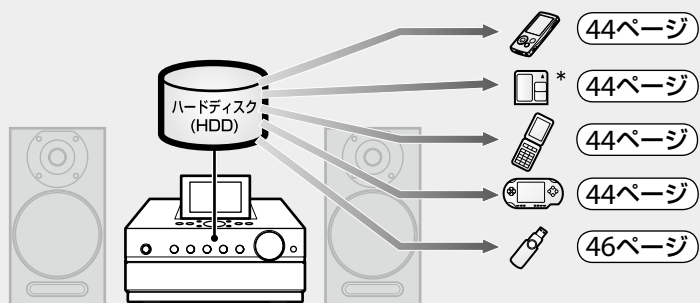
長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

本機の楽しみかた

貯める 音楽CDやMD*などに入っている曲をHDDジュークボックスに貯めて・・・

聴く アーティスト別に聴いたり、おまかせチャンネルを使って聴く 51ページ

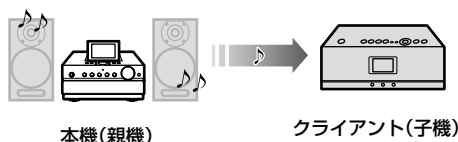
 * NAS-M700HDのみ

持ち出す “ウォークマン”やMD*などに転送して曲を聴く

さらにインターネットにつないでいると・・・

■ “エニーミュージック”から音楽を購入 96ページ

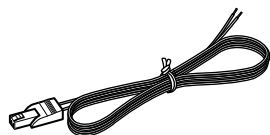
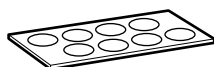
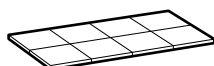
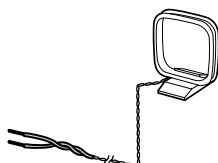
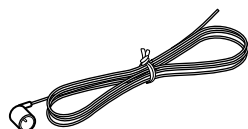
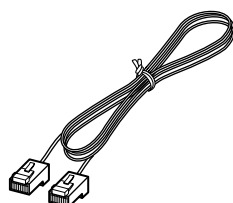
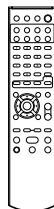
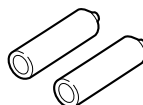
■ Gracenoteからタイトル情報を自動取得 94ページ

■ DLNA対応機器で本機の曲を再生できる（ホームネットワーク機能） 100ページ

本機（親機）　　クライアント（子機）

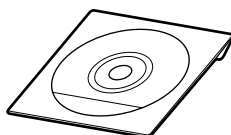
* NAS-M700HDのみ

付属品を確かめる

付属品が足りないときや破損しているときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご連絡ください。

❑ スピーカーコード(2)

❑ スピーカーフット(8)

または

❑ AMループアンテナ(1)

❑ FM簡易ワイヤーアンテナ(1)

❑ LANケーブル(クロス)(1)

❑ リモコン(1)

❑ リモコン用単3形(R6)乾電池(2)

❑ NW-S730Fシリーズ/NW-S630Fシリーズ“ウォークマン”用アタッチメント(NAS-D500HDの白モデルのみ)(1)

❑ 取扱説明書(本書)(1)

❑ “エニーミュージック”からのご案内(1)

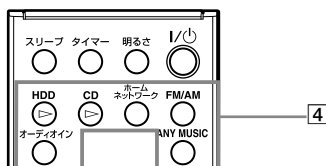
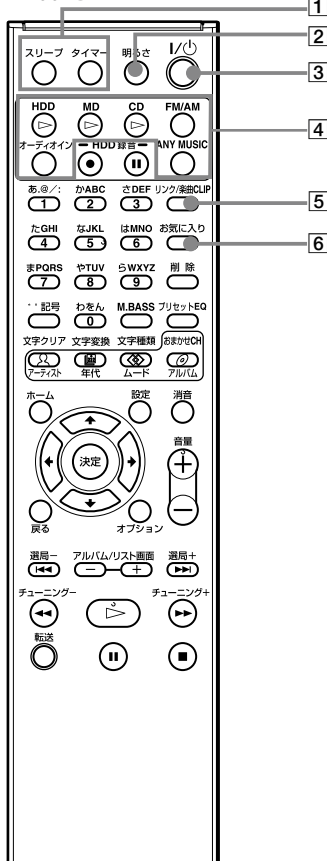
❑ パソコン用「かんたん音楽転送」ソフトウェアCD-ROM(1)
音楽CDプレイヤーでは再生しないでください。

❑ 製品カスタマー登録のお願い(1)

❑ ソニーご相談窓口のご案内(1)

❑ 保証書(1)

各部の名称とはたらき

リモコン

NAS-D500HD

NAS-M700HD

1 スリープ、タイマーボタン

- スリープボタン
  スリープタイマーの設定/確認に使います（105ページ）。
- タイマーボタン
  タイマーを設定するときに使います（106ページ）。

2 明るさボタン

画面およびイルミネーションランプ（青ランプ）の明るさを変えるときに使います。

3 I/⏻（電源）ボタン

電源を入/切します。電源を切ると自動解析（28、58ページ）が始まり、イルミネーションランプ（青ランプ）がゆっくり点滅します。自動解析を中止してすぐに電源を切りたいときは、■ボタンを押します。

4 ダイレクトプレイボタン

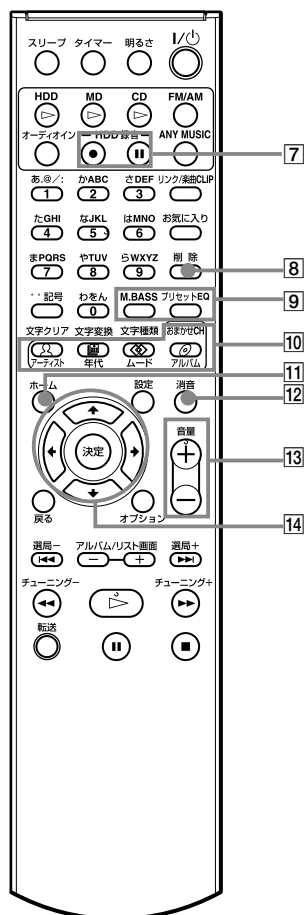
ファンクションが切り換わります。スタンバイ時には、電源が入り、ファンクションが切り換わります。

- HDD⊳ボタン（51ページ）
- MD⊳ボタン（62ページ）（NAS-M700HDのみ）
- CD⊳ボタン（59ページ）
- FM/AMボタン（64ページ）
- オーディオインボタン（67ページ）
- ANY MUSICボタン（95ページ）
- ホームネットワークボタン（103ページ）（NAS-D500HDのみ）

5 リンク/楽曲CLIPボタン

- リンクボタン
  "エニーインフォ"表示時に関連する"エニーミュージック"のページにリンクします（51ページ）。
- 楽曲CLIPボタン
  "NOW ON AIR"（97ページ）で表示された楽曲情報を保存します。

6 お気に入りボタン

曲をお気に入りリストに追加するときに使います（53ページ）。

※ 音量＋ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

7 HDD録音ボタン

HDDジュークボックスへの録音に使います。

- HDD録音●（録音開始）ボタン（36ページ）
- HDD録音❚❚（録音一時停止）ボタン（37ページ）

8 削除ボタン

各ファンクションで削除を行うときに使います（75ページ）。

9 M.BASS（メガベース）、プリセットEQ（イコライザー）ボタン

- M.BASSボタン
  重低音を強調します。
  ボタンを押すたびに、M.BASSの「ON」（低音強調）と「OFF」が切り換わります。お買い上げ時の設定は、「ON」です。
- プリセットEQボタン
  あらかじめ登録されている音質に切り換えます。
  ボタンを押すたびにプリセットEQが以下の順番で切り換わります。
  ◆FLAT→ROCK→POPS→JAZZ→CLASSIC→DANCE→FLAT→.....
  （◆：お買い上げ時の設定）

10 おまかせCHボタン/MIXチャンネルボタン

- おまかせCHボタン（黄）
  おまかせチャンネルを選んで再生します（56ページ）。
- 青、赤、緑、黄ボタン
  おまかせチャンネルのMIXチャンネル機能に使います（56ページ）。

11 ホームボタン

ホームメニューからファンクションを選んで決定します。
⬆/⬇/⬅/➡ボタンでファンクションを選び、決定ボタンを押します。
ホームメニューを消すには、決定ボタンを押す前にホームボタンまたは戻るボタンを押します。

12 消音ボタン

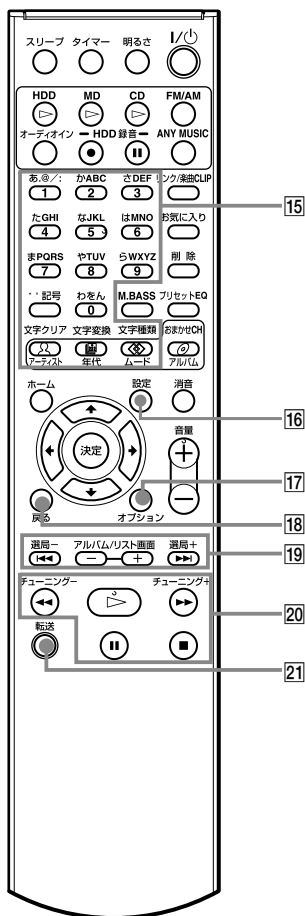
音声を消します。

13 音量＋※、音量－ボタン

本機の音量を調節します。

14 メニュー操作ボタン

メニューを選んで決定します（22ページ）。

- ⬆/⬇/⬅/➡ボタン
  項目の選択や設定値を変更するときに使います。
- 決定ボタン
  操作を決定するときに使います。

※のついたボタン（数字ボタンの「5」、共通▷（再生）ボタン）には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

15 数字※/文字入力ボタン

再生時の曲番の指定や文字入力に使います（81ページ）。

16 設定ボタン

設定メニューを表示します（22ページ）。
時計やネットワーク設定など、システムの設定を行います。

17 オプションボタン

オプションメニューを表示します（22ページ）。
使用しているファンクションに合わせてメニューの内容が変わります。

18 戻るボタン

操作中の画面をひとつ前の画面に戻します。

19 ⏮・選局－、⏭・選局＋、アルバム/リスト画面＋、アルバム/リスト画面－ボタン

- ⏮、⏭ボタン
  曲の頭出しに使います。
- 選局＋、選局－ボタン
  ラジオ局のプリセット番号の選択に使います。
- アルバム/リスト画面＋、アルバム/リスト画面－ボタン
  メイン画面では、アルバムまたはグループを選びます。リスト画面では、リスト表示全体を上下に移動します（52ページ）。

20 ファンクション共通操作ボタン

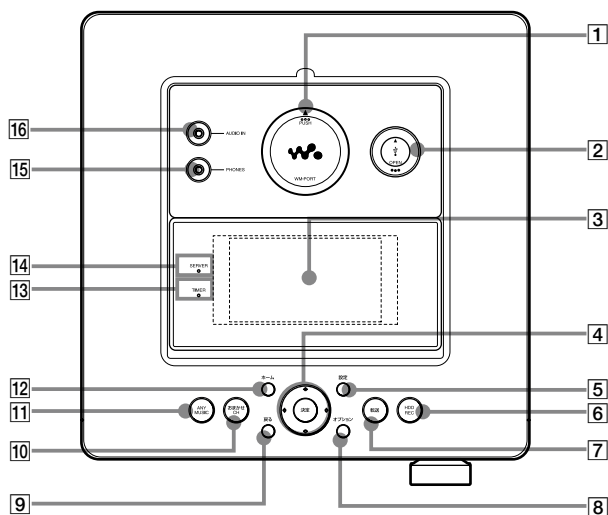
各ファンクション共通で使うボタンです。

- ▷（再生）ボタン※
- ◀◀（早戻し）/チューニングー、▶▶（早送り）/チューニング＋ボタン
- ❚❚（一時停止）ボタン
- ■（停止）ボタン

21 転送ボタン

“ウォークマン” /MD*/au「LISMO」対応携帯電話/ポータブル機器への転送に使います（45ページ）。

* NAS-M700HDのみ

本体上面

1. **“ウォークマン”アタッチメント取り付け部（WM-PORT）**
   “ウォークマン”と接続するときに、“ウォークマン”に付属のアタッチメントを取り付けます。
2. **USB端子**
   USBメモリなどのポータブル機器やUSB無線LANアダプターなどをつなぎます。
3. **画面**
   画面の両端を持って手前に引くと、角度を変更できます。見やすい角度に調整してください。画面の表示内容については、21ページをご覧ください。
4. **メニュー操作ボタン**
   メニューを選んで決定します（22ページ）。
   - ↑/↓/←/→ボタン
     項目の選択や設定値を変更するときに使います。
   - 決定ボタン
     操作を決定するときに使います。
5. **設定ボタン**
   設定メニューを表示します（22ページ）。
   時計やネットワーク設定など、システムの設定を行います。
6. **HDD RECボタン**
   HDDジュークボックスに録音します。
7. **転送ボタン**
   “ウォークマン”/MD*/au「LISMO」対応携帯電話/ポータブル機器への転送に使います（45ページ）。
8. **オプションボタン**
   オプションメニューを表示します（22ページ）。
   使用しているファンクションに合わせてメニューの内容が変わります。
9. **戻るボタン**
   操作中の画面をひとつ前の画面に戻します。
10. **おまかせCHボタン**
    おまかせチャンネルを選んで再生します（56ページ）。

* NAS-M700HDのみ

⑪ ANY MUSIC(エニー ミュージック)ボタン(95ページ)

⑫ **ホームボタン**

ホームメニューからファンクションを選んで決定します。
⬆/⬇/⬅/➡ボタンでファンクションを選び、決定ボタンを押します。
ホームメニューを消すには、決定ボタンを押す前にホームボタンまたは戻るボタンを押します。

⑬ TIMER(タイマー)ランプ

タイマーの状態を表します。

⑭ SERVER(サーバー)ランプ

本機をサーバ(親機)として使用するとき、接続されたクライアント機器(子機)で曲を再生中に黄緑色に点灯します(101ページ)。

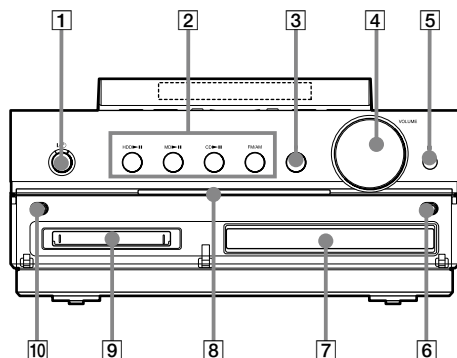
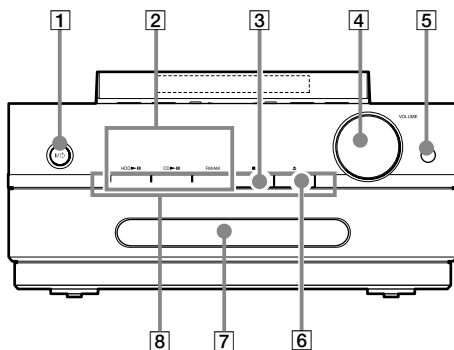
⑮ PHONES(フォーンズ)(ヘッドフォン)端子

ヘッドホンをつなぎます。

⑯ AUDIO IN(オーディオ イン)端子

外部機器のアナログ出力端子をつなぎます。

本体前面

NAS-M700HD

NAS-D500HD

1 **I/⏻（電源）ボタン、オン/スタンバイランプ**

- I/⏻（電源）ボタン
  電源を入れる、または切ります（27ページ）。
- オン/スタンバイランプ
  本体の電源状態（28ページ）を表します。
  - 緑：電源オン
  - 赤：標準起動スタンバイ
  - オレンジ：高速起動スタンバイまたは自動解析中（28、58ページ）

2 **ダイレクトプレイボタン**

ファンクションが切り換わります。スタンバイ時には、電源が入り、ファンクションが切り換わります。

- HDD►IIボタン（51ページ）
- MD►IIボタン*（62ページ）
- CD►IIボタン（59ページ）
- FM/AMボタン（64ページ）

3 **■（停止）ボタン**

各種の操作の停止に共通に使えます。

4 **VOLUME（ボリューム）ダイヤル**

音量を調整します。

5 **リモコン受光部**

6 **CD⏏ボタン**

ディスクトレイが開閉します（59ページ）。

7 **ディスクトレイ**

CDを挿入します（59ページ）。

8 **イルミネーションランプ（青ランプ）**

電源オンのときに点灯し、自動解析中（28、58ページ）はゆっくり点滅します。

9 **MDスロット***

MDを挿入します（62ページ）。

10 **MD⏏ボタン***

MDを取り出します（62ページ）。

* NAS-M700HDのみ

画面

ここでは、各画面の主な項目について説明します。

メイン画面　　　　　　**リスト画面**

←ボタンを繰り返し押し、一番左の階層アイコンを選んで、
戻るボタンを押す。または、60秒間何もしない。

1 **曲名**

2 **アーティスト**

3 **アルバム**

4 **ビジュアライザーバー**

音楽に合わせて動きます。画面デザインの設定により、ビジュアライザーバーのデザインも変わります。

5 **階層アイコン**

どの階層を表示しているかを示します。←/→ボタンを押すと、階層が変わります。

6 **曲アイコン**

- ：着うたフル®
- ：ATRAC音声の曲
- ："エニーミュージック"からダウンロードした曲（ATRAC音声）
- ：MP3音声の曲
- ：リニアPCM音声の曲
- ：WMA音声の曲

※ ANY MUSIC、FM/AM、オーディオイン、おまかせチャンネルの各ファンクションにはリスト画面はありません。

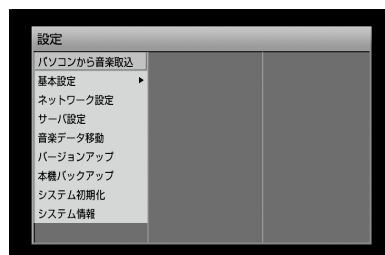
ホームメニュー

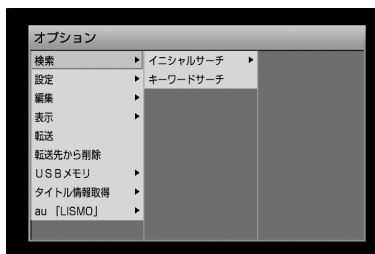
ホームボタンを押すと、表示されます。

NAS-M700HD

NAS-D500HD

設定メニュー

設定ボタンを押すと、表示されます。

オプションメニュー

オプションボタンを押すと、表示されます。

各メニューの操作方法

1 メニューボタン（ホーム/オプション/設定）を押す。

2 ↑/↓/←/→ボタンを押して項目を選ぶ。

3 決定ボタンを押す。

本機を使うための準備

本機を使い始める前に、まず3つの準備が必要です。

1 接続する (24ページ)

スピーカーやアンテナを接続し、最後に電源コードをつなぎます。

2 電源を入れる (27ページ)

本機の電源を入れると、初期設定後、電源は自動的に切れるので、I/⏻(電源)ボタンを押して、再度電源を入れます。

3 時計を設定する (29ページ)

本機のタイマー機能などを正しく使うために、時計を合わせます。

ネットワークに接続する (85ページ)

本機をインターネットにつないで、最新情報を取得したり、ホームネットワーク機能を使うことができます。ネットワーク接続には、有線接続と無線接続があります。

接続する

モニター出力端子

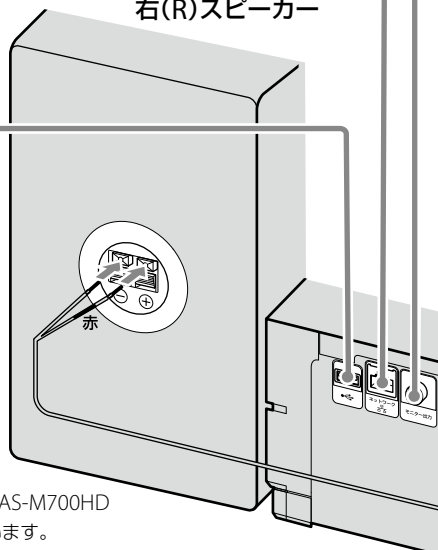
外部のテレビなどに接続するときに使います。26ページをご覧ください。

ネットワーク端子

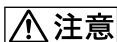
ネットワークに接続するときに使います。ネットワークに接続していると、最新のタイトル情報をインターネットから取得したり、楽曲を購入したり、ホームネットワーク機能を使ってパソコンに保存された曲を聞くことができます。
ネットワーク接続には、有線LAN接続と無線LAN接続があります。詳しくは、85ページをご覧ください。

右(R)スピーカー

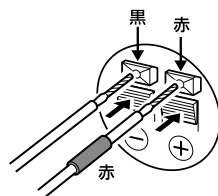
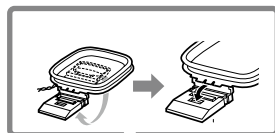
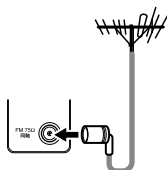
USB端子

USBメモリなどのポータブル機器やUSB無線アダプターなどとつなぐときに使います。
37、46、85ページをご覧ください。

イラストはNAS-M700HDを使用しています。

電源コード

⚠ 注意

すべての機器をつないだあと、本機の電源コードを、コンセントにつないでください。
自動的に電源が入り、初期設定が始まります。自動的に電源が切れるまでお待ちください。本機の状態によっては、初期設定に数分かかる場合があります。

初期設定中に本機の電源を切らないでください。
故障の原因になります。

* NAS-M700HDのみ

その他の端子について

オーディオ入力端子*

音声接続コード（別売り）を使って、外部のオーディオ機器（カセットデッキなど）をつなぎます。本機でアナログ音声を再生、録音できます。

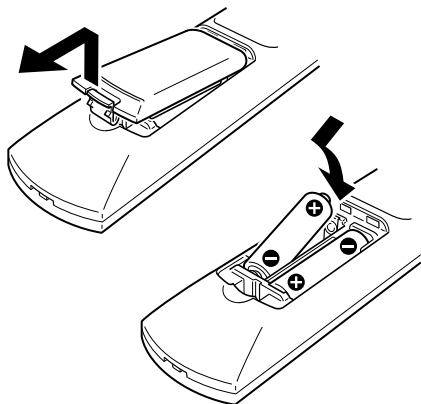
オーディオ出力端子*

音声接続コード（別売り）を使って、外部のオーディオ機器（カセットデッキなど）をつなぎます。本機からアナログ音声が出力されます。

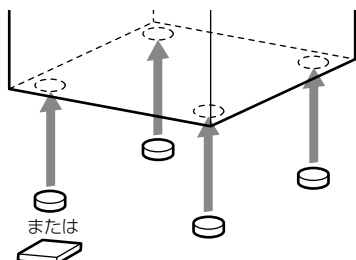
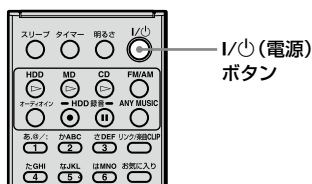
モニター出力端子

映像ケーブル（別売り）を使って、外部のテレビなどをつなぎます。本機から画面の映像信号が出力されます。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに単3形乾電池（R6、付属）2個を入れます。
リモコン操作できる距離が短くなったら、2個とも新しい乾電池に交換してください。

スピーカーフットを取り付ける

スピーカーが滑るのを防ぎ、安定して設置するために、スピーカー底面の4隅に付属のスピーカーフットを取り付けてください。

* NAS-M700HDのみ

電源を入れる

1 本機の電源コードをコンセントにつなぐ。

自動的に本機の電源が入り、本機の初期設定が始まります。 初期設定が完了すると、自動的に電源が切れます。

2 I/⏻（電源）ボタンを押す。

本体の電源が入ります。
画面左上に、ネットワークの接続状態を示すポップアップが表示され、一定時間がたつと自動的に消えます。ネットワークの接続/設定については、85ページをご覧ください。

！ご注意

初期設定中に本機の電源コードを抜かないでください。故障の原因になります。

電源を切るには

本体またはリモコンのI/⏻（電源）ボタンを押します。I/⏻（電源）ボタンを押してもすぐに電源が切れない時がありますが、これは本機がHDD（ハードディスク）のデータを自動解析しているためです（58ページ）。自動解析を中止してすぐに電源を切りたいときは、■ボタンを押します。電源を入れたいときは、もう一度I/⏻（電源）ボタンを押します。
また、本機をサーバ（親機）としてクライアント（子機）で音楽の再生中は、I/⏻（電源）ボタンを押してもサーバ機能が継続され、電源が切れません（画面表示が消え、イルミネーションランプ（青ランプ）がゆっくりと点滅します）。サーバ機能を停止して電源を切るには、■ボタンを押します。

ヒント

本機のスタンバイモードには、高速起動スタンバイと標準起動スタンバイがあります。詳しくは115ページ「スタンバイモードの設定をする」をご覧ください。

本機の動作モードについて

本機には通常動作、高速起動スタンバイ、標準起動スタンバイ、自動解析動作の４つ動作状態があります。スタンバイモード設定が高速起動スタンバイの場合、電源が切れていても、ときどきファン動作することがありますが、故障ではありません。

通常動作

電源が入っている状態です。

高速起動スタンバイ（お買い上げ時の設定）

次回の起動を高速にするために、内部の一部が稼動している状態でスタンバイに入ります。その際、本体後面のファンは本体内の温度を下げるために、時々動作することがありますが、異常ではありません。スタンバイモードの設定は設定メニューの「省電力/画面設定」で行なってください（115ページ）。

標準起動スタンバイ

次回起動に時間がかかりますが、スタンバイ時の消費電力は最小になるエコモードです。スタンバイモードの設定は設定メニューの「省電力/画面設定」で行なってください（115ページ）。本機のサーバ機能が使えません（101ページ）。

自動解析動作

本機のHDDジュークボックスに取込んだ楽曲の解析を行なって、おまかせチャンネルで各チャンネルに曲を分類するモードです。自動解析については、58ページをご覧ください。オン/スタンバイランプはオレンジ色に点灯し、イルミネーションランプ(青ランプ)がゆっくりと点滅します。自動解析を中止したいときは、■ボタンを押してください。自動解析を中断し、設定されたスタンバイモードに入ります。

	通常動作	**高速起動スタンバイ**	**標準起動スタンバイ**	**自動解析中**
オン/スタンバイランプ	緑	オレンジ	赤	オレンジ
イルミネーションランプ(青ランプ)	点灯	消灯	消灯	ゆっくり点滅
画面	表示あり	消灯(表示なし)	消灯(表示なし)	消灯(表示なし)
ファン	回転	回転(温度により停止)	停止	回転
サーバ機能	○	○	×	○

時計を合わせる

本機の機能を正しく使うには、時計を正しく合わせておく必要があります。以下の手順で時計を合わせてください。インターネットに接続して自動で合わせることもできます（99ページ）。

1 設定メニューで［基本設定］－［時計合わせ］を選び、決定ボタンを押す。

2 ［インターネットによる自動時計合わせを利用］を選び、決定ボタンを押す。

3 ［しない］を選び、決定ボタンを押す。

4 ［日時入力］を選び、決定ボタンを押す。

5 ←/→ボタンで年/月/日を選び、↑/↓ボタンで日付を合わせる。

6 ←/→ボタンで時/分を選び、↑/↓ボタンで時刻を合わせ、決定ボタンを押す。

7 ［タイムゾーン］設定から［GMT+9 東京, Seoul］を選ぶ。

8 ［夏時間］設定を選び、［標準］を選ぶ。

9 ［設定反映］を選び、決定ボタンを押す。

現在時刻に反映されます。

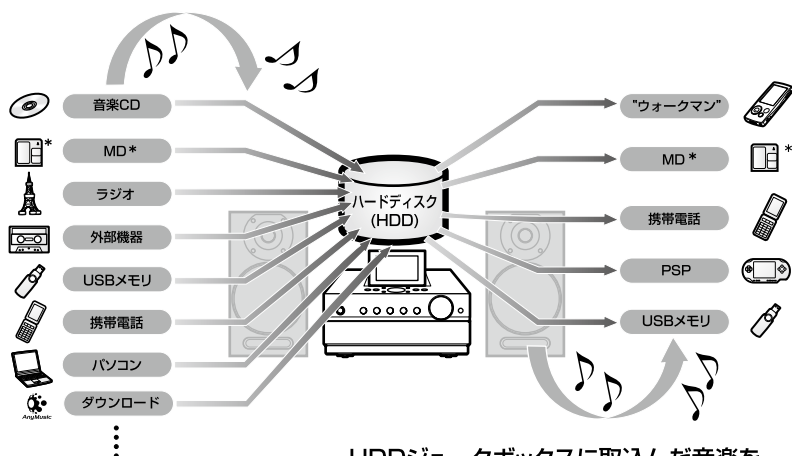
10 ［閉じる］を選び、決定ボタンを押す。

！ご注意

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れたときに、時計が正しく設定されていない場合は、「時計合わせ」画面が表示されます。何も操作しないで一定時間たつと自動的に画面が消えるので、設定メニューで正しく設定してください。

HDDジュークボックスへの取込みと転送について

多彩な音源から音楽をHDDジュークボックスに取込み、本機で音楽データを一括管理することができます。
また、HDDジュークボックスに取込んだ音楽を"ウォークマン"などのお好みの機器に転送して持ち出すこともできます。
CD、ラジオからMD*や"ウォークマン"などに直接録音することはできません。HDDジュークボックスに取込んでから転送します。

* NAS-M700HDのみ

取込み時に設定可能なフォーマット

取込み元によって、取込める単位や、フォーマットが異なります。

取込み元	取込める単位	取込み可能なフォーマット						ビットレート
		リニアPCM*1	ATRAC	MP3	WMA	AAC	着うたフル®	
CD	曲、アルバム	○	○	○	－	－	－	フォーマットごとに選択可能
MD*	全曲のみ	○	○	○	－	－	－	
FM/AM	－	○	○	○	－	－	－	
オーディオイン	－	○	○	○	－	－	－	
“ウォークマン”	フォルダ	○*2	○	○	○	○*3	－	PCM/ATRAC/MP3/WMA：取込み元と同じ AAC：フォーマットごとに設定可能*3
携帯電話		○*2	○	○	○	○*3	－	
USBメモリ		○*2	○	○	○	○*3	－	
au「LISMO」対応携帯電話	全曲	－	－	－	－	－	○	取込み元と同じ
パソコン（「かんたん音楽転送」）	曲	○*2	○	○	○	○*4	－	PCM/ATRAC/MP3/WMA：取込み元と同じ AAC：フォーマットごとに設定可能*4

*1 リニアPCM形式で取込んだ音楽データは、あとからMP3形式やATRAC形式に変換できます。

*2 WAV形式のファイルは、リニアPCM形式として取込まれます。

*3 AAC形式のファイルを取込む場合、設定画面にてフォーマットとビットレートを変更できます。設定できるフォーマットは、ATRACとMP3です。

*4 AAC形式のファイルを取込む場合、「かんたん音楽転送」ソフトウェアの転送設定画面にてフォーマットとビットレートを変更できます。設定できるフォーマットは、ATRACとMP3です。ただし、OMA形式のAACファイルは「かんたん音楽転送」ソフトウェアの転送設定に関係なくATRAC132kbps固定で転送されます。

！ご注意

- ATRAC形式で取込んだ場合、USBメモリに転送できません。USBメモリに転送する場合は、あらかじめMP3形式で取込んでください。
- WM-PORT、上面、後面のUSB端子に接続した場合、①WM-PORT ②上面 ③後面の順に優先的に認識されます。
- 著作権保護がかかっている曲は取込めません。

* NAS-M700HDのみ

転送できる単位/フォーマット

対応機種については、http://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。

転送先	転送できる単位	転送可能なフォーマット				
		リニアPCM	ATRAC	MP3	WMA	着うたフル®
“ウォークマン”	フォルダ、アルバム、プレイリスト、曲	○	○	○	○	○*7
USBメモリ(MSC)	フォルダ、アルバム、プレイリスト、曲	○*2/*4	−	○*5	○*6	−
USBメモリ(MTP) *3	フォルダ、アルバム、プレイリスト、曲	○*2/*4	−	○*5	○*6	−
MD*/*1	アルバム、プレイリスト、曲	○*2	○	○	−	−
PSP	アルバム、プレイリスト、曲	○*2	○	○	−	−
携帯電話	携帯電話の機種、転送方式ごとに異なります。サポートページをご覧ください。					
au「LISMO」対応携帯電話	フォルダ、アルバム、プレイリスト、曲	○*8	○	○*8	○*8	○

*1 MD*に転送する場合、ATRAC形式、MP3形式、リニアPCM形式の音楽データは、設定したMD録音モード(LPステレオ録音、ステレオ録音)に自動変換して転送されます。
*2 リニアPCM形式のファイルは変換して転送できます。
*3 転送先のUSBメモリ(MTP)が対応しているフォーマットのみ転送が可能です。
*4 「USBメモリ」として転送するとWAV形式のファイルとなります。
*5 「USBメモリ」として転送するとMP3形式のファイルとなります。
*6 「USBメモリ」として転送するとWMA形式のファイルとなります。
*7 転送先の“ウォークマン”の機種によっては、転送するEZ「着うたフル®」がATRAC形式に変換されることがあります。
*8 ATRAC形式と設定したビットレートに変換されて転送されます。

!ご注意

- 転送回数が制限されている音楽データを転送するときは、あらかじめ転送できる回数を確認してください(46ページ)。
- WM-PORT、上面、後面のUSB端子に接続した場合、①WM-PORT ②上面 ③後面の順に優先的に認識されます。
- MP3、WMA、PCM形式のファイルは、USBメモリに書き出すことができます。詳しくは、46ページをご覧ください。

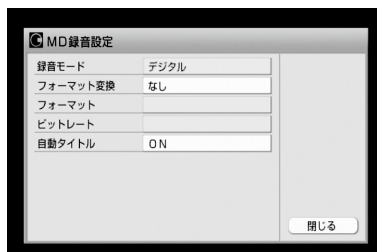
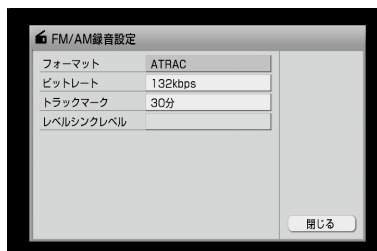
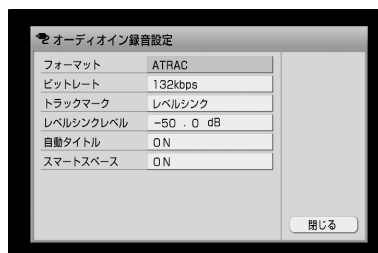
* NAS-M700HDのみ

録音/取込みの設定をする

CDやMD*、ラジオなどを録音する際に、トラックマークや自動タイトルなどの設定を変更することができます。録音先のフォルダを変更することもできます。

1 各ファンクションのオプションメニューで［設定］－［録音］を選ぶ。

CDファンクションの場合

MDファンクション*の場合

FM/AMファンクションの場合

オーディオインファンクションの場合

2 設定したい項目を選ぶ。

3 各項目を設定する。

プルダウンメニューから「設定項目一覧」の表にある各項目を選んで設定します。

4 ［閉じる］を選ぶ。

* NAS-M700HDのみ

設定項目一覧

フォーマット/ビットレート

フォーマットはHDDジュークボックスに録音する曲のデータ形式です。ビットレートは録音するときの情報量を表します。

フォーマット	ビットレート
◆ ATRAC	48kbps 64kbps 66kbps 105kbps ◆ 132kbps 256kbps
PCM	—
MP3	96kbps 128kbps 160kbps 192kbps 256kbps

（◆：お買い上げ時の設定）

モニター音再生（CDのみ）

CDをHDDジュークボックスに録音する場合、再生しながら録音するかどうかを選びます。録音が終了すると、モニター音再生も止まります。

◆ 再生	先頭曲から連続再生
イントロ再生	先頭曲から最終曲までの各曲をはじめの数秒再生（次の曲の録音が開始した時点で次の曲の再生が始まります。）
OFF	無音状態で録音する。 モニター音再生時よりも録音速度が速くなります。

（◆：お買い上げ時の設定）

スマートスペース（オーディオインのみ）

◆ ON	3秒以上無音状態が続いたとき、無音部分を3秒にして録音する。 無音部分が30秒以内のときは、再度音声入力を検知したときに録音を再開する。無音状態が30秒以上のときは、一時停止状態になり、手動で録音を再開する。無音状態が10分間続くと録音を停止する。無音部分のレベル検出はレベルシンクレベルの値で行う。
OFF	スマートスペース機能を使わない。

（◆：お買い上げ時の設定）

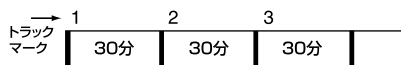
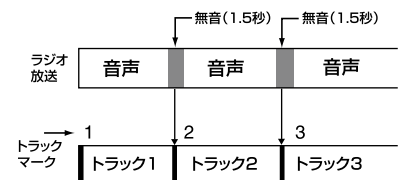
トラックマーク（オーディオイン、FM/AMのみ）

FM/AMやオーディオインから録音するとき、トラックマークが自動的につきます。トラックマークの間隔を設定します。オートの場合、ラジオの音楽とトークを判別し、トラックマークがつきます。

FM/AM	
10分	設定した時間単位でトラックマークがつく。
◆ 30分	
60分	
120分	
レベルシンク	1.5秒の無音があるとトラックマークがつく。
オート	ラジオの音楽とトークを判別する。

（◆：お買い上げ時の設定）

設定例

例：「30分」に設定

例：「レベルシンク」に設定

音楽とトークの自動判別について（ラジオ録音）

「トラックマーク」設定が「オート」のとき、音楽とトークを判別し、別々のトラックとして録音されます。

HDDジュークボックスを再生する際に、モードを変えると、トークのみ、音楽のみをまとめて再生することができます（54ページ）。
「オート」設定での音楽とトークの判別は完全なものではありません。場合によっては正しく判別できないことがあります。

ヒント

「トラックマーク」の設定が「オート」のときは、以下のようになります。

- HDDジュークボックスに録音したラジオの音声のタイトル名は、自動的に「[T]（トーク）または[M]（音楽） 日付 録音開始時刻 ラジオ局名（登録されていない場合は、バンドと周波数）」になります。
- 録音したものは、おまかせチャンネルのエアチェック(Talk)/(Music)チャンネルに分類されます。

オーディオイン

	10分	設定した時間単位でトラックマークがつく。
	30分	
	60分	
	120分	
◆	レベルシンク	1.5秒の無音があるとトラックマークがつく。

（◆：お買い上げ時の設定）

レベルシンクレベル（オーディオイン・FM/AMのみ）*1

入力信号の検出レベルが調節できます。

設定範囲：	雑音が多く、トラックマークがつきにくいときは設定レベルを上げるとトラックマークがつきやすくなる。お買い上げ時は–50.0dBに設定。
–96dB ~ 0dB ◆ –50.0dB	

（◆：お買い上げ時の設定）
*1 「トラックマーク」の設定が「レベルシンク」の場合のみ

自動タイトル（オーディオイン・MD*のみ）

◆	ON	曲の波形データをもとに曲を検索し、自動でタイトル情報を取得する*1。
	OFF	自動タイトルを使わない。

（◆：お買い上げ時の設定）

*1 オーディオインの録音では「トラックマーク」の設定が「レベルシンク」の場合のみ

* NAS-M700HDのみ

録音モード（MD*のみ）

◆	デジタル	設定されたフォーマット・ビットレートで高速録音。再生音は聞こえない。
	アナログ	設定されたフォーマット・ビットレートで、再生音を聞きながら等速録音。

（◆：お買い上げ時の設定）

フォーマット変換（MD*のみ）*1

	あり	設定されたフォーマット・ビットレートで録音。 録音時間がかかる場合があります。
◆	なし	曲の録音モードがLP2 ステレオ、ステレオ、モノラル時、ATRAC (132kbps)で録音。 曲の録音モードがLP4ステレオ時、ATRAC (66kbps)で録音。

（◆：お買い上げ時の設定）
*1 「録音モード」が「デジタル」の場合のみ

ご注意

- 録音設定は録音中および録音一時停止中には設定できません。
- スマートスペース、レベルシンクは、曲の長さが16秒以上の場合だけ有効になります。

録音先のフォルダを変更する

CDやMD*、ラジオ、外部機器から録音するときに、オプションメニューの[設定] – [録音先]から以下の項目を設定することができます。

◆	マイライブラリ	お買い上げ時の設定
	フォルダ	プルダウンメニューでフォルダの一覧が表示されます。 新しくフォルダを追加したい場合は新規フォルダを選ぶ。

ご注意

録音先設定は録音中および録音一時停止中には設定できません。

ヒント

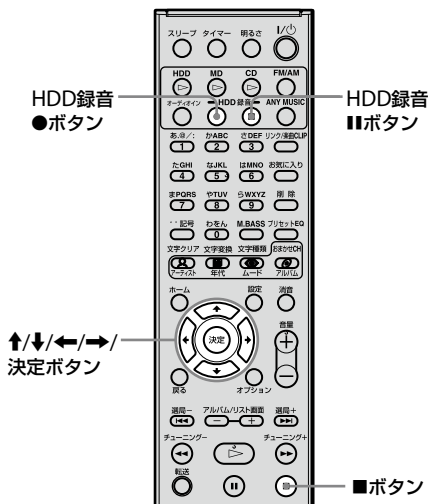
録音先設定はCD、MD*、FM/AM、オーディオインの各ファンクションで独立して設定できます。

HDDジュークボックスに取込む

CD/MD*/ラジオ/外部機器から録音したり、USBメモリやau「LISMO」対応携帯電話からファイルを取込みます。パソコンからファイルを取込んだり（40ページ）、インターネット接続して音楽データをダウンロードする（96ページ）こともできます。対応機種については、http://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。

CD/MD*/ラジオ/外部機器から録音する

1　録音の準備をする。

録音するファンクションを選びます。操作方法については下記をご覧ください。

- CDの場合：
  「CDを再生する」（59ページ）をご覧ください。
- MD*の場合：
  「MDを再生する」（62ページ）をご覧ください。
- ラジオの場合：
  「ラジオを聞く」（64ページ）をご覧ください。
- 外部機器の場合：
  「外部機器をつないで聞く」（66ページ）をご覧ください。

2　録音設定を変更したい場合は、オプションメニューで変更する（33 ～ 35ページ）。

ファンクションによって、設定できる項目は異なります。

3　HDD録音●ボタンを押す。

録音が始まります。
CDの場合、録音が終わると「録音が完了しました」と表示され、自動的にCDのメイン画面に戻ります。
MD*の場合、「自動タイトル」設定が「ON」のとき、録音終了後自動でタイトル名を取得したあと、自動的にMDのメイン画面に戻ります。
外部機器の場合、「自動タイトル」設定が「ON」のときおよび「トラックマーク」設定が「レベルシンク」のとき、録音終了後自動でタイトル名を取得したあと、自動的にメイン画面に戻ります。

録音を途中で止めるには

■ボタンを押します。

録音を一時停止するには（ラジオ、外部機器のみ）

HDD録音❚❚ボタンを押します。

* NAS-M700HDのみ

最新のタイトル情報取得について

インターネットにつないでいない場合、最新のタイトル情報の検索/取得はできません。ネットワーク接続について詳しくは、85ページをご覧ください。

！ご注意

CDからの録音時

CDの再生時に比べ、CD録音時に振動や音が大きくなることがありますが、高速回転でHDDジュークボックスに録音するためで、故障ではありません。また、CDの種類によっては、振動や音の大きさが異なる場合があります。

MD*からの録音時

- 録音する曲を選んだり、途中から録音することはできません。最初の曲から録音されます。
- アナログ録音時、8秒以下の曲は、次の曲とつながって1つの曲として録音されます。
- 「録音モード」設定が「デジタル」のとき、録音を途中で止めると、中止の一つ前の曲までが録音されます。
- PCや本機などから転送された曲が含まれるMD*をHDDジュークボックスに録音すると、自動的にアナログ録音になります。

ヒント

- 本機はお買い上げ時に「自動タイトル」設定が「ON」になっています。自動タイトル取得を使わない場合は、「OFF」に設定してください。MD*に記録されているディスク名と曲名がそのままHDDジュークボックスに記録されます。
- 2時間を超える曲が含まれるMD*は、自動的にアナログ録音になります。
- ラジオまたは外部機器からの録音中にHDD録音●ボタンを押すと、トラックマークがつきます（ラジオの場合は「トラックマーク」の設定が「オート」以外のとき）。トラックマークをつける間隔は、最小16秒です。
- 外部機器からの録音時、「自動タイトル」設定がOFFのときは、日付・時刻などが記録されます。

曲を選んで録音するには（CD）

1 CDファンクションにする。

2 CDを入れる。

3 録音設定を変更したい場合は、オプションメニューで変更する（33 ～ 35ページ）。

ファンクションによって、設定できる項目は異なります。

4 CDのメイン画面でHDD録音❚❚ボタンを押す。

チェックマーク ✔ のついている曲が録音されます。

5 録音する曲を選ぶ。

録音しない曲は決定ボタンを押して、チェックマークをはずします。

6 HDD録音●ボタンを押す。

録音が始まります。

ヒント

すべての曲を選ぶには、オプションメニューで[トラック選択]－[全選択]を選びます。また、チェックマークをすべてはずすには、[トラック選択]－[全解除]を選びます。

USBメモリや“ウォークマン”から取込む

USBメモリや“ウォークマン”などに保存されている曲を本機のHDDジュークボックスに取込むことができます。

！ご注意

- “ウォークマン”やUSBで接続できるポータブル機器からの取込み中は、WM-PORTから“ウォークマン”を抜いたり、USB端子からUSBケーブルを抜いたりしないでください。本機および“ウォークマン”やUSBで接続できるポータブル機器が正しく動作しなくなることがあります。
- 取込めるファイル形式はMP3形式またはOMA形式（著作権保護なし）、WMA形式（著作権保護なし）、WAV形式、AAC形式（著作権保護なし、変換して取込み）のみです。

1 ホームメニューで[HDDジュークボックス]を選ぶ。

2 USBメモリまたは“ウォークマン”をUSB端子につなぐ。

つなぐUSBメモリまたは“ウォークマン”の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ヒント

WM-PORT搭載の“ウォークマン”は、本体上面のWM-PORTに差し込むことができます。

* NAS-M700HDのみ

3 オプションメニューで[USBメモリ]－[ファイル取込み]を選ぶ。

WM-PORT、上面、後面のUSB端子に接続した場合、①WM-PORT ②上面 ③後面の順に優先的に認識されます。

目的の機器がみつからない場合は、優先順位の高いUSB端子に接続された機器をはずしてください。メディア選択画面が表示された場合はメディアを選んでください。(接続したUSBメモリにメディアが1つしかない場合はこの画面は表示されません。)

4 取込みたいアルバムを選ぶ。

選択したアルバムにチェックマークが入ります。

選択後、もう一度決定ボタンを押すとチェックをはずすことができます。

5 [実行]を選ぶ。

AAC形式のファイル取込み時は、[設定]を選んで、設定画面でフォーマットやビットレートを変更することができます。

!ご注意

一度に取込めるのは、最大10,000曲です(126ページ)。

au「LISMO」対応携帯電話から取込む

au「LISMO」サービスに対応した携帯電話でダウンロードして保存されているEZ「着うたフル®」*を本機に取込むことができます。

au「LISMO」対応携帯電話を本機につないで初めてEZ「着うたフル®」を取込む場合は、機器登録が必要です。また、au「LISMO」対応携帯電話のロックNo.を変更した場合など、機器情報の変更が必要な場合も再度機器登録が必要です。

* 一部楽曲が対応していない場合があります。

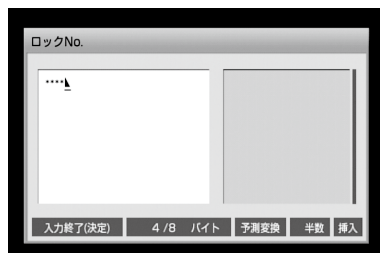
!ご注意

- au「LISMO」対応携帯電話からの取込み中にUSBケーブルやau「LISMO」対応携帯電話の外部メモリを抜かないでください。本機およびau「LISMO」対応携帯電話が正しく動作しなくなることがあります。
- 取込み前に、au「LISMO」対応携帯電話の電池残量が充分にあることを確認してください。転送の失敗、音楽データの破損などについては保証いたしませんので、ご注意ください。
- 本機に取込めるEZ「着うたフル®」は、au「LISMO」対応携帯電話で直接購入したもののみです。
- 本機にEZ「着うたフル®」を取込んだ後も、au「LISMO」対応携帯電話内のEZ「着うたフル®」は削除されません。
- 以下のものは取込めません。
  - 本機に取込んでいるEZ「着うたフル®」
  - EZ「着うたフル®」以外の音楽データ(“着うた®”など)
  - au「LISMO」対応携帯電話のプレイリスト

機器登録するには

1 機器登録画面が表示されたら、「ロックNo.(4 ～ 8桁)」欄を選ぶ。

2 ロックNo.(半角数字4 ～ 8桁)を入力、決定ボタンを押す。

入力のしかたについては81ページをご覧ください。

機器登録画面に戻ります。

3 [機器登録]を選ぶ。

これで機器登録が完了しました。

!ご注意

ロックNo.を連続して5回間違えて入力すると、エラーメッセージが表示され、HDDジュークボックスファンクションのメイン画面に戻ります。手順1から操作し直してください。

機器登録を解除するには

111ページをご覧ください。

ヒント

- 本機に登録できるau「LISMO」対応携帯電話は10台までです。また、au「LISMO」対応携帯電話に登録できる接続機器は本機を含め3台までです。
- 携帯電話は電話番号で登録されるため、au「LISMO」対応携帯電話を買い換えても電話番号が変わらなければ、再度、機器登録を行うことで以前と同様に使うことができます。

!ご注意

以下の場合は、一度機器登録を行っていても再度機器登録が必要です。

- au「LISMO」対応携帯電話のロックNo.を変更した。
- au「LISMO」対応携帯電話の機種変更をした。
- au「LISMO」関連情報の初期化をした(111ページ)
- 本機のシステムを初期化した。
- 機器登録を解除した(111ページ)。

EZ「着うたフル®」を取込むには

1 au「LISMO」対応携帯電話のUSB設定を変更する。

au「LISMO」対応携帯電話の[機能(設定)]－[ユーザー補助]－[データ通信/USB]でUSB設定を「高速データ転送モード」にしてください。詳しくは、au「LISMO」対応携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

!ご注意

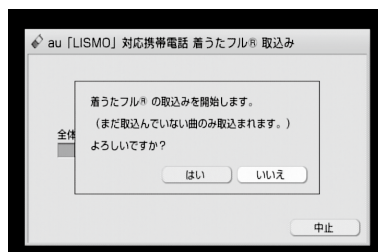
- au「LISMO」対応携帯電話がロック中になっている場合は接続できません。ロックを解除してください。オートロック機能をONにしていると、本機と接続中でもロックがかかる場合があります。ロックがかからないようにするには、オートロック機能をOFFにしてください。詳しくは、au「LISMO」対応携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- au「LISMO」対応携帯電話のUSB設定を変更するときは、USBケーブルを抜いてください。

2 au「LISMO」対応携帯電話を待受画面にして、本機とUSBケーブルでつなぐ。

!ご注意

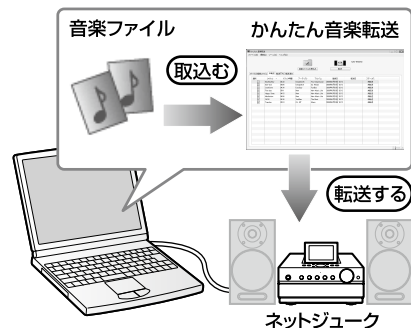
- au「LISMO」対応携帯電話からの取込み中にUSBケーブルやau「LISMO」対応携帯電話の外部メモリを抜かないでください。本機およびau「LISMO」対応携帯電話が正しく動作しなくなることがあります。
- 取込み前に、au「LISMO」対応携帯電話の電池残量が充分にあることを確認してください。転送の失敗、音楽データの破損などについては保証いたしませんので、ご注意ください。

3 HDDジュークボックスファンクションのオプションメニューで[au「LISMO」]－[着うたフル®取込み]を選ぶ。

機器登録画面が表示されたら、機器登録を行ってください。
詳しくは「機器登録するには」(38ページ)をご覧ください。

4 [はい]を選ぶ。

取込み中は、進行状況が表示されます。

パソコンから取込む

パソコンに保存している音楽ファイルを「かんたん音楽転送」ソフトウェアを使って本機に取込むことができます。

以下の流れに従って、操作します。

1 「かんたん音楽転送」ソフトウェアをパソコンにインストールする。

2 パソコン内の音楽ファイルを「かんたん音楽転送」ソフトウェアに取込む。

3 「かんたん音楽転送」ソフトウェアに取込んだ音楽ファイルを本機に転送する。

「かんたん音楽転送」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「かんたん音楽転送」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
「かんたん音楽転送」ソフトウェアのヘルプは、以下のいずれかの方法で表示できます。

- パソコンの「スタート」メニューから[すべてのプログラム]－[かんたん音楽転送]－[かんたん音楽転送のヘルプ]を選ぶ。
- 「かんたん音楽転送」ソフトウェアの[ヘルプ]メニューから[かんたん音楽転送のヘルプ]を選ぶ。

!ご注意

本機に取込めるファイル形式はMP3形式またはOMA形式（著作権保護なし）、WMA形式（著作権保護なし）、WAV形式、AAC形式（著作権保護なし、変換して取込み）のみです。ただし、上記のフォーマットの音楽ファイルであっても、ファイルによっては本機に取込めない場合があります。

「かんたん音楽転送」ソフトウェアをパソコンにインストールするには

インストール前にご確認ください

本ソフトウェアを使用するために必要なパソコンの動作環境については143ページをご覧ください。

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する。

Administrator権限、またはコンピューターの管理者でログオンしてください。

2 本機に付属の「かんたん音楽転送」ソフトウェアCD-ROMをパソコンのドライブに入れる。

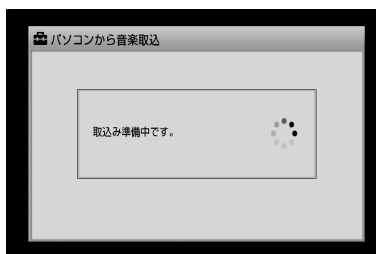
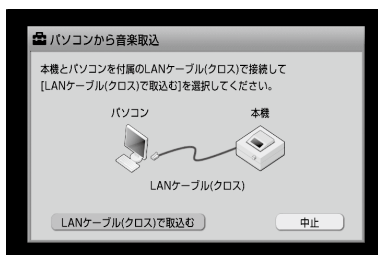
インストーラーが自動的に起動し、インストール画面が表示されます。

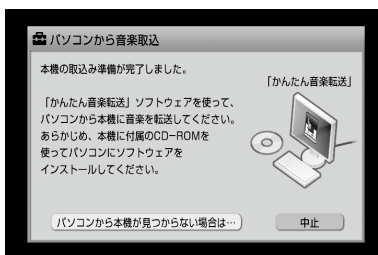
3 画面の注意事項を読んで、指示に従ってインストールする。

インストールが完了したら、CD-ROMを取り出してください。

本機への取込みを準備するには

1 設定メニューで[パソコンから音楽取込]を選ぶ。

取込み準備を開始します。

2 LANケーブル接続画面が表示されたら、本機のネットワーク端子とパソコンのネットワーク端子を付属のLANケーブル(クロス)でつないでから、[LANケーブル(クロス)で取込む]を選ぶ。

インターネットに接続できている場合や、ホームネットワーク機能が使える場合は、LANケーブル接続画面は表示されません。

これで本機の取込み準備が完了しました。

パソコン内の音楽ファイルを「かんたん音楽転送」ソフトウェアに取込むには

以下の操作をパソコンで行います。

1 「スタート」メニューから[すべてのプログラム]－[かんたん音楽転送]－[かんたん音楽転送]を選んでソフトウェアを起動する。

2 [音楽ファイルの取込み]をクリックする。

取込んでいない音楽ファイルを「かんたん音楽転送」ソフトウェアに取込みます。

「かんたん音楽転送」ソフトウェアに取込んだ音楽ファイルを本機に転送するには

以下の操作をパソコンで行います。

1 [ツール]メニューから[転送先の指定]をクリックする。

「転送先の指定」画面が表示されます。
[最新の状態に更新]を選ぶと、転送先を検索して最新の状態に更新します。

2 「転送先」のリストから、本機をクリックして選び、[OK]をクリックする。

本機が転送先に指定されます。

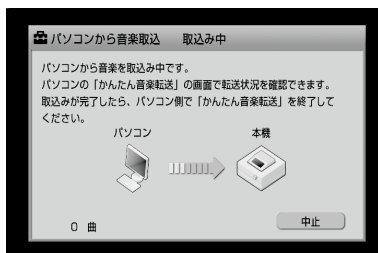
!ご注意

パソコンのセキュリティソフトの設定によっては、転送先が見つからない場合があります。

3 [未転送]タブをクリックし、転送したい音楽ファイルのチェックボックスにチェックが付いているかを確認する。

転送したくない音楽ファイルは、チェックボックスをクリックしてチェックをはずします。
再度クリックすると、チェックが付きます。

4 [転送]をクリックする。

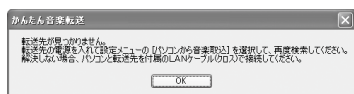
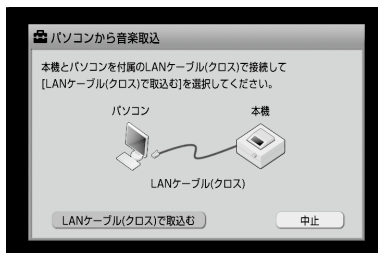
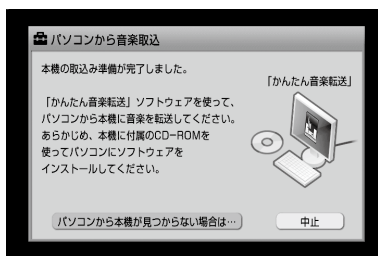
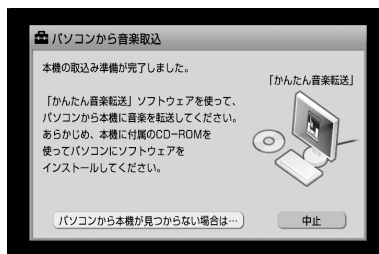
転送開始のメッセージが表示され、手順3で選んだ音楽ファイルの転送が始まります。
転送状況は、本機の「パソコンから音楽取込」の取込み中画面でも確認できます。

転送が終了すると、パソコンの画面に転送結果が表示されます。

パソコン側で「かんたん音楽転送」ソフトウェアを終了すると、自動的に本機の「パソコンから音楽取込」の取込み中画面が閉じます。

！ご注意

本機とパソコンを無線LAN接続している場合、再度実行しても転送できないときは、本機とパソコンを付属のLANケーブル（クロス）でつないでから音楽ファイルを転送してください。

「かんたん音楽転送」ソフトウェアで「転送先が見つかりません」と表示されたら

パソコンで以下のメッセージが表示された場合は、本機のネットワーク端子とパソコンのネットワーク端子を付属のLANケーブル（クロス）でつなぐ必要があります。

1 取込み準備完了画面の［パソコンから本機が見つからない場合は･･･］を選ぶ。

2 LANケーブル接続画面が表示されたら、本機のネットワーク端子とパソコンのネットワーク端子を付属のLANケーブル（クロス）でつないでから、［LANケーブル（クロス）で取込む］を選ぶ。

3 取込み準備完了画面が表示されたら、「かんたん音楽転送」ソフトウェアに取込んだ音楽ファイルを本機に転送する。

詳しくは、「「かんたん音楽転送」ソフトウェアに取込んだ音楽ファイルを本機に転送するには」（41ページ）をご覧ください。

！ご注意

パソコンの設定を変更する場合、現在の設定をメモなどに記録してください。パソコンの設定を元に戻さない場合、以前のネットワークに接続できなくなる場合があります。

「かんたん音楽転送」ソフトウェアをアンインストールするには

パソコンのドライブに「かんたん音楽転送」ソフトウェアCD-ROMを入れ、メッセージに従って、アンインストールしてください。
または、パソコンの「スタート」メニューで［コントロールパネル］を選んでから、［プログラムの追加と削除］（Windows XP）または［プログラムと機能］（Windows Vista）をダブルクリックし、一覧から「かんたん音楽転送」を選び、［削除］をクリックする。

HDDジュークボックスから転送する

本機のHDDジュークボックスに保存されている音楽データを、MD*や"ウォークマン"、au「LISMO」対応携帯電話などのポータブル機器に転送できます。対応機種については、http://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。

- **EZ「着うたフル®」の転送**
  EZ「着うたフル®」をどのau「LISMO」対応携帯電話に転送できるかは、EZ「着うたフル®」の詳細情報画面で確認できます。詳しくは、「アルバムやグループ、曲の情報を見る」をご覧ください(52ページ)。
  1つのau「LISMO」対応携帯電話から取込んだEZ「着うたフル®」のみを自動で選択して、取込み元のau「LISMO」対応携帯電話に戻すこともできます。詳しくは、「取込み元へEZ「着うたフル®」を戻すには」(111ページ)をご覧ください。
- **"エニーミュージック"からダウンロードした音楽データの転送**
  "エニーミュージック"からダウンロードした転送回数制限のある音楽データを初めてau「LISMO」対応携帯電話に転送するときは、残り転送回数が1回減ります。ただし、一度転送した音楽データは同じau「LISMO」対応携帯電話に何度転送しても残り転送回数は減りません。転送回数は、音楽データの詳細情報画面で確認できます。詳しくは、「アルバムやグループ、曲の情報を見る」をご覧ください(52ページ)。

!ご注意

- ポータブル機器にACパワーアダプターが付属している場合は、ACパワーアダプターをつないで家庭用電源でお使いになることをおすすめします。
  電池で使う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。電池の残量不足による不具合や、転送の失敗、音楽データの破壊などについては保証いたしませんので、ご注意ください。
- "ウォークマン"やUSBで接続できるポータブル機器に転送中は、WM-PORTから"ウォークマン"を抜いたり、USB端子からUSBケーブルを抜いたりしないでください。本機および"ウォークマン"やUSBで接続できるポータブル機器が正しく動作しなくなることがあります。
- MD*に転送する場合、録音モードをステレオ録音にした場合やATRAC形式、MP3形式の曲を自動変換して転送する場合は、転送に時間がかかります。
- "ウォークマン"に転送できるEZ「着うたフル®」は、取込み元以外への転送を許可されたEZ「着うたフル®」のみです。
- au「LISMO」対応携帯電話に転送できるEZ「着うたフル®」は、そのau「LISMO」対応携帯電話から取込んだEZ「着うたフル®」のみです。他のau「LISMO」対応携帯電話から本機に取込んだEZ「着うたフル®」を転送することはできません。
- プレイリストの中に31曲以上登録されている場合は、31曲目以降の曲はau「LISMO」対応携帯電話に転送されません。
- 一部のEZ「着うたフル®」は"ウォークマン"に転送できない場合があります。その場合は、トラック詳細情報を確認してください。(「アルバムやグループ、曲の情報を見る」(52ページ)。)
- 転送先の"ウォークマン"の機種によっては、転送するEZ「着うたフル®」がATRAC形式に変換されることがあります。

ヒント

MD*に転送するとき、グループ内に入っている曲は、グループ設定が解除されて、曲単位で転送されます。

"ウォークマン"などに転送した曲を削除するときのご注意

"ウォークマン"などに転送した曲を削除するときは、本機と接続して削除してください(50ページ)。

* NAS-M700HDのみ

“ウォークマン”用のアタッチメントを取り付ける

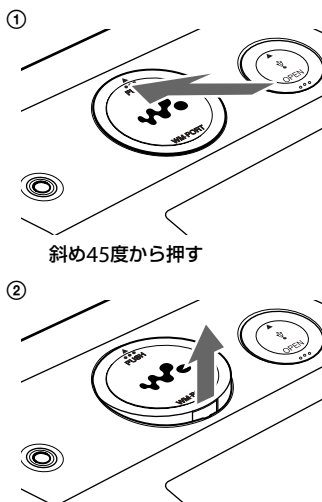
本体上面に“ウォークマン”用のアタッチメントを取り付けて、WM-PORT搭載の“ウォークマン”を挿して使うことができます。

NAS-D500HDの白モデルに付属している“ウォークマン”用アタッチメントの対応機種
NW-S730Fシリーズ、NW-S630Fシリーズ

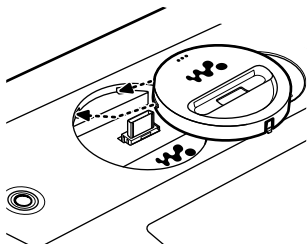
1 本体の“ウォークマン”アタッチメント取り付け部（WM-PORT）のPUSH部分を押して取りはずす。

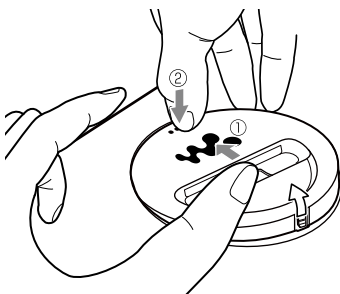
①

斜め45度から押す

②

2 “ウォークマン”用のアタッチメントを下図のように装着する。

お使いの“ウォークマン”によって、アタッチメントの形状が異なる場合があります。

WM-PORTの穴2か所にアタッチメントのツメを合わせる。

ヒント

アタッチメントを取り外すには、イラストのようにアタッチメントの凹み部分を背面側に強く押しながら①、マーク（○ ○ ○）の位置を上から強く押します②。

“ウォークマン”/MD*/au「LISMO」対応携帯電話/ポータブル機器に転送する

au「LISMO」対応携帯電話を本機につないで初めて音楽データを転送する場合は、機器登録（38ページ）が必要です。また、au「LISMO」対応携帯電話のロックNo.を変更した場合など、機器情報の変更が必要な場合も再度機器登録が必要です。

1 転送先を準備する。

次のいずれかの準備をします。

- MD*を入れる。
- WM-PORT搭載の“ウォークマン”を本体上面のWM-PORTに差し込む。
- USB接続できる“ウォークマン”やポータブル機器、au「LISMO」対応携帯電話を本体上面または後面のUSB端子に接続する。
  - au「LISMO」対応携帯電話を接続するときは、au「LISMO」対応携帯電話のUSB設定を変更して待受画面で接続します。詳しくは、「au「LISMO」対応携帯電話から取込む」（38ページ）をご覧ください。
  - ポータブル機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

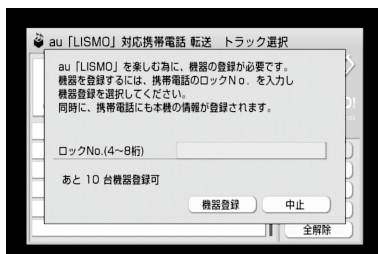
* NAS-M700HDのみ

2 HDDジュークボックスファンクションを選ぶ。

3 転送したいアルバムまたはプレイリスト、グループ、曲などを表示させる。

4 オプションメニューで[転送]を選ぶ。

転送可能な機器として、USB機器またはMD*のいずれか1つのみが接続されているときは、転送ボタンを押しても、手順5に進むことができます。

転送可能なメディア･機器が複数接続されているときは、転送先を選ぶ画面が表示されます。
このとき、①WM-PORT ②上面 ③後面の順に優先的に認識されるので、"ウォークマン"およびUSB接続端子に接続された機器は1つしか表示されません。

au「LISMO」対応携帯電話に転送するとき、機器登録画面が表示されたら、機器登録を行ってください。
詳しくは「機器登録するには」(38ページ)をご覧ください。

ヒント
手順4で転送ボタンを押した場合、選んだ設定がその転送機器ごとに記憶され、次回以降転送先が同じ場合は、転送先を選択する必要はありません。

5 転送したいアルバムまたはプレイリスト、グループ、曲などを選択し、[実行]を選ぶ。または転送ボタンを押す。

転送時の設定を変更(46ページ)した場合は、設定変更後に転送対象を選んでください。

転送を途中で止めるには

戻るボタンを押して、転送中止確認メッセージで「はい」を選びます。ただし、転送が止まるまでに時間がかかることがあります。

ヒント
- "ウォークマン"の削除予定リストに曲が登録されていると、本機および"ウォークマン"に確認メッセージが表示されます。
- 本機のプレイリストを"ウォークマン"やUSBメモリ(MTP)、au「LISMO」対応携帯電話に転送すると、"ウォークマン"やUSBメモリ(MTP)、au「LISMO」対応携帯電話内でプレイリストとして認識されます。

転送順序についてのご注意(au「LISMO」対応携帯電話への転送時)

本機のトラック選択画面での表示とは逆の曲順でau「LISMO」対応携帯電話に転送します。これはau「LISMO」対応携帯電話の全曲一覧が最後に転送された曲を一番上に表示するためです。結果的に本機と同じ曲順で曲が表示されます。
au「LISMO」対応携帯電話の容量を超えて転送を行う場合は、トラック選択画面の曲番下位の曲から順に転送対象から外されます。

* NAS-M700HDのみ

転送できる回数について

オプションメニューで［表示］－［トラック情報］を選び、［転送回数制限］を確認します（52ページ）。
転送トラック選択画面で曲番の前に表示されるアイコンでも、転送できる回数を確認できます。

アイコン	アイコンの意味
	転送回数に制限なし（ATRAC形式）
3-	あと3回以上転送可能（ATRAC形式）
2	あと2回転送可能（ATRAC形式）
1	あと1回転送可能（ATRAC形式）
0	転送不可能（ATRAC形式）
	転送回数に制限なし（MP3形式）
	転送回数に制限なし（リニアPCM形式）
	転送回数は詳細情報画面で確認できます。（EZ「着うたフル®」）
	転送回数に制限なし（WMA形式）

USBメモリに書き出す

1 USBメモリをUSB端子につなぐ。

つなぐUSBメモリの取扱説明書もあわせてご覧ください。

2 ホームメニューで［HDDジュークボックス］を選ぶ。

3 転送したいアルバムまたはプレイリスト、グループ、曲などを表示させる。

4 オプションメニューで［USBメモリ］－［ファイル書出し］を選ぶ。

メディア選択画面が表示された場合はメディアを選んでください。（接続したUSBメモリにメディアが1つしかない場合はこの画面は表示されません。）

5 転送したいアルバムまたはプレイリスト、グループ、曲などを選択し、［実行］を選ぶ。または転送ボタンを押す。

転送時の設定を変更（このページ）した場合は、設定変更後に転送対象を選んでください。

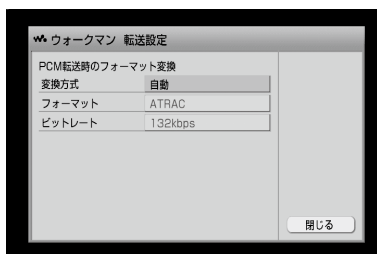
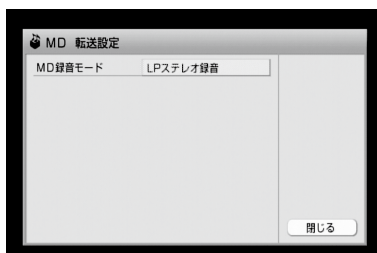
転送時の設定を変更する

転送先グループ/フォルダの設定や、リニアPCM形式の音楽データの変換転送設定などを変更することができます。
MD*に転送する場合、リニアPCM形式の音楽データは自動的にATRAC形式に変換されます。

1 転送対象選択画面を表示させる。

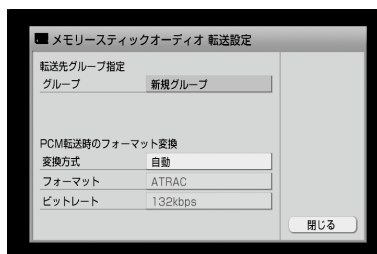
* NAS-M700HDのみ

2 [設定]を選び、設定画面で設定を変更する。

■ “ウォークマン”に転送する場合

■ MD*に転送する場合

[MD録音モード]を選び、プルダウンメニューから録音モードを選ぶ。

◆	LPステレオ録音	転送する曲がATRAC形式でビットレートが66kbpsの場合はLP4ステレオで録音されます。それ以外は、LP2ステレオで録音されます。再生するには、MDLPに対応したプレーヤーが必要です。
	ステレオ録音	LPステレオ(MDLP)に対応していないMDプレーヤーでも再生できます。

(◆:お買い上げ時の設定)

■ 携帯電話の“メモリースティック”/PSPに転送する場合

① [転送先グループ]を選び、プルダウンメニューから転送先グループを選ぶ。

◆	新規グループ	選ばれている曲を、新しくグループを作って転送します。
	転送先グループ(既存グループ)	選ばれている曲を、既にあるグループに転送します。

(◆:お買い上げ時の設定)

② リニアPCM形式の曲を転送する場合は、[変換方式]を選び、プルダウンメニューで[自動]または[フォーマット指定]を選ぶ。

◆	自動	接続された機器で再生できるフォーマットを、本機が自動で選んで転送します。
	フォーマット指定	手順③でお好みのフォーマットとビットレートを選んで転送します。

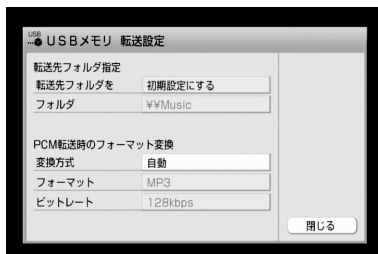
(◆:お買い上げ時の設定)

③ 手順②で[フォーマット指定]を選んだ場合は、[フォーマット]と[ビットレート]のプルダウンメニューからお好みのフォーマットとビットレートを選ぶ。

!ご注意

ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ株式会社製の携帯電話SO906iをMTPモードで接続した場合は、WMA形式の曲のみ転送可能なため、リニアPCM形式の曲を変換して転送することはできません。

* NAS-M700HDのみ

■ 携帯電話のメモリに転送する場合

① [転送先フォルダを]を選び、プルダウンメニューから転送先フォルダを選ぶ。

◆ 初期設定にする	転送先の音楽データフォルダに保存されます*1
rootに設定する	転送先のルートに保存されます。
指定する	転送先のフォルダ名を変えるときに入力してください。

(◆:お買い上げ時の設定)

*1 機種によっては、音楽データを保存できても再生できないことがあります。

② リニアPCM形式の曲を転送する場合は、[変換方式]を選び、プルダウンメニューで[自動]または[フォーマット指定]を選ぶ。

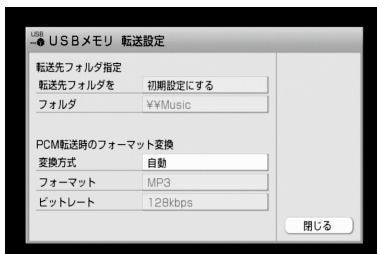
◆ 自動	接続された機器で再生できるフォーマットを、本機が自動で選んで転送します。
フォーマット指定	手順③でお好みのフォーマットとビットレートを選んで転送します。

(◆:お買い上げ時の設定)

③ 手順②で[フォーマット指定]を選んだ場合は、[フォーマット]と[ビットレート]のプルダウンメニューからお好みのフォーマットとビットレートを選ぶ。

!ご注意

転送先の携帯電話で音楽データが再生できない場合は、手順①で携帯電話が指定する転送先フォルダに設定してから転送しなおしてください。

■ USBメモリに転送する場合

① [転送先フォルダを]を選び、プルダウンメニューから転送先フォルダを選ぶ。

◆ 初期設定にする	「¥¥Music」に保存されます。
rootに設定する	USBメモリのルートに保存されます。
指定する	フォルダ名を入力してください。

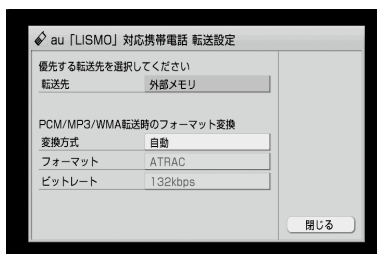
(◆:お買い上げ時の設定)

② リニアPCM形式の曲を転送する場合は、[変換方式]を選び、プルダウンメニューで[自動]または[フォーマット指定]を選ぶ。

◆ 自動	接続された機器で再生できるフォーマットを、本機が自動で選んで転送します。
フォーマット指定	手順③でお好みのフォーマットとビットレートを選んで転送します。

(◆:お買い上げ時の設定)

③ 手順②で[フォーマット指定]を選んだ場合は、[フォーマット]と[ビットレート]のプルダウンメニューからお好みのフォーマットとビットレートを選ぶ。

■ au「LISMO」対応携帯電話に転送する場合

① [転送先]を選び、プルダウンメニューから転送先を選ぶ。

◆ 外部メモリ	メモリカードなどの外部メモリに優先して音楽データを転送します。外部メモリがない場合や外部メモリの空き容量がない場合は内蔵メモリに転送されます。
内蔵メモリ	内蔵メモリに優先して音楽データを転送します。内蔵メモリの空き容量が足りない場合は外部メモリに転送されます。

（◆：お買い上げ時の設定）

② リニアPCM、MP3、WMA 形式の曲を転送する場合は、[変換方式]を選び、プルダウンメニューから変換方法を選ぶ。

◆ 自動	接続された機器で再生できるフォーマットを、本機が自動で選んで転送します。
フォーマット指定	ATRAC形式で転送します。（手順③でお好みのビットレートを選ぶことができます。）

（◆：お買い上げ時の設定）

③ 手順②で[フォーマット指定]を選んだ場合は、[ビットレート]のプルダウンメニューからお好みのビットレートを選ぶ。

3 [閉じる]を選ぶ。

転送先の曲/プレイリストを削除する

MD*やポータブル機器、au「LISMO」対応携帯電話などの曲を、本機で削除することができます。
削除すると、転送回数制限のある曲の場合、本機から転送できる回数は元に戻ります（MD、ポータブル機器のみ）。
“ウォークマン”やUSBメモリ（MTP）、au「LISMO」対応携帯電話のプレイリストを削除することもできます。削除するとプレイリストは消去されますが、プレイリスト内の音楽データは残ります。

!ご注意

- 削除が終了するまでは、機器やディスクなどを抜いたり、本機の電源を切らないでください。
- 本機と接続したau「LISMO」対応携帯電話から削除できるものは以下の通りです。
  - EZ「着うたフル®」
  - 本機から転送した曲
  - 本機から転送したり、au「LISMO」対応携帯電話側で作成したプレイリスト

1 曲を削除したい“ウォークマン”やポータブル機器、au「LISMO」対応携帯電話をつなぐ。またはMD*を挿入する。

au「LISMO」対応携帯電話を接続するときは、au「LISMO」対応携帯電話のUSB設定を変更して待受画面で接続します。詳しくは、「au「LISMO」対応携帯電話から取込む」（38ページ）をご覧ください。

2 HDDジュークボックスファンクションのオプションメニューで[転送先から削除]を選ぶ。

機器が複数接続されているときは、削除先の機器を選ぶ画面が表示されます。
au「LISMO」対応携帯電話を接続している場合は、機器登録画面が表示されたら、機器登録を行ってください。詳しくは「機器登録するには」（38ページ）をご覧ください。

3 削除する対象（グループ、曲など）を選ぶ。

4 [削除]を選ぶ。

5 画面の内容を確認し、決定する。

MD*の場合、曲を削除するか、HDDジュークボックスに戻すか選ぶことができます。
本機から転送した曲の場合は、[HDDジュークボックスに戻す]を選んでください。
[グループのみ削除する]を選んだ場合は、グループ内の曲は削除せずに、グループ設定のみが解除されます。

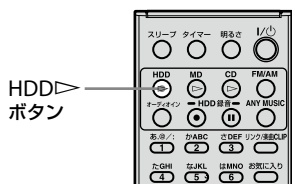
!ご注意

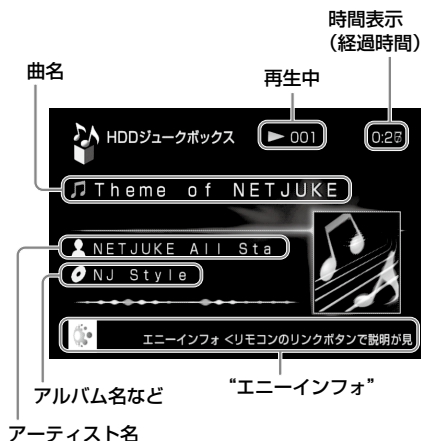
“ウォークマン”の削除予定リストに登録されていると、本機および“ウォークマン”に確認メッセージが表示されます。

ヒント

本機につないだ“ウォークマン”や携帯電話、PSPのメモリースティックオーディオデータを初期化することもできます。削除画面で[初期化]を選びます。

* NAS-M700HDのみ

HDDジュークボックスを再生する

1 HDD▷ボタンを押す。

曲の再生が始まります。
最後に再生/録音した曲が再生されます。

ヒント

- "エニーインフォ"は、"エニーミュージック"から提供される最新おすすめ情報です。ダウンロードできる音楽やFMオンエア情報などが表示されます。リンクボタンを押すと、関連する"エニーミュージック"のページが表示されます。詳しくは「"エニーミュージック"を使う」（95ページ）をご覧ください。
- インターネットに接続していない場合は、メイン画面に「ネット接続でエニーインフォが見られます」と表示されます。

EZ「着うたフル®」を再生するには

1 **HDDジュークボックスファンクションにする。**

2 **←ボタンを繰り返し押して[モード]階層にし、モードの種類を選ぶ。**
アルバムモード、アーティストモード、ジャンルモードでは、取込んだEZ「着うたフル®」の情報を元に管理します。
録音ソースモードでは、「着うたフル®取込み」内で管理されます。
フォルダモードでは、1回の取込みで1つのグループが作成されます。

3 **EZ「着うたフル®」のアルバムまたは曲を選ぶ。**

EZ「着うたフル®」アイコン
トラック一覧で表示されます。

ご注意

EZ「着うたフル®」のアイコンは再生画面では表示されません。

その他の操作

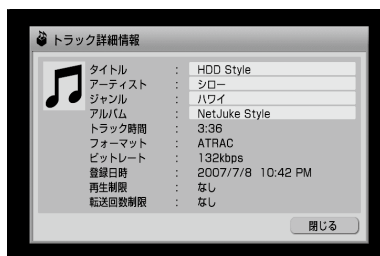
こんなときは	操作
再生を止める	■ボタンを押す。
一時停止する	リモコンの❚❚ボタンを押す。もう一度押すか、リモコンの▷ボタンを押すと、停止した場所から再生が始まります。
曲中の聞きたいところを探す	再生中にリモコンの◀◀/▶▶ボタンを押し続け、聞きたいところで指を離す。
前後の曲を選ぶ	再生中にリモコンの⏮/⏭ボタンで曲を選ぶ。
曲を選んで再生する	⬆/⬇/⬅/➡ボタンで曲を選ぶ。または曲番の数字をリモコンの数字ボタンで押したあと、決定ボタンを押す。 リスト画面で⬆/⬇ボタンを押し続けると高速でスクロールします。 また、リモコンのアルバム＋/－ボタンを押すと画面単位でスクロールします。
アルバムを選ぶ	メイン画面でリモコンのアルバム＋またはアルバム－ボタンでアルバムを選ぶ。
時間表示を切り換える	再生中にオプションメニューで[表示]－[時間表示]－[経過時間]または[残り時間]を選ぶ。

！ご注意

トラック階層以外の階層では、リモコンの数字ボタンを使って曲番を選ぶことはできません。

アルバムやグループ、曲の情報を見る

1 情報を見たいアルバムやグループまたは曲を選ぶ。

2 オプションメニューで[表示]－[アルバム情報]または[グループ情報]、[トラック情報]を選ぶ。

タイトルまたはアーティスト、アルバム、ジャンルの全文を見るには、[タイトル]または[アーティスト]、[ジャンル]、[アルバム]を選びます。

EZ「着うたフル®」の場合、[詳細情報]を選ぶと、以下の詳細情報が確認できます。

- 「転送可能なau「LISMO」対応携帯電話」：取込み元の携帯電話番号（中４桁非表示）
- 「転送可能な機器」：転送する機器に制限がある場合に表示されます。
- 「転送回数制限」："ウォークマン"に転送できる回数
  - 「0回」："ウォークマン"に転送できません。
  - 「1 ～ 254回」：表示回数だけ"ウォークマン"に転送できます。
  - 「なし」：無制限に"ウォークマン"に転送できます。

お好みの曲を集める（プレイリスト登録）

HDDジュークボックスのいろいろなところに入っているお好みの曲を「プレイリスト」に登録しておくと、登録した曲をまとめて再生したり、転送することができます。また、おまかせチャンネルの中の「お気に入りチャンネル」としても楽しむことができます。

1 HDDジュークボックスファンクションで、プレイリストに登録したい曲を選び、リモコンのお気に入りボタンを押す。

！ご注意

- プレイリストモードでは、リモコンのお気に入りボタンを押しても曲は登録できません。
- おまかせチャンネルファンクションの「お気に入りチャンネル」では、プレイリスト内の「お気に入りリスト」に登録されている曲のみが再生されます。

ヒント

プレイリストには10,000曲まで登録することができます。

プレイリストに登録した曲を聴くには

プレイリストモードにしてください（54ページ）。または、おまかせチャンネルファンクションで「お気に入りチャンネル」を選びます。

プレイリストを転送するには

「HDDジュークボックスから転送する」（43ページ）の操作手順に従って、プレイリストを転送します。

お気に入りボタンの登録先を変更するには

お買い上げ時は、登録先が、プレイリスト内の「お気に入りリスト」に設定されています。他のプレイリストに登録されるように変更することができます。あらかじめ、新しいプレイリストを作成してください（74ページ）。
オプションメニューで［設定］－［お気に入りボタン］を選び、「登録先」から登録したいプレイリストを選びます。

！ご注意

おまかせチャンネル内の「お気に入りチャンネル」で聴くためには、「お気に入りリスト」に登録する必要があります。その場合には登録先を変更しないでください。

複数の曲をまとめて登録するには

同じアルバムまたはグループ内の曲をまとめてプレイリストに登録できます。「お気に入りリスト」以外のプレイリストに登録する場合は、あらかじめプレイリストを作成してください（74ページ）。

1 **HDDジュークボックスファンクションで、プレイリストに登録したいアルバムまたはグループを選んで決定ボタンを押す。**

2 **オプションメニューで［編集］－［プレイリストに登録］を選ぶ。**
選んだ曲のチェックマークがついていることを確認します。
同時に複数の曲を登録するには、登録したい曲にチェックマークをつけます。

3 **［選択決定］を選ぶ。**

4 **登録したいプレイリストを選ぶ。**
確認画面が表示されます。

5 **［はい］を選ぶ。**
選んだ曲がプレイリストに登録されます。

！ご注意

同時に複数の曲を登録する場合、同じアルバムまたはグループ内の曲のみ登録できます。

ヒント

おまかせチャンネルをプレイリストに登録することもできます。詳しくは、57ページをご覧ください。

* NAS-M700HDのみ

モードを選んで再生する

HDDジュークボックス内の曲を、アルバムごとや、アーティストごとなどのまとまりで表示し、曲を選びます。

1 ホームメニューで[HDDジュークボックス]を選ぶ。

2 ←ボタンを繰り返し押して[モード]階層にし、モードの種類を選ぶ。

モードの種類	説明
◆アルバム	アルバムごとに再生します。
アーティスト	アーティストごとに再生します。
ジャンル	クラシックやジャズなど、ジャンルごとに再生します。
録音ソース	CDやMD*、ラジオなどの録音ソースから選んで再生することができます。
フォルダ	マイライブラリフォルダや自分で新しく作ったフォルダやグループを選び、再生することができます。
プレイリスト	お好みの曲ばかりを集め、再生することができます。

(◆:お買い上げ時の設定)

ラジオのトラックマーク設定をオートにして録音したとき

アルバムモード/録音ソースモードの場合

ラジオの録音開始から終了まで、音楽/トークが切り替わるたびに新しいトラックとして表示されます。

アーティストモード/ジャンルモードの場合

ラジオの録音開始から終了までで、音楽として認識された部分を1つのアルバムとして、トークとして認識された部分を別のアルバムとしてまとめて表示します。

!ご注意

- プレイリストモードでは、すべての曲が表示されないことがあります。
- 複数のアーティストの曲が収録されているCDやMD*の場合、アーティストモードやジャンルモードでは別のアルバムとして表示されます。

各モード内でリストを並び替える—ソート

各モード内のリストの表示順を、古い日付順や、50音逆順などに並び替えることができます。

1 並び替えたいモードのリスト画面を表示させる。

2 オプションメニューで[表示]−[並び替え]−[(並び替えかた)]を選ぶ。

リスト	並び替え項目
アルバム	◆ 新しい日付順
	古い日付順
	50音順*
	50音逆順
アーティスト	◆ 50音順
	50音逆順
ジャンル	◆ 50音順
	50音逆順

* あ~ん→A~Z→0~9→記号、の順に並びます。
(◆:お買い上げ時の設定)

* NAS-M700HDのみ

！ご注意

フォルダモード、プレイリストモードでは並び替えができませんが、編集により移動することはできます。（75ページ）

アルバム名やアーティスト名で検索する

イニシャルで検索する

HDDジュークボックス内のアルバム名やアーティスト名をイニシャルごとに一覧表示して選ぶことができます。

1　オプションメニューで［検索］－［イニシャルサーチ］－［アーティスト］または［アルバム］を選ぶ。

イニシャルサーチ画面が表示されます。

2　←/→ボタンでイニシャルを切り換える。

リモコンの数字/文字入力ボタンを繰り返し押してイニシャルを選び、決定ボタンを押して、イニシャルを指定することもできます。

3　↑/↓ボタンでアルバムやアーティストなどを選ぶ。

！ご注意

どのイニシャルに振り分けるかは、本機の辞書機能が自動的に判断しています。曲によっては、実際とは異なる読みかたで分類される場合があります。一覧表示で見つからない場合は、以下のように検索することをおすすめします。

- 別の読みかたのイニシャルを選ぶ（「永遠(えいえん)に」/「永遠(とわ)に」など）
- イニシャル切り換えで「etc.」を選ぶ
- 別のジャンル（「アーティスト」または「アルバム」）で検索する

キーワードで検索する

HDDジュークボックス内のアルバムや曲をキーワードを入力して検索することができます。

1　オプションメニューで［検索］－［キーワードサーチ］を選ぶ。

キーワード入力画面が表示されます。

2　キーワード（検索するアルバムまたは曲の名前）を入力する。

文字入力のしかたについては、「文字を入力する」（81ページ）をご覧ください。

3　「検索対象」から［トラック］または［アルバム］、［グループ］（フォルダモードのみ）を選ぶ。

検索が始まります。

検索が終わると、タイトル検索結果画面が表示されます。

検索したアルバムまたは曲を表示するには

アルバムまたは曲を選びます。

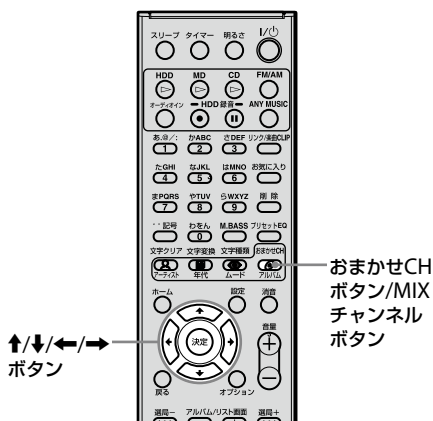
アルバムまたはトラック検索画面に戻るには

［条件入力へ］を押します。

！ご注意

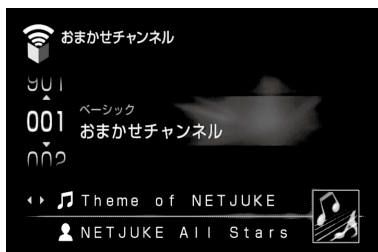
- プレイリストモードでは検索ができません。
- 再生中に検索を実行したときは、再生が止まります。検索終了あとも止まったままです。

おまかせチャンネルを使う

おまかせチャンネルとは、HDDジュークボックス内に録音・ダウンロード・取込みした曲の「雰囲気」を、ソニー独自の12音解析技術を使って解析し、29のチャンネルに分類したものです。例えば朝起きるとき、リラックスしたいとき、元気になりたいときなど、時間帯や気分に合わせてチャンネルを選ぶことができます。また、おまかせチャンネルから、アーティスト別、年代別、ムード別、アルバム別の曲を集めて聴ける、「MIXチャンネル」という機能もあります。

1 **おまかせCHボタンを押す。**

チャンネル選択画面が表示され、表示されている曲の盛り上がり部分から再生されます。

ヒント

- 1つのチャンネルに5曲たまると、そのチャンネルが表示されます。
- おまかせチャンネル名の一覧は「おまかせチャンネルリスト」（146ページ）をご覧ください。

2 **↑/↓ボタンでチャンネルを選ぶ。**

選ばれているチャンネルの先頭曲の盛り上がり部分から再生されます。

3 **←/→ボタンでチャンネル内の曲を選ぶ。**

それぞれの曲は曲の盛り上がり部分から再生されます。
決定ボタンを押すと、再生中の曲の先頭から再生が始まります。

！ご注意

楽曲によっては印象と異なるチャンネルに分類されたり、曲の盛り上がり部分を誤検出することがあります。

ヒント

エアチェックチャンネルでは、チャンネル選択画面で、曲の盛り上がり部分ではなく、曲の先頭から再生されます。

MIXチャンネルを使うには

おまかせチャンネル再生中に青、赤、緑、黄のそれぞれのボタンを押すと、HDDジュークボックス内の曲を使って次のようなチャンネルを一時的に作成します。

- **青ボタン（アーティスト）**：同じアーティストの曲のMIXチャンネル
- **赤ボタン（年代）**：年代が近い曲のMIXチャンネル
- **緑ボタン（ムード）**：雰囲気が似ている曲のMIXチャンネル
- **黄ボタン（アルバム）**：同じアルバムの曲のMIXチャンネル

例えば、あるアーティストの曲を聴いているときに青ボタンを押すと、同じアーティストの曲を集めたチャンネルを一時的に作成し、再生することができます。

1 **MIXチャンネルの青または赤、緑、黄ボタンを押す。**

MIXチャンネルが表示されます。

2 **←/→ボタンで曲を選び、決定ボタンを押す。**

再生が始まります。
MIXチャンネルから通常のおまかせチャンネルに戻るには、↑/↓ボタンまたは戻るボタンを押します。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■ボタンを押す。
一時停止する	リモコンの❚❚ボタンを押す。もう一度押すか、リモコンの▷ボタンを押すと停止した場所から再生が始まります。
曲中の聞きたいところを探す	再生中にリモコンの◀◀/▶▶ボタンを押し続け、聞きたいところで指を離す。
前後の曲を選ぶ	リモコンの❙◀◀/▶▶❙ボタンで曲を選ぶ。
チャンネル間で曲を移動する	移動したい曲を選んでから、オプションメニューで［曲の移動］を選び、「移動先」のプルダウンメニューから移動先のチャンネルを選ぶ。
お気に入りチャンネルに曲を登録する	おまかせチャンネルを再生中に、リモコンのお気に入りボタンを押す。
不要な曲を非表示にする	表示したくない曲の再生中にリモコンの削除ボタンを押す。曲を表示させるにはオプションメニューで［曲の非表示］－［解除］－［現在のチャンネル］または［全てのチャンネル］を選びます。
不要なチャンネルを非表示にする	オプションメニューの［設定］－［チャンネル表示］で表示したくないチャンネルを選び、チェックマークをはずす。表示したい場合は、再度決定ボタンを押してチェックを入れます。

！ご注意

- 年代MIXチャンネルに入る曲は、リリースされた年の情報のある曲に限ります。
- 年代MIXチャンネルの年代は必ずしも初版年ではありません。アルバムまたは曲に入っているCD情報のリリース年を基準としています。
- CH.002 ～ 006からの移動および他のチャンネルからCH.002 ～ 006への移動はできません。
- CH.001で解析済みの曲が少ない場合は曲の移動ができないことがあります。
- CH.002 ～ 006の曲は、非表示にできません。

ヒント

- 年代MIXチャンネルは以下のように構成され、表示されます。
  - 1900 ～ 1949年：　まとめて「1949年以前の曲」と表示されます。
  - 1950 ～ 1989年：　10年単位で集めます。例：1960年から1969年までの曲を集めて「1960年代の曲」と表示されます。
  - 1990 ～：　前後1年を含んだ計3年間の曲を集めます。例：1995年の曲を聴いている場合は、「1995年頃の曲」と表示されます。
- 再生中の曲をお気に入りチャンネルに登録したときは、同時にHDDジュークボックスの「お気に入りリスト」にも登録されます。
- 曲の非表示を解除すると、別のチャンネルに移動した曲が再度表示されます。

起動時のチャンネルを設定するには

1　オプションメニューで［設定］－［基本］を選ぶ。

2　［起動時のチャンネル］－［（設定）］を選ぶ。

	前回のチャンネル	前回選ばれていたチャンネルの曲で起動します。
◆	おまかせ（CH.001）	おまかせチャンネル（CH.001）の曲で起動します。

（◆：お買い上げ時の設定）

おまかせチャンネルを転送するには

おまかせチャンネルをプレイリストとしてHDDジュークボックスに登録し、"ウォークマン"やMD*に転送することができます。
1つのプレイリストには、選んだチャンネルから最大50曲が選ばれ、登録されます。

1　転送したいチャンネルを選ぶ。

2　オプションメニューで［プレイリスト作成］を選ぶ。

ポップアップ画面が表示されます。

*　NAS-M700HDのみ

3 [はい]を選ぶ。
ポップアップ画面が表示されます。

4 [閉じる]を選ぶ。
プレイリストとして登録されます。

5 44ページの手順に従ってプレイリストを転送する。

ヒント
HDDジュークボックスファンクションでプレイリストモードを選ぶと、登録されたプレイリストを確認できます。プレイリスト名はチャンネル名と登録日が表示されます。

自動解析について

自動解析は、電源がスタンバイモードのときに行われます。自動解析中は、オン/スタンバイランプがオレンジ色に点灯し、イルミネーションランプ(青ランプ)がゆっくり点滅します。
合計60分のアルバムを解析するには、約15分かかります。

!ご注意
- 解析中は電源コードを抜かないでください。故障の原因となります。
- HDDジュークボックスへたくさんの音楽データを録音・取込みしたあとは、解析に時間がかかることがあります。

ヒント
解析の結果、1つの曲が複数のチャンネルに同時に分類されることもあります。

解析を途中で止めるには

■(停止)ボタンを押す。
解析が中断されます。解析されていない曲は、再度スタンバイモードになったときに解析されます。

自動解析の設定を確認するには

本機は、お買い上げ時に、自動解析がONに設定されています。
オプションメニューで[設定]－[基本]を選び、[自動解析]の設定を確認します。
[自動解析]を[OFF]に設定すると、本機がスタンバイモードのときに自動解析は行われません。

手動で曲を解析するには

おまかせチャンネルファンクションで、オプションメニューから[手動解析]－[実行]を選ぶ。
手動解析を止めたいときは、[中止]を選びます。

DSEE(高音域補完)機能を使う

DSEE(Digital Sound Enhancement Engine)は、ソニーが独自に開発した高音域補完機能です。MP3やATRACなどに圧縮される際に取り除かれた高音域を補完し、より原音に近い再生を楽しむことができます。

1 設定メニューで[基本設定]－[DSEE(高音域補完)]を選ぶ。

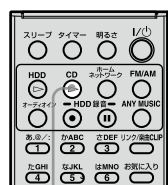
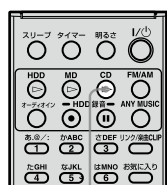
2 「DSEE」のプルダウンメニューで[ON]または[OFF]を選ぶ。

◆ ON	DSEE(高音域補完)機能を働かせます。
OFF	DSEE(高音域補完)機能を使用しません。

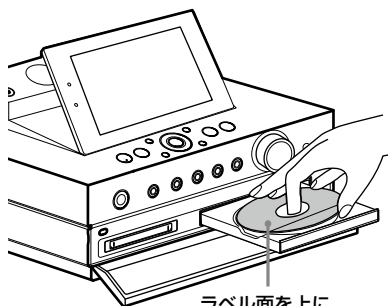
(◆:お買い上げ時の設定)

3 [閉じる]を選ぶ。

CDを再生する

音楽CDとMP3音声ファイルが記録されたCD-R/RWを聞くことができます。再生可能なCDについて詳しくは、141ページをご覧ください。

1 ホームメニューで[CD]を選ぶ。

2 CD⏏ボタンを押して、ディスクを入れる。

ディスクトレイが出てきます。

もう一度CD⏏ボタンを押すとトレイは閉まります。

本機のデータベースから自動的にタイトル情報を検索して表示します。

タイトル情報がない場合は表示されません。

インターネットに接続していると、インターネット上のサーバに存在するデータベースから最新のタイトル情報を取得することができます（94ページ）。

3 CD▷ボタンを押す。

再生が始まります。

音楽CDまたはMP3音声が記録されたCD-R/RWを本機が判別して、自動的にモードを切り換えます。両方のフォーマットで記録されたディスクの場合は、手動で切り換える必要があります（60ページ）。

MP3ファイルの階層と再生順序

MP3ファイルはアルバムとトラックの2階層になっています。アルバム内にサブアルバムが含まれる場合もあります。一つのアルバム（またはサブアルバム）内の全トラックを再生したあとに、次のアルバム（またはサブアルバム）の最初のトラックが再生されます。

本機では、MP3ファイルが記録されたデータCDの場合、第10階層まで表示できます。

ヒント

MP3CDのID3情報は、再生画面では表示されません。オプションメニューで[表示]－[トラック情報(ID3)]を選んで見てください（61ページ）。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■ボタンを押す。
一時停止する	リモコンの❚❚ボタンを押す。もう一度押すか、リモコンの▷ボタンを押すと、停止した場所から再生が始まります。
曲中の聞きたいところを探す	再生中にリモコンの◀◀/▶▶ボタンを押し続け、聞きたいところで指を離す。
前後の曲を選ぶ	再生中にリモコンの⏮/⏭ボタンで曲を選ぶ。
曲を選んで再生する	⬆/⬇（MP3では⬆/⬇/⬅/➡）ボタンで曲を選ぶ。
リモコンの数字ボタンを使って曲番を選ぶ	曲一覧画面（トラック階層）で曲番の数字をリモコンの数字ボタンで押したあと、決定ボタンを押す。
アルバムを選ぶ（MP3のみ）	リモコンのアルバム＋またはアルバム－ボタンでアルバムを選ぶ。
ディスクを取り出す	本体のCD⏏ボタンを押す。
時間表示を切り換える	再生中にオプションメニューで[表示]－[時間表示]－[経過時間]または[残り時間]を選ぶ。
音楽CD・MP3モードを切り換える	オプションメニューで[モード切り換え]－[音楽CD]または[MP3]を選ぶ。

！ご注意

MP3モードの場合、アルバム階層ではリモコンの数字ボタンを使って曲番を選ぶことはできません。

タイトル情報を手動で取得するには

CDを入れると、自動的にタイトル情報が取得されますが、手動でタイトル情報を取得することもできます。

1 **オプションメニューで[タイトル情報]－[取得]を選ぶ。**

タイトル情報を検索後、タイトル情報検索結果画面が表示されます。

2 **検索結果を確認し、[取得]を選ぶ。**

タイトル情報が取得されます。

[取得]の代わりにリモコンの▷ボタンを押すと、すぐにCDの再生が始まります。

タイトル情報をクリアするには

オプションメニューで[タイトル情報]－[クリア]を選びます。

取得結果が複数表示されたときは

取込みたいタイトル情報を一覧から選びます。

アルバム内のトラック情報を確認するには

表示されているアルバムを選びます。

ヒント

インターネットに接続していると、最新のタイトル情報が自動的に取得されます。

タイトル情報取得の設定を変更するには

1 **オプションメニューで[設定]－[タイトル情報取得]を選ぶ。**

2 **各項目を設定する。**

タイトル情報自動取得

◆ ON	CDを入れると自動的にタイトル情報を取得します。
OFF	タイトル情報を自動的に取得しません。

（◆：お買い上げ時の設定）

CD TEXT表示*

CD TEXTを表示したい言語を選びます。お買い上げ時は[日本語優先]に設定されています。

* タイトル情報を取得しなかった場合、CD TEXTが表示されます。
CD TEXTはCD TEXT対応ディスクのみ記録されています。

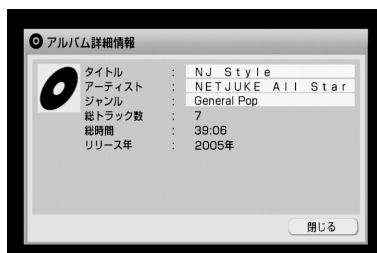
3 **[閉じる]を選ぶ。**

CDの情報を見る

1 リスト画面で情報を見たい曲を選ぶ。

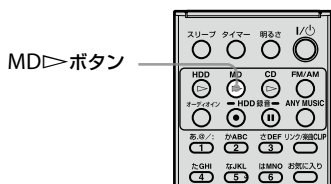
2 オプションメニューで[表示]－[アルバム情報]または[トラック情報]を選ぶ。

アルバム情報*1	ディスクの詳細情報(アルバム詳細情報画面)を表示します。
トラック情報*1	選んだ曲の詳細情報(トラック詳細情報画面)を表示します。
トラック情報(ID3)(停止中のみ)	選んだMP3音声の曲のID3タグ情報(トラック(ID3)詳細情報画面)を表示します。

*1 音楽CDのときのみ表示されます。

タイトルまたはアーティスト、ジャンル、アルバム名*2の全文を見るには、⬆/⬇ボタンで[タイトル]または[アーティスト]、[ジャンル]、[アルバム名] *2を選びます。
画面をスクロールするには、⬆/⬇ボタンを押します。

*2 トラック(ID3)詳細情報画面のときのみ表示されます。

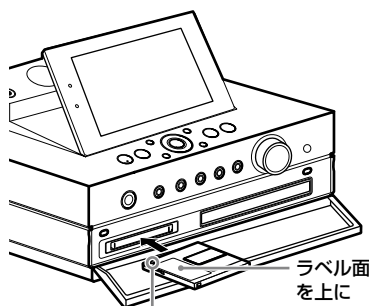
MDを再生する (NAS-M700HDのみ)

1 MDを入れる。

2 MD▷ボタンを押す。

再生が始まります。

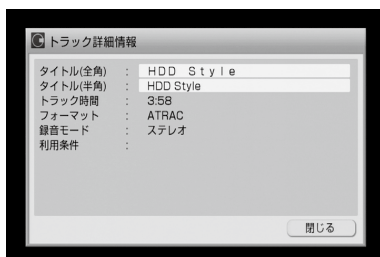
MDの階層と再生順序

MDはグループとトラックの2階層になっています。一つのグループ内の全トラックを再生したあとに、次のグループの最初のトラックが再生されます。

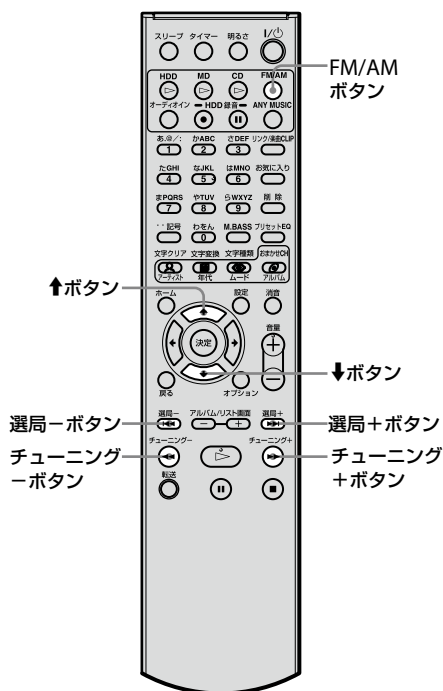
その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■ボタンを押す。
一時停止する	リモコンの❚❚ボタンを押す。もう一度押すか、リモコンの▷ボタンを押すと、停止した場所から再生が始まります。
曲中の聞きたいところを探す	再生中にリモコンの◀◀/▶▶ボタンを押し続け、聞きたいところで指を離す。
前後の曲を選ぶ	再生中にリモコンの❙◀◀/▶▶❙ボタンで曲を選ぶ。
曲を選んで再生する	⬆/⬇ボタンで曲を選ぶ。または曲番の数字をリモコンの数字ボタンで押したあと、決定ボタンを押す。
グループを選ぶ	リモコンのアルバム＋またはアルバム－ボタンでグループを選ぶ。
時間表示を切り換える	オプションメニューで[表示]－[時間表示]－[経過時間]または[残り時間]を選ぶ。
MDを取り出す	本体のMD⏏ボタンを押す。
タイトル表示を切り換える	オプションメニューで[表示]－[タイトル表示]－[全角]または[半角]を選ぶ。

ディスクや曲の情報を見る

1 **情報を見たいディスクまたは曲を選ぶ。**

2 **オプションメニューで[表示]－[ディスク情報]または[トラック情報]を選ぶ。**

タイトルの全文を見るには、⬆/⬇ボタンで見たいタイトルを選びます。

ラジオを聞く

オートチューニングやマニュアルチューニングでラジオ局を受信できます。ラジオ局を登録すると、プリセットチューニングで受信できます。

1 FM/AMボタンを押す。

2 FMまたはAMを選ぶ。

FM/AMボタンを押して、FM/AMを切り換えます。

3 チューニング+/－ボタンを長押しする。

放送を受信すると停止します。途中でやめたいときは■ボタンを押します（オートチューニング）。
聞きたいラジオ局の周波数に合わせたいときは、チューニング+/－ボタンを繰り返し押します（マニュアルチューニング）。

“エニーミュージック”に登録済みの場合は

FM放送のオンエア情報（放送中の番組情報や放送された曲の情報など）を見ることができます。
詳しくは、「FMオンエア情報を保存する」（97ページ）をご覧ください。

ヒント

- FMステレオ放送受信中に雑音が多いときは、オプションメニューで［設定］－［FMモード設定］－［常時モノラル］を選びます。モノラル受信になりますが、雑音が少なくなります。元に戻すときは、同様の操作で［自動ステレオ］を選びます。
- 受信状態が悪いときは、アンテナを窓の近くや外に置くなど、アンテナの向きや置き場所、張る位置を変えてみてください。
  それでも受信状態がよくならないときは、市販の屋外アンテナの使用をおすすめします。

ラジオ局の詳細情報を見るには

オプションメニューで［詳細情報］を選ぶ。

詳細情報の全文を見るには、⬆/⬇ボタンで項目を選びます。

ラジオ局を登録する

“エニーミュージック”に登録している場合は、97ページの手順に従って登録してください。

1 AMまたはFMに切り換える。

2 オプションメニューで［プリセット登録］を選ぶ。

3 登録するプリセット番号を選ぶ。

4 ［ラジオ局名を］のプルダウンメニューからお住まいの地域を選ぶ。

ラジオ局名を新規で入力したい場合は［新規に入力する］を選びます。

5 ［ラジオ局名］のプルダウンメニューから局名を選ぶ。

6 ［周波数］を選び、⬆/⬇ボタンで周波数を合わせる。

［周波数設定を］のプルダウンメニューで［オートでチューニングする］を選んだ場合は放送を受信するまで周波数が進みます。

7 ［登録］を選ぶ。

他のラジオ局を登録するには

手順3から7を繰り返します。

ヒント

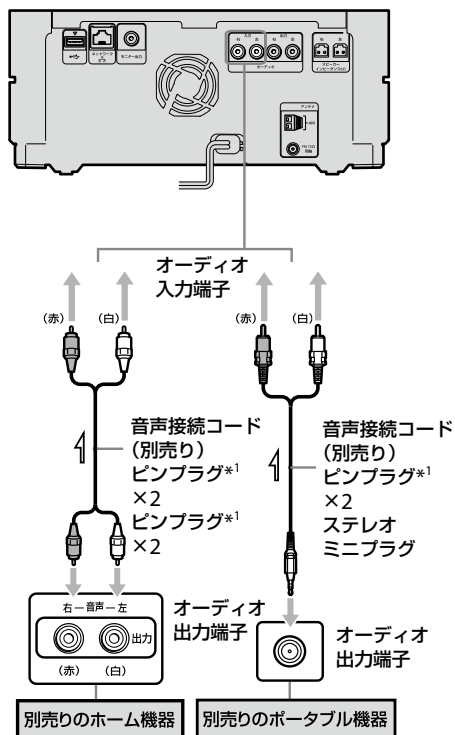
FMステレオ放送をモノラル受信にして雑音を少なくするには、プリセット登録画面の［FMモード］を［常時モノラル］にします。元に戻すときは［自動ステレオ］にします。この設定はラジオ局の設定として記憶されます。

登録した放送局を聞くには

⬆/⬇ボタンもしくは選局＋/－ボタンでラジオ局を選びます。

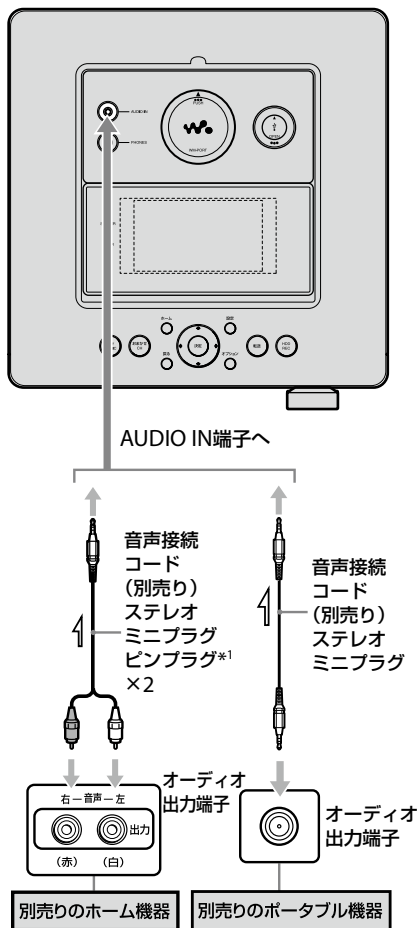
外部機器をつないで聞く

本体上面と後面*のオーディオ入力端子に音声接続コード（別売り）をつないでカセットデッキなどの音を聞いたり、録音することができます。
本機のオーディオ入力端子と外部機器のオーディオ出力端子を音声接続コード（別売り）でつなぎます。
つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。

本体後面*につなぐ

*1 白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。

本体上面につなぐ

*1 白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。

* NAS-M700HDのみ

1 リモコンのオーディオインボタンを押す。

2 ⬅/➡ボタンで[上] *1または[後]を選ぶ*。

*1 お買い上げ時の設定

3 本機につないだ機器を再生する。

本機のスピーカーから音声が出力されます。詳しくは、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

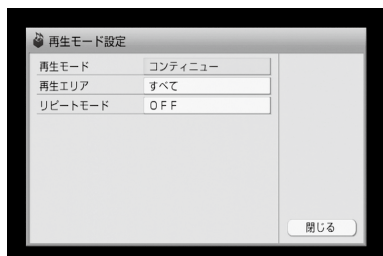
入力レベルを調整するには（上面のみ）

つないだ機器側の出力レベルが大きい、または小さい場合は、本機の入力レベルを調整することができます。
オプションメニューで[設定]－[感度（接続機器）]－[高（ポータブル機器）]または[低（ホーム機器）]を選びます。

* NAS-M700HDのみ

リピート/シャッフル再生 HDD CD MD

曲順を変えて再生(シャッフル)したり、1曲だけを繰り返し再生(リピート)したりできます。

1 各ファンクションの停止中に、オプションメニューで[設定]－[再生モード]を選ぶ。

ヒント
リピートモードは再生中も設定できます。

2 設定したい項目を選ぶ。

3 各項目を設定する。

以下の「設定項目一覧」の表の各項目を、プルダウンメニューから選んで設定します。

4 [閉じる]を選ぶ。

各項目の設定内容が表示されます。

設定項目一覧

再生モード

◆ コンティニュー(表示なし)	記録されているとおりの曲順で再生
シャッフル SHUF	曲順を変えて再生

(◆:お買い上げ時の設定)

再生エリア(CD*[1]/MD*の場合)

グループ/アルバム GROUP ALBUM	現在選ばれているグループ(ATRAC)/アルバム(MP3)のすべての曲を再生
◆ すべて	すべての曲を再生

(◆:お買い上げ時の設定)

*1 音楽CDの場合は、選ぶことができません。

* NAS-M700HDのみ

再生エリア（HDDジュークボックスの場合）

モード（54ページ）によって再生する範囲が異なります。

アルバム	アルバム ALBUM	現在選ばれているアルバムのすべての曲を再生
	◆すべて ALL	すべての曲を再生
アーティスト	アルバム ALBUM	現在選ばれているアルバムのすべての曲を再生
	アーティスト ARTIST	現在選ばれているアーティストのすべての曲を再生
	◆すべて ALL	すべての曲を再生
ジャンル	アルバム ALBUM	現在選ばれているアルバムのすべての曲を再生
	ジャンル GENRE	現在選ばれているジャンルのすべての曲を再生
	◆すべて ALL	すべての曲を再生
録音ソース	アルバム ALBUM	現在選ばれているアルバムのすべての曲を再生
	録音ソース SOURCE	現在選ばれている録音ソースのすべての曲を再生
	◆すべて ALL	すべての曲を再生
フォルダ	グループ GROUP	現在選ばれているグループのすべての曲を再生
	フォルダ FOLDER	現在選ばれているフォルダのすべての曲を再生
	◆すべて ALL	すべての曲を再生
プレイリスト	リスト LIST	現在選ばれているプレイリストのすべての曲を再生
	◆すべて ALL	プレイリスト登録されているすべての曲を再生

（◆：お買い上げ時の設定）

リピートモード

◆ OFF （表示なし）	リピート再生しない
ON	再生エリア内のすべての曲を繰り返し再生
トラック 1	1曲だけを繰り返し再生

（◆：お買い上げ時の設定）

タイトル情報を検索/取得する

HDD

本機にあらかじめ入っている情報を使ってタイトル情報を検索して、検索結果を登録することができます。

1 情報を検索したいアルバムまたは曲を選び、オプションメニューで[タイトル情報取得]を選ぶ。

2 検索/取得したい情報に従って[オリジナルアルバム][トラック][トラック一括登録]を選ぶ。

オリジナルアルバム	アルバム単位で一括してタイトルをつける。HDDジュークボックスに入っているアルバム内の曲がオリジナルアルバムの順番どおりに並んでいるときに有効。
トラック	1曲を検索して、タイトルをつける。間違って取得されたタイトルを取得し直すときに便利。
トラック一括登録	HDDジュークボックス内の「アルバム」に入っている曲に、1曲ごとに検索して、タイトルを自動取得する。HDDジュークボックス内の曲がオリジナルアルバムどおりに並んでいないときにまとめて取得するのに便利。

検索が始まります。

3 複数の検索結果が表示された場合([オリジナルアルバム][トラック]選択時のみ)、取得したい情報を選び、[取得]を選ぶ。

違う内容のタイトル情報を取得するには

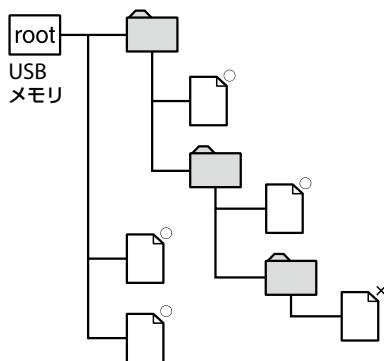
インターネットに接続している場合、インターネット上のサーバに存在するタイトル情報のデータベースから、最新のタイトル情報を取得することができます。詳しくは「最新のタイトル情報を取得する」(94ページ)をご覧ください。

画像をつける HDD

USBメモリにある画像ファイルを、アルバム、グループ、曲、プレイリストに登録することができます。
登録できる画像のファイル形式は、以下の形式です。

- JPEG*形式（拡張子JPG、JPEG）
- GIF*形式（拡張子GIF）

* 最大約630万画素（6,291,456画素）

画像を登録できるファイルは、下図の○がついているもののみです。

USBメモリ内で画像を登録できるファイルは第3階層までです。

!ご注意
本体上面、後面両方のUSB端子に接続した場合、上面に接続された機器が優先されます。

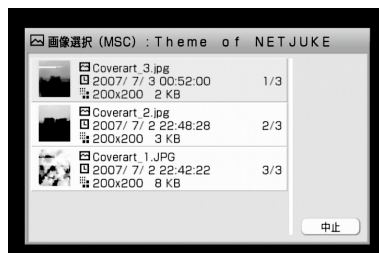
1 HDDジュークボックスファンクションで、登録先（アルバムまたはグループ、曲、プレイリスト）を選ぶ。

2 オプションメニューで[編集]－[画像登録]を選ぶ。

3 確認画面で[はい]を選ぶ。

画像登録画面が表示されます。

4 [画像を選択する]を選ぶ。

画像選択画面が表示されます。メディア選択画面が表示された場合はメディアを選んでください。（接続したUSBメモリにメディアが1つしかない場合はこの画面は表示されません。）
メディア選択画面、画像選択画面のタイトル部分にタイトルが表示されます。

5 画像ファイルを選ぶ。

画像確認画面が表示されます。

6 [はい]を選ぶ。

選んだ画像ファイルが登録されます。
すでに登録された画像がある場合は、上書き登録確認画面が表示され、[はい]を選ぶと、画像が上書きされます。
アルバム、グループ階層で画像を登録する場合、同じ画像をトラックにもつけるかを確認するメッセージが表示されます。

登録されている画像を削除するには

オプションメニューで[編集]－[情報編集]を選んで対象を選び、[画像削除]を選びます。

!ご注意

削除したり、上書きをして消された画像を元に戻すことはできません。

ヒント

オプションメニューで[編集]－[情報編集]－[(登録先)]－[画像登録]を選んで画像を登録することもできます。メディア選択画面が表示されたら、71ページの手順4以降と同じ操作を行ってください。

編集する

名前を変更する HDD MD

フォルダやグループ、ディスク、アルバム、曲(トラック)、アーティスト、ジャンル、プレイリストの名前を変更できます。ファンクションによって変更できる項目が異なります。

- **HDDジュークボックスファンクション**:フォルダ名、アルバム名、グループ名、曲名、アーティスト名、ジャンル名、プレイリスト名
- **MDファンクション***:ディスク名、グループ名、曲名

1 ■ **HDDジュークボックスファンクションの場合**
オプションメニューで[表示]－[モード切り換え]－[(モードの種類)]を選び、変更する対象を選ぶ。

■ **MDファンクション*の場合**
オプションメニューで[編集]－[情報編集]－[(対象の種類)]を選び、変更する対象を選ぶ。

2 ■ **HDDジュークボックスファンクションの場合**
オプションメニューで[編集]－[情報編集]を選ぶ。

■ **MDファンクション*の場合**
手順3に進む。

3 **変更する項目を選ぶ。**

4 **名前を入力する。**
文字の入力のしかたについては「文字を入力する」(81ページ)をご覧ください。

5 **[閉じる]を選ぶ。**

ジャンルを新しく作成するには

ジャンルの一覧につけたいジャンルがない場合は、ジャンルを新しく作成できます。

1 情報編集画面で[ジャンル新規]を選ぶ。
文字入力画面が表示されます。

2 ジャンル名を入力する。

3 [決定]を選ぶ。

ジャンルを整理するには

HDDジュークボックス内の使用していないジャンルを自動的に削除します。

1 情報編集画面で[ジャンル整理]を選ぶ。

2 [はい]を選ぶ。

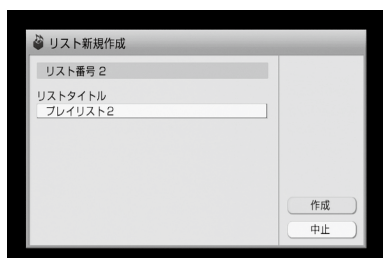
* NAS-M700HDのみ

新しいプレイリストを作る HDD

新しいプレイリストを作って、その中に曲を登録することができます。プレイリストは1,000まで作ることができます。

1 **HDDジュークボックスファンクションで、⬅ボタンを繰り返し押して[モード]階層にし、プレイリストモードを選ぶ。**

プレイリスト一覧画面が表示されます。

2 **オプションメニューで[編集]－[プレイリスト新規作成]を選ぶ。**

3 **[リストタイトル]を選ぶ。**

文字入力画面が表示されます。

4 **タイトルを入力する。**

5 **[作成]を選ぶ。**

プレイリストが作成されます。

削除する HDD MD

HDDジュークボックス内や、本機に挿入したMD*内のフォルダやアルバム、グループ、曲、プレイリストなどを削除できます。ファンクションによって、削除できる項目が異なります。

- **HDDジュークボックスファンクション**：フォルダ、アルバム、グループ、曲、プレイリスト
- **MDファンクション***：ディスク、グループ、曲

"ウォークマン"やポータブル機器に入っている曲を削除するには

「転送先の曲/プレイリストを削除する」（50ページ）をご覧ください。

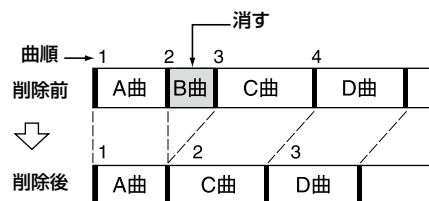
！ご注意

EZ「着うたフル®」を"ウォークマン"に転送している場合は、EZ「着うたフル®」を削除する前に本機と"ウォークマン"をつないで、転送先からの削除を行ってください。

転送先からの削除を行わないと、削除したEZ「着うたフル®」と同じEZ「着うたフル®」を再度本機に取込んだとき、転送回数が以前の状態のまま（減ったまま）になります。

HDDジュークボックスファンクションやMDファンクションで削除を実行すると、元には戻せません。

曲を消すと、曲番は順にくり上がります。例えば、曲番2を消すと、元の曲番3が2にくり上がります。

例）B曲を消す

1 **対象ファンクションのオプションメニューで[表示]－[モード切り換え]－[(モードの種類)]を選ぶ。**

MDファンクション*の場合は、モードを切り換えずに手順3に進んでください。

2 **削除する対象のリスト画面を表示させる。**

* NAS-M700HDのみ

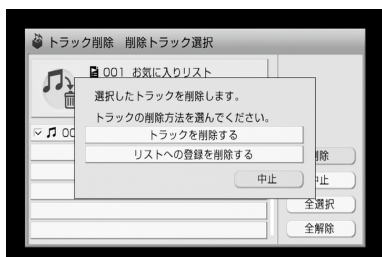
3 リモコンの削除ボタンを押す。

選んだ対象にチェックマーク ✔ がつきます。
同時に複数のものを削除するには、削除したいものすべてにチェックマーク ✔ をつけます。

4 [削除]を選ぶ。

削除確認画面が表示されます。
MDファンクション*の場合、そのまま削除するか、HDDジュークボックスに戻すか選ぶことができます。
本機から転送した曲を削除する場合は、[HDDジュークボックスに戻す]を選んでください。

5 [はい]を選ぶ。

ヒント
プレイリストの曲を削除する場合、プレイリストから削除するか、音楽データを削除するか選ぶことができます。

MD*内のグループを削除するには

MDファンクション*のオプションメニューで[編集]－[削除]－[グループ]を選びます。
[グループのみ削除する]を選んだ場合は、グループ内の曲は削除せずに、グループ設定のみが解除されます。

MD*内の全曲を削除するには

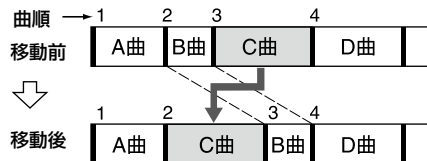
MDファンクション*のオプションメニューで[編集]－[削除]－[ディスク]を選びます。

移動する HDD MD

フォルダやグループ、曲、プレイリストを好きな位置に移動できます。曲順を変えると、曲番も頭から順につけ直されます。
ファンクションによって、移動できる項目が異なります。

- **HDDジュークボックスファンクション**：フォルダ、グループ、曲、プレイリスト
- **MDファンクション***：グループ、曲

ご注意
HDDジュークボックス内からMD*に音楽データを移動することはできません。また、MD*からHDDジュークボックス内に移動することもできません。

例）C曲をB曲の前に移動する

1 移動を行うファンクションのオプションメニューで[表示]－[モード切り換え]－[（モードの種類）]を選ぶ。

MDファンクション*の場合は、モードを切り換えずに、手順3に進んでください。

2 移動する対象（フォルダまたはグループ、曲、プレイリスト）を選ぶ。

* NAS-M700HDのみ

3 ■HDDジュークボックスファンクションの場合
オプションメニューで[編集]－[移動]を選ぶ。

■MDファンクション*の場合
オプションメニューで[編集]－[情報編集]－[グループ/トラック]を選ぶ。

選んだ対象のチェックマーク ✔ がついていることを確認します。
同時に複数の対象を移動するには、移動したい対象にチェックマーク ✔ をつけます。

4 [選択決定]を選ぶ。

移動先選択画面が表示されます。

5 移動先を選ぶ。

移動確認画面が表示されます。
他のフォルダやアルバム、グループに移動するには、⬆/⬇/⬅/➡/決定ボタンで移動先のフォルダやアルバム、グループを選んでから、移動先を選びます。

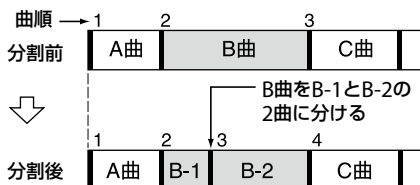
6 [はい]を選ぶ。

選んだ対象が移動します。

曲を分ける（分割）HDD

1曲を分割して2曲にします。分けた曲以降の曲番は、頭から順につけ直されます。
リニアPCM形式とATRAC形式*1の曲のみ分けることができます。

*1 "エニーミュージック"からダウンロードした曲を分けることはできません。

例）B曲を2つに分ける

1 HDDジュークボックスファンクションのオプションメニューで[表示]－[モード切り換え]－[フォルダ]を選ぶ。

！ご注意

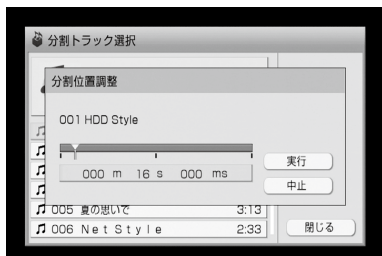
フォルダモード以外では曲を分けることはできません。

2 オプションメニューで[編集]－[分割]を選ぶ。

 * NAS-M700HDのみ

3 分けたい曲を選ぶ。

4 分けたい位置で、決定ボタンを押す。

決定ボタンを押した位置から繰り返し再生されます。

↑/↓/←/→ボタンで分割位置（m：分、s：秒、ms：ミリ秒）を変更すると、そこから後の2秒間を繰り返し再生します。

5 分割位置を正しく再生していたら、決定する。

6 [実行]を選ぶ。

曲が分かれます。

！ご注意

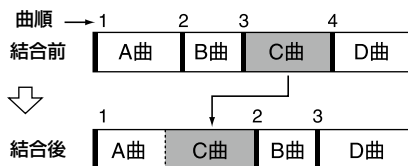
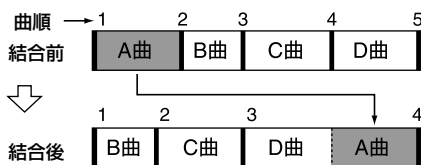
プレイリストに登録されている曲を分割するとプレイリストから削除されます。

曲をつなぐ（結合）HDD

2曲をつないで1曲にします。曲番は、頭から順につけ直されます。

リニアPCM形式とATRAC形式*1の曲のみつなぐことができます。

*1 "エニーミュージック"からダウンロードした曲をつなぐことはできません。

例）A曲にC曲をつなぐ

例）D曲にA曲をつなぐ

曲名はDになります。

1 HDDジュークボックスファンクションのオプションメニューで[表示]－[モード切り換え]－[フォルダ]を選ぶ。

！ご注意

フォルダモード以外では曲をつなげることはできません。

2 前につなぎたい曲を選ぶ。

3 オプションメニューで[編集]－[結合]を選ぶ。

選んだ曲にチェックマーク ✔ がついていることを確認します。

4 後ろにつなげたい曲を選ぶ。

5 [結合]を選ぶ。

6 [実行]を選ぶ。

チェックマークをつけた順に曲がつながります。

つなぎたい2曲の順番を変えるには

手順5のあとで[入れ替え]を選びます。

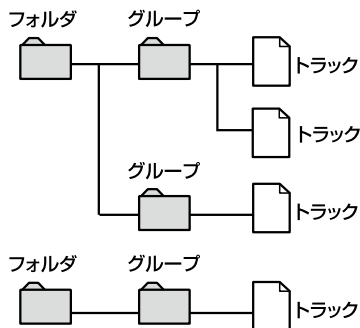
!ご注意

- フォーマットやビットレートが異なる曲をつなぐことはできません。
- プレイリストに登録されている曲をつないだ場合、つないだ曲はプレイリストから削除されます。

フォルダ･グループを作る

HDD MD

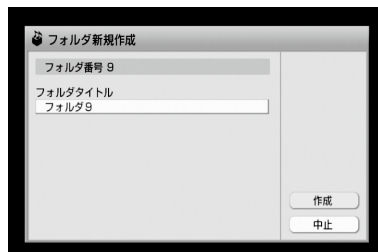
新しいフォルダやグループを作って、その中に、曲を貯めたり、曲を移動したりすることができます。

■HDDジュークボックスファンクションの場合

ヒント

フォルダの中にはグループのみが作成できます。グループの中には曲（トラック）のみが入ります。

1 オプションメニューで[表示]－[モード切り換え]－[フォルダ]を選ぶ。

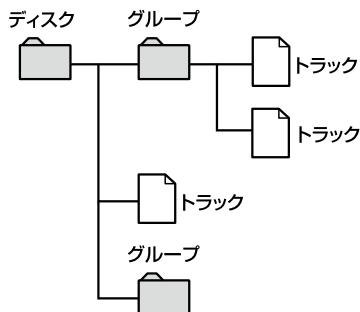
2 ←ボタンでフォルダ一覧画面またはグループ一覧画面を表示させる。

3 オプションメニューで[編集]－[フォルダ新規作成]または[グループ新規作成]を選ぶ。

4 [フォルダタイトル]または[グループタイトル]を選ぶ。

5 タイトルを入力する。

6 ［作成］を選ぶ。

■MDファンクション*の場合

グループ作成のみ可能です。

ヒント

ディスク中の曲（トラック）と同じ階層にグループが作成できます。グループの中には曲（トラック）のみが入ります。

1 オプションメニューで［編集］－［グループ新規作成］を選ぶ。

2 ［グループタイトル］を選ぶ。

3 タイトルを入力する。

4 ［作成］を選ぶ。

曲のデータ形式を変換する

HDD

HDDジュークボックス内のリニアPCM形式の曲をATRAC形式やMP3形式に変換します。
HDDの残量を増やしたいときに、便利です。

！ご注意

- ATRAC形式、MP3形式、WMA形式の曲はフォーマット変換できません。
- 曲のデータ形式を変換すると、元のリニアPCM形式の曲は削除されます。

ヒント

リニアPCM形式で保存した音楽データは、HDDジュークボックス上でデータ形式を保持したまま、転送の際に変換して転送することもできます（46ページ）。

1 HDDジュークボックスファンクションで、変換したい曲を選ぶ。

2 オプションメニューで［編集］－［フォーマット変換］を選ぶ。

選んだ曲のチェックマーク ✔ がついていることを確認します。
同時に複数の曲を変換するには、変換したい曲にチェックマーク ✔ をつけます。

* NAS-M700HDのみ

3 [選択決定]を選ぶ。

フォーマットとビットレートの選択画面が表示されます。

4 フォーマットとビットレートをプルダウンメニューから選ぶ。

5 [実行]を選ぶ。

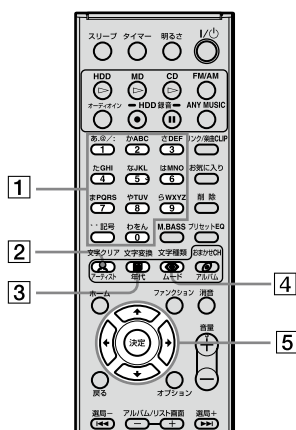
データ形式が変換されます。

!ご注意

一度にフォーマット変換できるのは99曲までです。

文字を入力する

本機に付属のリモコンで、携帯電話と同じ感覚で文字を入力できます。予測変換機能により、手早く入力できます。

リモコン

イラストは、NAS-M700HDに付属のリモコン。

1 **数字/文字入力ボタン**
入力したい文字が割り当てられているボタン（あ（行）、か（行）、ABC、DEFなど）を繰り返し押すと、希望の文字を表示します。漢字の場合は、入力したい文字のボタンを押してから上下キーを押すか、文字変換ボタンを押してから、希望の漢字候補を選びます。

2 **文字クリアボタン**
文字を削除します。

3 **文字変換ボタン**
入力した文字を漢字などに変換します。

4 **文字種類ボタン***
入力する文字の種類を選びます。
ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。
［漢字］→［全カナ］→［全英］→［全数］→［半カナ］→［半英］→［半数］→［漢字］→.....
* 入力できる文字の種類は、画面によって異なります。

5 **↑/↓/←/→ボタン**
- ↑/↓/←/→ボタン
カーソルを移動したり、文節の区切りを変更します。
- 決定ボタン
入力した文字や設定を決定します。

文字入力画面

1 **文字入力エリア**
入力した文字が表示されます。

2 **候補表示エリア**
予測候補が一覧表示されます。

3 **スクロールアイコン**
候補表示エリアに予測候補を表示しきれないときに表示されます。

4 入力モード(上書き/挿入)の表示エリア

5 入力文字種類の表示エリア

文字種類ボタンを押すたびに、表示が以下のように切り換わります。

表示	入力できる文字の種類*
漢字	漢字/ひらがな
全カナ	全角カタカナ
全英	全角英字
全数	全角数字
半カナ	半角カタカナ
半英	半角英字
半数	半角数字

* 入力できる文字の種類は、画面によって異なります。

6 変換状態の表示エリア

予測変換	予測変換機能がONの状態
予測変換	予測変換機能がONの状態で文字変換ボタンを押したとき
	予測変換機能がOFFの状態

7 入力バイト数の表示エリア

[入力済みバイト数/入力可能最大バイト数]が表示されます。使用中の入力画面により、入力できる最大文字数は異なります。

文字入力数とバイト数について

半角英字/数字	1文字:1バイト
全角文字/半角カタカナ	1文字:3バイト

文字を入力する

文字を入力する項目を選ぶと、文字入力画面が表示されます。

1 文字種類ボタンを繰り返し押して、入力する文字の種類を選ぶ。

2 数字/文字入力ボタンを繰り返し押して、文字を選ぶ。

オプションメニューで[予測変換]-[ON]を選んでいるときは、入力した文字から予測される単語を一覧表示します。
漢字を入力しないときは、手順4に進んでください。

3 一覧表示された単語から選ぶ。

入力したい単語が表示されない場合は、文字変換ボタンを押してから選びます。

4 決定ボタンを押す。

ヒント

予測変換と通常変換は、入力文字種類が[漢字]のときのみ有効です。

その他の操作

こんなときは	操作
前の状態に戻す	戻るボタンを押す。
カーソルを移動する	⬆/⬇/⬅/➡ボタンを押す。
大文字または小文字を入力する(「や」「ゃ」、「A」「a」など)	入力したい文字(ひらがな/カタカナ/英字)が割り当てられているボタンを繰り返し押す。
濁点文字または半濁点文字を入力する(「が」、「ぱ」など)	濁点または半濁点をつけたい文字を入力したあとにリモコンの記号ボタンを繰り返し押す。
記号の全角/半角を切り換える	オプションメニューで[記号文字入力][全角]または[半角]を選ぶ。
文節の区切りを変更する	未確定の状態で⬅/➡ボタンを押す。
変換方法を切り換える(予測変換切換)	文字入力画面で、オプションメニューで[予測変換][ON]または[OFF]を選ぶ。
入力モード(上書き/挿入)を切り換える	オプションメニューで[挿入モード]または[上書きモード]を選ぶ。

区点コードを使って入力するには

入力する文字の読みかたが分からない場合や本機で漢字変換できない場合は、「区点コード表」を使って入力します。区点コード表はhttp://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。

1 **オプションメニューで[区点コード入力]を選び、決定ボタンを押す。**

2 **決定ボタンを押す。**

3 **⬆/⬇ボタンで区点コードの4桁目を入力し、➡ボタンを押す。**

4 **手順3を繰り返し、3桁目、2桁目、1桁目を入力する。**

5 **決定ボタンを押す。**

6 **[確定]を選ぶ。**

選んだ文章を他の場所にも使うには―コピー /切り取り/貼り付け

1 **オプションメニューで[編集]－[コピー]または[切り取り]を選び、決定ボタンを押す。**

2 **⬅/➡ボタンでコピーまたはカットしたい部分の始点の文字を選び、決定ボタンを押す。**

3 **⬅/➡ボタンでコピーまたはカットしたい部分の終点の文字を選び、決定ボタンを押す。**

[切り取り]を選んだときは、選んだ部分が削除されます。

4 **貼り付けたい位置にカーソルを置く。**

5 **オプションメニューで[編集]－[貼り付け]を選ぶ。**

コピーまたはカットした部分がカーソル位置に挿入されます。
上書きモードに設定されている場合でも、上書きされず挿入されます。

よく使う語句を辞書に登録するには

あらかじめよく使う単語を辞書に登録しておけば、早く候補表示エリアに表示され便利です。
登録できる単語数は最大300件です。登録が300件を超えると古いものから順に削除されます。

1 **オプションメニューで[辞書編集]－[登録]を選び、決定ボタンを押す。**

文章が入力されていないと[登録]を選べません。

2 **⬅/➡ボタンで登録したい部分の始点の文字を選び、決定ボタンを押す。**

3 **⬅/➡ボタンで登録したい部分の終点の文字を選び、決定ボタンを押す。**

4 **決定ボタンを押す。**

5 [読み]の欄にひらがなで読みを入力し、決定ボタンを押す。

6 ➡ボタンで[登録]を選び、決定ボタンを押す。

指定した範囲の文章がスペースのみの場合は登録できません。

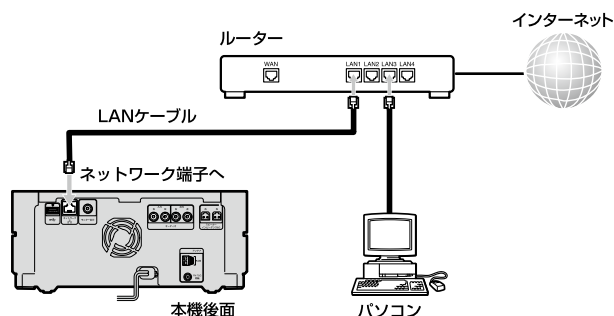
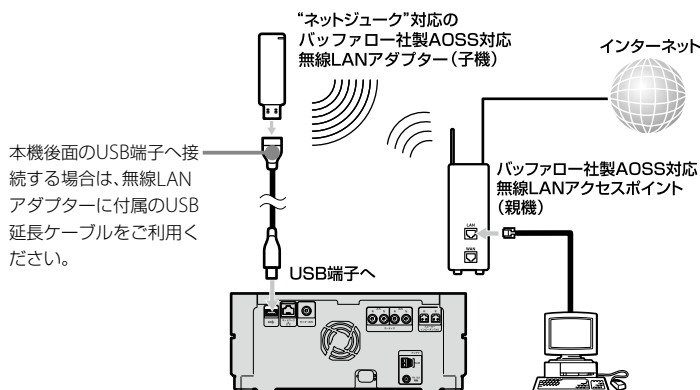
その他の操作

こんなときは	操作
辞書に登録した語句を削除する	オプションメニューで[辞書編集]－[削除]を選び、削除したい語句を選んでから、[削除]を選ぶ。
学習情報をリセットする	オプションメニューで[学習情報リセット]を選ぶ。予測変換と通常変換の学習情報(よく使う語句などの情報)をすべて削除します。

ネットワークにつなぐ

あらかじめ、インターネットを使用できる環境が必要です。インターネット接続について詳しくは、ご利用の回線業者またはプロバイダにお問い合わせください。

お使いのパソコンがインターネットにつながっている場合、パソコンがつながっている環境（ネットワーク）に本機をつなぐと、本機もインターネットに接続することができます。本機をネットワークにつなぐ方法として、有線と無線があります。

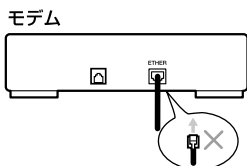
有線でつなぐ

無線でつなぐ

！ご注意

ルーターやアクセスポイントの設定は、ルーターやアクセスポイントの取扱説明書をご覧になって設定してください。

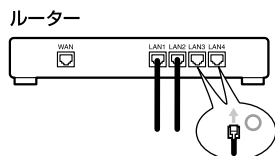
有線でつなぐ

準備する

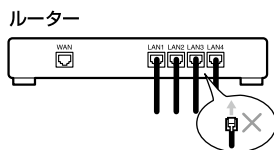
パソコンにつながっている機器の接続口（ポート）の状態によって、接続方法が異なります。

パソコンにつながっている機器の接続口（ポート）が一つあり、埋まっている場合

- **必要なもの：**LANケーブル（2）、ルーター

LANケーブルをパソコンからはずし、ルーターにつないでください。LANケーブル1本を使って、パソコンとルーターをつなぎ、もう1本のLANケーブルを使って、本機とルーターをつないでください。ルーターの設定はルーターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンにつながっている機器の接続口（ポート）が空いている場合

- **必要なもの：**LANケーブル（1）

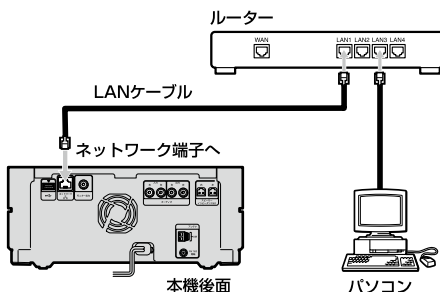
LANケーブルを使って本機と機器をつないでください。

パソコンにつながっている機器の接続口（ポート）が空いていない場合

- **必要なもの：**LANケーブル（2）、ハブ

LANケーブルをパソコンからはずし、ハブにつないでください。LANケーブル1本を使って、パソコンとハブをつなぎ、もう1本のLANケーブルを使って、本機とハブをつないでください。

有線LANの接続、設定をする

有線でつないだ場合の設定内容です。

1 **本機を、パソコンにつながっている機器につなぐ。**

2 設定メニューで［ネットワーク設定］を選ぶ。

3 ［有線LAN設定］を選ぶ。

「ネットワーク設定を確認中です」というメッセージが表示されたあと、有線LAN設定画面が表示されます。

○の場合：
設定は不要です。

△の場合：
設定が必要です。手順4に進んでください。

4 ［アドレス設定］を選ぶ。

以下を確認してください。

- ［イーサネット速度］が［自動］に設定されている。
- 「［DHCP］が［すべて自動設定］に設定されている。この設定にしておくと、IPアドレスが自動的に取得されます。

！ご注意

ご利用のプロバイダによっては、手動で設定する必要があります。詳しくは、「IPアドレス/プロキシを設定する」（92ページ）をご覧ください。

5 ［設定反映］を選ぶ。

設定の反映が行われます。

6 ［閉じる］を選ぶ。

ネットワークの設定が完了しました。
画面左上にネットワークの接続状態を示すポップアップが表示され、一定時間がたつと自動的に消えます。ネットワークの接続状態が変更された場合、再度自動的に表示されます。

インターネットにつながっているか確認するには

1 ANY MUSICボタンを押す。

"エニーミュージック"のトップ画面の右側にジャケット写真が表示されている場合、インターネットにつながっています。

ルーターや、ハブとうまく接続できない場合は、手順4で［イーサネット速度］を［100Mbps］または［10Mbps］に設定すると、接続できることがあります。または、アドレスの設定をご確認ください（「ネットワークの接続設定を確認するには」（91ページ））。

無線でつなぐ

本機を無線でネットワークにつなぐ方法として、AOSS自動設定を利用する方法と、アクセスポイントを検索する方法があります。

AOSSとは

無線LANの接続・設定を簡単にする株式会社バッファローの技術です。

準備する

本機のAOSS自動設定を利用して無線接続する場合と、アクセスポイントを検索して無線接続する場合とで、必要なものが異なります。

AOSS自動設定を利用する場合

- 必要なもの：
  - **"ネットジューク"対応のAOSS対応無線LANアダプター WLI-U2-KG54またはWLI-UJ-G**
    WLI-U2-KG54またはWLI-UJ-G以外の無線LANアダプターについては、http://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。
  - **AOSS対応無線LANアクセスポイントWHR-HP-G**
    （上記以外でも、AOSS対応の無線LANアクセスポイントであれば、自動設定を利用できます）

あらかじめ、アクセスポイントの準備をしてください。詳しくは、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

アクセスポイントを検索する場合

- 必要なもの：
  - **"ネットジューク"対応のAOSS対応無線LANアダプター WLI-U2-KG54またはWLI-UJ-G**
    WLI-U2-KG54またはWLI-UJ-G以外の無線LANアダプターについては、http://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。
  - **AOSS非対応の無線LANアクセスポイント**

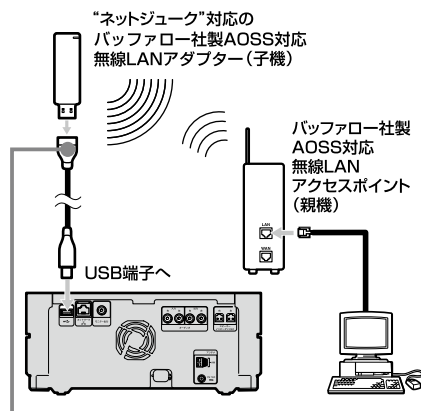
あらかじめ、アクセスポイントの準備をしてください。詳しくは、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

無線LANアダプターの設置について

無線LANアダプターは設置する向きによって通信品質が変わることがあります。
うまく通信できない場合は無線LANアダプターの向きを調整してください。
（最適な設置方法はお使いの環境によって異なります。）

AOSS自動設定を利用して無線LANの接続、設定をする

ボタン一つで簡単に、自動的に設定できます。

1 "ネットジューク"対応のAOSS対応無線LANアダプターを本機のUSB端子につなぐ。

本機後面のUSB端子へ接続する場合は、無線LANアダプターに付属のUSB延長ケーブルをご利用ください。

2 設定メニューで[ネットワーク設定]を選ぶ。

3 [USB無線LAN設定]を選ぶ。

4 [アクセスポイント設定]－[自動で設定する(AOSS)]を選ぶ。

画面の指示に従って操作してください。
AOSSボタンを押す指示が表示されたら、アクセスポイントのAOSSボタンを押してください。アクセスポイントが自動で設定されます。

5 [閉じる]を選ぶ。

無線LANの設定が完了しました。
画面左上にネットワークの接続状態を示すポップアップが表示され、一定時間がたつと自動的に消えます。ネットワークの接続状態が変更された場合、再度自動的に表示されます。

!ご注意

うまくつながらない場合は、アクセスポイントを近づけて、設定をやり直してください。

ヒント

AOSS対応の無線LANアクセスポイントをお持ちの場合は、AOSS対応イーサーネットメディアコンバーターを本機につないで無線LAN環境を作ることもできます。詳しくは、イーサーネットメディアコンバーターの取扱説明書をご覧ください。なお、この場合本機においては「有線LAN接続」となりますので、ネットワークの設定については「有線LANの接続、設定をする」(86ページ)の手順2以降を行ってください。
本機を有線でネットワークにつないでいる場合は、プロバイダからの指定や、ルーターの使用状況に合わせた設定が必要な場合があります。

インターネットにつながっているか確認するには

1 ANY MUSICボタンを押す。

"エニーミュージック"のトップ画面の右側にジャケット写真が表示されている場合、インターネットにつながっています。

接続できない場合、アクセスポイント設定、アドレス設定をご確認ください(91ページ)。

アクセスポイントを検索して無線LANの設定をする

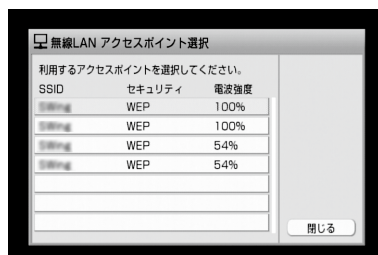
アクセスポイントを検索して設定するか、手動で設定します。自動設定は利用できません。

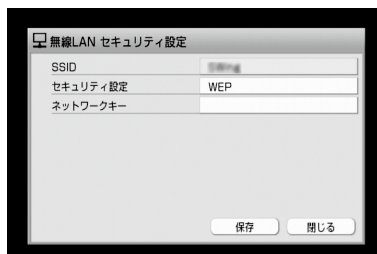
1 “ネットジューク”対応のAOSS対応無線LANアダプターを本機のUSB端子につなぐ。

2 設定メニューで［ネットワーク設定］を選ぶ。

3 ［USB無線LAN設定］を選ぶ。

4 ［アクセスポイント設定］－［利用できるアクセスポイントを検索する］を選ぶ。

現在利用できるアクセスポイントのSSIDの一覧が表示されます。
SSIDとは、ワイヤレスネットワークにおけるアクセスポイントの識別名（Service Set IDentifier）の略です。

5 検索結果からアクセスポイントを選ぶ。

6 ネットワークキーを設定する。

セキュリティ設定が［WEP］と表示された場合のみネットワークキー（セキュリティキー）の入力が必要です。セキュリティキーがわからない場合はアクセスポイントの設定をご確認ください。ネットワークキーを入力後、［保存］を選んでください。

7 ［閉じる］を選ぶ。

無線LANの設定が完了しました。

インターネットにつながっているか確認するには

「インターネットにつながっているか確認するには」（89ページ）をご覧ください。

接続できない場合、アクセスポイント設定、アドレス設定をご確認ください（「ネットワークの接続設定を確認するには」（91ページ））。

ヒント

上記手順4で、［手動で設定する］を選んで、手動でアクセスポイントを設定することもできます。

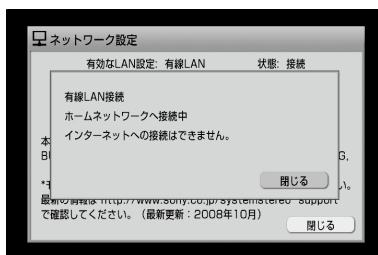
ネットワークの設定を確認する

インターネットにうまくつながらないときは、それぞれの設定画面で、接続状態を確認したり、ネットワーク状態を確認します。

ネットワーク状態を確認する

ネットワークの接続設定を確認するには

1 設定メニューで[ネットワーク設定]を選ぶ。

2 [接続確認]を選ぶ。

「ホームネットワークへ接続中/インターネットへの接続はできません。」と表示されている場合は、DNSの取得が失敗している可能性があります。以下の手順に従って、ネットワークの状態を確認してください。

ネットワーク状態を確認するには

1 設定メニューで[ネットワーク設定]を選ぶ。

2 [有線LAN設定]（有線でつないでいる場合）または[USB無線LAN設定]（無線でつないでいる場合）を選ぶ。

3 設定画面で[ネットワーク状態確認]を選ぶ。

4 [実行]を選ぶ。

ネットワーク状態の確認が始まります。確認には数分かかることがあります。
確認が終わると、各項目ごとに[OK]または[NG]が表示されます。

- すべての接続に[OK]が表示されたときは、手順7に進んでください。
- [NG]が表示されたときは、手順5に進んでください。

5 [NG]が表示されている項目の[詳細]を選ぶ。

想定される原因が表示されます。

6 画面の指示に従って接続や設定をやり直し、すべての[NG]の項目が[OK]になるまで、手順4から5を繰り返す。

ヒント
社内LANなど一部の環境では、すべての項目が[OK]とならない場合がありますが、これはネットワーク上の制限です。そのため[OK]でなくてもつながることがあります。つながらない場合は、ご使用のネットワークの管理者などにお問い合わせください。

7 [閉じる]を選ぶ。

IPアドレス/プロキシを設定する

お使いのルーターやアクセスポイントの使用状況に合わせた値や、ご利用のプロバイダから指定がある場合など、ネットワークの設定によっては、IPアドレスやプロキシを設定する必要があります。

以下の設定については、あらかじめ各機器の取扱説明書や、プロバイダからの情報をご覧ください。

IPアドレスを設定するには

1 **設定メニューで[ネットワーク設定]を選ぶ。**

2 **[有線LAN設定](有線でつないでいる場合)または[USB無線LAN設定](無線でつないでいる場合)を選ぶ。**

3 **[アドレス設定]を選ぶ。**

4 **[DHCP]の設定で[すべて手動設定]を選ぶ。**

5 **[IPアドレス][サブネットマスク][デフォルトゲートウェイ]にプロバイダが指定する値を設定する。**

設定値を入力する位置にカーソルを合わせ、⬆/⬇ボタンで数値を設定します。

IPアドレス	ネットワークに接続する機器に割り当てられる固有の番号。
サブネットマスク	ネットワークを区切るために、ネットワークに接続する機器に割り当てられるIPアドレスの範囲を限定するしくみ。
デフォルトゲートウェイ	所属するネットワーク外の機器へアクセスするときに使用するコンピューターやルーターなどを指定。IPアドレスで特定。

6 **[設定反映]を選ぶ。**

7 **[閉じる]を選ぶ。**

ヒント

設定を変更前の状態に戻すときは、設定の途中で[元に戻す]を選びます。

プロキシを設定するには

1 **設定メニューで[ネットワーク設定]を選ぶ。**

2 **[有線LAN設定](有線でつないでいる場合)または[USB無線LAN設定](無線でつないでいる場合)を選ぶ。**

3 **[プロキシ設定]を選ぶ。**

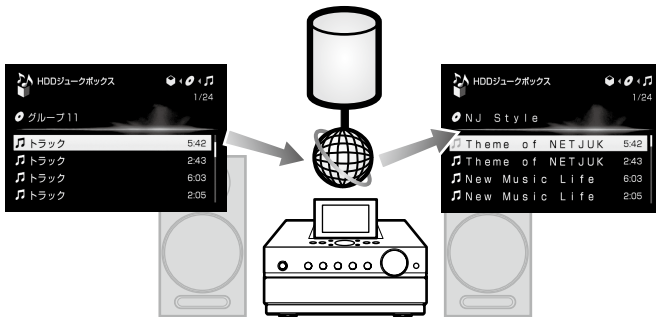
4 **[インターネットへ]の設定を[プロキシ経由で接続]に変える。**

5 **[プロキシサーバ]および[ポート]にプロバイダが指定する値を入力する。**

6 **[閉じる]を選ぶ。**

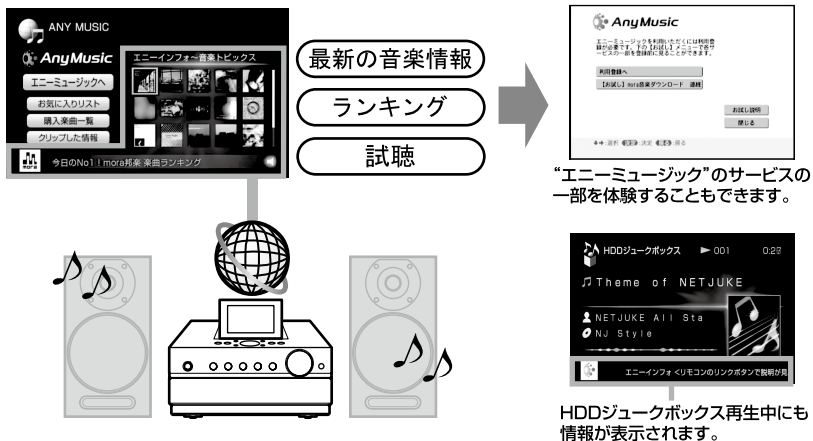
インターネットに接続してできること

最新のタイトルをつける

録音、取込みの際にタイトルがつかなかった曲に、インターネット経由でタイトルをつけることができます。

最新の音楽情報を見る・試聴する

“エニーミュージック” *[1]の最新の音楽情報やランキング情報を見たり、おすすめの曲の試聴をすることができます。

“エニーミュージック”のサービスの一部を体験することもできます。

HDDジュークボックス再生中にも情報が表示されます。

さらに“エニーミュージック”に登録すると、曲のダウンロードやFMオンエア情報を確認することができます。

*[1] “エニーミュージック”は、パソコンを使わずに本機などのオーディオ機器で直接楽しめる音楽サービスです。

最新のタイトル情報を取得する

本機には、Gracenote® Music Recognition Serviceが提供しているタイトル情報の一部が入っています。本機にタイトル情報がなく、ネットワークの設定(85ページ)が行われていると、インターネット経由で検索します。
Gracenote® Music Recognition Serviceは、インターネット上のサーバに存在するタイトル情報のデータベースから、音楽CDのアルバム名、アーティスト名、曲名などのタイトル情報を読み込めるサービスです。

!ご注意
データCDの情報を読み込むことはできません。

CDの最新のタイトル情報を取得するには

CDを入れると、自動的に最新のタイトル情報が検索/取得されますが、手動でタイトル情報を取得することもできます。

手動で取得するには

1 **停止中にオプションメニューで[タイトル情報]-[取得]を選ぶ。**

2 **検索結果画面が表示されたら、[取得]を選ぶ。**
違う内容のタイトル情報を取得したい場合は、[再検索]を選んでください。

タイトル情報をクリアするには

オプションメニューで[タイトル情報]-[クリア]を選びます。

HDDジュークボックス内の曲の最新のタイトル情報を取得するには

1 **情報を検索したいアルバムまたは曲を選び、オプションメニューで[タイトル情報取得]を選ぶ。**

2 **検索/取得したい情報に従って[オリジナルアルバム][トラック][トラック一括登録]を選ぶ。**

オリジナルアルバム	アルバム単位で一括してタイトルをつける。HDDジュークボックスに入っているアルバム内の曲がオリジナルアルバムの順番どおりに並んでいるときに有効。
トラック	1曲を検索して、タイトルをつける。間違って取得されたタイトルを取得し直すときに便利。
トラック一括登録	HDDジュークボックス内の「アルバム」に入っている曲に、1曲ごとに検索して、タイトルを自動取得する。HDDジュークボックス内の曲がオリジナルアルバムどおりに並んでいないときにまとめて取得するのに便利。

検索が始まります。

3 **複数の検索結果が表示された場合([オリジナルアルバム][トラック]選択時のみ)、取得したい情報を選び、[取得]を選ぶ。**

4 **検索結果画面でオンライン[再検索]を選ぶ。**
最新のタイトル情報の検索が始まり、タイトル情報があった場合、タイトル情報検索結果画面に取得結果が表示されます。違う内容のタイトル情報がなく、同じタイトル情報のみの場合でも、取得結果として表示されます。

取得結果が複数表示されたときは

取込みたいタイトル情報を一覧から選びます。

アルバム内のトラック情報を確認するには

表示されているアルバムを選びます。

“エニーミュージック”を使う

本機ではエニーミュージック（株）が運営･提供する“エニーミュージック”の各種サービスをご利用いただけます。“エニーミュージック”を利用すると、音楽ダウンロード、FMオンエア情報の確認などが可能です。詳しくは、別紙の“エニーミュージック”からのご案内をご覧ください。

！ご注意

“エニーミュージック”のサービス内容および手順は変更になる場合があります。

ヒント

“エニーミュージック”を利用するには、インターネットに接続し（85ページ）、“エニーミュージック”に登録する必要があります（96ページ）。

最新の音楽情報を見たり試聴してみる

1 ANY MUSICボタンを押す、または、ホームメニューで[ANY MUSIC]を選ぶ。

エニーインフォ

インターネットに接続していると（85ページ）、以下の操作ができます。

- ジャケット写真を選択すると、試聴データがある場合に再生されます。
- 決定ボタンを押すと、曲の購入画面が表示されます。
  （“エニーミュージック”に登録していない場合は、サービス体験･利用登録の画面が表示されます。）

ボタン

エニーミュージックへ　“エニーミュージック”のサービストップ画面が表示されます。

お気に入りリスト　リモコンのお気に入りボタンを押して登録したページの一覧が表示されます。

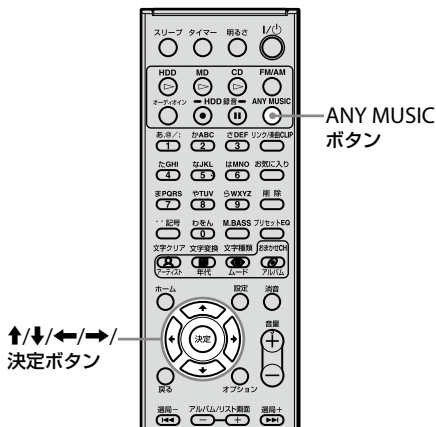
購入楽曲一覧　購入した楽曲が確認できます。

クリップした情報　クリップした楽曲情報が保存されています。クリップした情報を使って、曲のダウンロードや、購入ができます。

インターネットに接続していなくても、サービスのデモを見ることができます。デモを見るには、ANY MUSICボタンを押し、[デモンストレーションをみる]を選んでください。

曲をダウンロードする

曲のダウンロードには、利用登録が必要です。

利用登録するには

1　ANY MUSICボタンを押す。

“エニーミュージック”のトップ画面が表示されます。

2　[エニーミュージックへ]を選ぶ。

3　[利用登録へ]を選ぶ。

以降は画面の指示に従ってください。

4　利用登録後、登録したユーザー IDとパスワードを入力する。

[ユーザー IDとパスワードを]のプルダウンメニューから[保存する]を選ぶと、次回から入力する必要がなくなります。

5　[接続]を選ぶ。

サービストップ画面が表示されます。

曲をダウンロードするには

邦楽ランキングや、アーティスト名、曲名から曲を選んでダウンロードすることができます。

1　“エニーミュージック”のトップ画面で、[エニーミュージックへ]を選ぶ。

2　サービストップ画面で、[音楽ダウンロード]を選ぶ。

音楽ダウンロードサイトの画面が表示されます。

3　ダウンロードしたい曲を選ぶ。

試聴マークが付いている曲をフォーカスすると、自動的に試聴が始まります。

4　価格や曲名を確認してから[購入へ]を選ぶ。

5　[購入する]を選ぶ。

曲が本機にダウンロードされます。今すぐに聴く場合は、[はい]を選びます。

ダウンロードした曲は、本機のHDDジュークボックスファンクションで聴くことができます。詳しくは「HDDジュークボックスを再生する」(51ページ)をご覧ください。

FMオンエア情報を保存する — 楽曲クリップ

FM局を登録すると、FM放送のオンエア情報(放送中の番組情報や放送された楽曲情報など)を見たり、保存(クリップ)することができます。(あらかじめ"エニーミュージック"の利用登録が必要です。)

FM局を登録するには

"エニーミュージック"に利用登録をする前に、FMのプリセット登録が済んでいる場合は、以下の操作は必要ありません。利用登録後、オンエア情報が取得できます。

1　ファンクションを[FM/AM]に切り換え、FMを選ぶ。

2　オプションメニューで[プリセット登録]を選ぶ。

3　登録するプリセット番号を選ぶ。

4　[ラジオ局名を]のプルダウンメニューから[地域のリストから選択]または[全国のリストから選択]を選ぶ。

5　[ラジオ局名]のプルダウンメニューから局名を選ぶ。

6　[周波数]を選び、⬆/⬇ボタンで周波数を合わせる。

[周波数設定を]のプルダウンメニューで[オートでチューニングする]を選んだ場合は放送を受信するまで周波数が進みます。

7　[登録]を選ぶ。

オンエア情報を保存するには

プリセットチューニングでFM放送を受信中、オンエア情報が提供されている場合、画面上のNOW ON AIRが点灯し、オンエア情報が自動的に表示されます。

1　プリセットチューニングでFM放送を受信する。

NOW ON AIR

- オンエア番組情報:
  番組放送開始、終了時刻、番組名
- オンエア楽曲情報:
  オンエア開始時刻、楽曲のタイトル、アーティスト名

!ご注意

ラジオ局の名前を新規に入力したときは、"エニーミュージック"のオンエア情報は表示されません。

2　欲しいオンエア情報があったら、楽曲CLIPボタンを押す。

楽曲情報選択画面には、最新の楽曲を含め過去3曲分の情報が表示されます。

3　楽曲情報を選ぶ。

楽曲情報がクリップ(保存)されます。

4 [閉じる]を選ぶ。

確認画面が閉じ、トップ画面に戻ります。
クリップした情報を見るには、"エニーミュージック"のトップ画面の[クリップした情報]を選び、一覧から見たい情報を選びます。

ヒント
楽曲情報を検索キーとして、音楽のダウンロードもできます。

クリップした情報を削除するには

"エニーミュージック"のトップ画面で[クリップした情報]を選び、削除したい情報を選んでから削除ボタンを押します。

その他、"エニーミュージック"サービスについて詳しくは、"エニーミュージック"サイトのホームページをご覧ください。
http://www.anymusic.jp/

時計を自動的に合わせる

インターネットのNTP*サーバに接続すると、時刻を正確に合わせられます。
あらかじめネットワークの接続・設定を行ってください(85ページ)。

* NTPはNetwork Time Protocolの略です。

1 設定メニューで[基本設定]－[時計合わせ]を選び、決定ボタンを押す。

時計合わせ画面が表示されます。

2 [インターネットによる自動時計合わせを利用]を選び、決定ボタンを押す。

3 [する]を選び、決定ボタンを押す。

4 [NTPサーバ名]を選び、決定ボタンを押す。

文字入力画面が表示されます。
「NTPServer」と表示されている場合は、あらかじめ設定されているサーバに接続します。
サーバ名を変更しない場合は、手順6に進んでください。

5 サーバ名を入力し、決定ボタンを押す。

文字入力のしかたについては、「文字を入力する」(81ページ)をご覧ください。

6 [タイムゾーン]設定から[GMT+9 東京、Seoul]を選ぶ。

7 [夏時間]設定を選び、[標準]を選ぶ。

8 [設定反映]を選び、決定ボタンを押す。

時計が自動的に設定されます。

9 [閉じる]を選び、決定ボタンを押す。

サーバ名をお買い上げ時の設定に戻すには

手順5でサーバ名が消えるまでリモコンの文字クリアボタンを押し続けてから、決定ボタンを押し、「時計合わせ」画面の[設定反映]を選んで決定ボタンを押します。

設定を途中でやめるには

戻るボタンを押します。

!ご注意

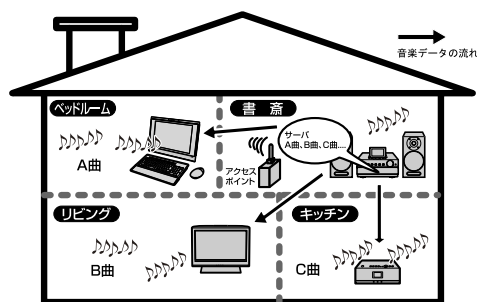
- 「インターネット設定」が正しく設定されていないと、NTPサーバへ接続できない場合があります。
- プロキシサーバを使っているときは、ご利用のプロキシサーバがNTPサーバへの通信を中継しない場合がありますので、プロバイダなどにご確認ください。

本機のサーバやクライアント機能について

ホームネットワーク機能を使って、本機内の音楽データを他の"ネットジューク"で再生したり、パソコン内の音楽データを本機で再生することができます。

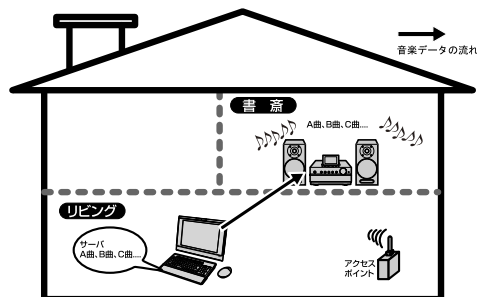
本機のサーバ機能

本機はDLNA対応のデジタルメディアサーバです。本機をサーバ（親機）として、DLNA対応のクライアント（子機）*で本機内の音楽データを再生することができます。
複数のクライアントをお持ちの場合、同じ曲だけでなく、異なる曲を同時に再生することができます。
クライアント接続中も、本機を操作できます。

* 本機で対応確認済みのクライアントなどの最新情報はhttp://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。

同時に再生できるクライアント（子機）の数は再生する曲のフォーマットやネットワーク環境に影響されます。
詳しくは、http://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。

本機のクライアント機能

本機をDLNA対応のクライアント（子機）として、DLNA対応のデジタルメディアサーバ*内の音楽データを再生することができます。

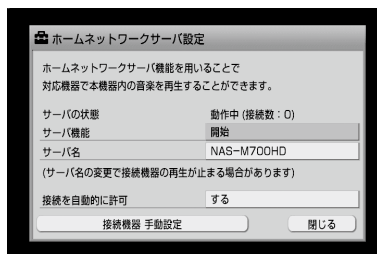
* 本機で対応確認済みのサーバなどの最新情報はhttp://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。

本機をサーバとして使う

設定メニューでサーバ機能を開始すると、最大20台まで本機に接続できます。このとき、ネットワーク上で認識できる機器は自動的に接続を許可されます。接続機器の設定を変更するには、「機器の接続状態を設定するには」(102ページ)をご覧ください。

本機をサーバとして使用できる動作状態について

通常動作	使用できます
高速起動スタンバイ	使用できます
標準起動スタンバイ	使用できません
自動解析中	使用できます

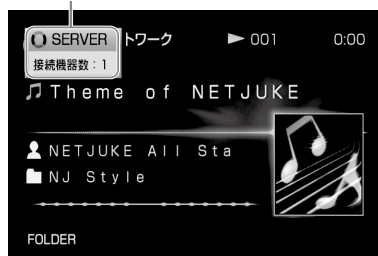
1 設定メニューで[サーバ設定]を選ぶ。

2 「サーバ機能」が[開始]になっていることを確認する。

3 クライアント側から本機に接続し、曲を選んで再生する。

再生が始まると、SERVERランプが黄緑色に点灯します。
本機に接続できない(SERVERランプが点灯しない)ときは、下記をご確認ください。

– 本機のサーバ設定で「サーバ」機能が[開始]になっていない→「サーバの設定を確認するには」(102ページ)
– 本機のスタンバイモード設定が高速起動スタンバイになっていない→「スタンバイモードの設定をする」(115ページ)
– 本機でクライアントの機器登録に失敗している→「接続機器を手動で登録するには」(102ページ)
– 本機でクライアントの接続が拒否設定されている→「機器の接続状態を設定するには」(102ページ)

接続機器数が変更すると、4秒間ほど画面にポップアップが表示されます。

接続されている機器数

クライアントで再生できない、またはリストが表示されない

クライアント側で再生できないフォーマットを再生させる場合は本機でホームネットワークファンクションを選んでください。ただし、この場合、接続できるクライアントは1台のみとなります。

!ご注意

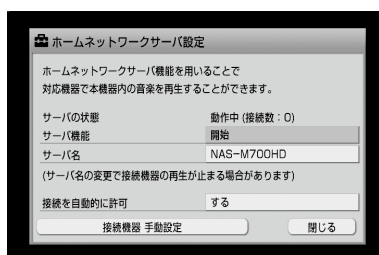
- 自動解析中にクライアントからの接続があると、解析は中断されます。接続がなくなると、解析を再開します。

- 録音(タイマー録音含む)、取込み、編集(おまかせチャンネルの手動解析含む)、バックアップ、バージョンアップ、画面デザイン設定、音楽データ移動、システム初期化中はサーバ機能を中断します。

サーバの設定を確認するには

クライアントから本機に接続できないときは、本機のサーバ設定を確認してください。

1 **設定メニューで[サーバ設定]を選ぶ。**

2 **「サーバ機能」が[停止]になっている場合は、プルダウンメニューから[開始]を選ぶ。**

サーバ名を変更するには

「サーバ名」を選び、文字入力画面で名前を変更します。

機器の自動接続を拒否する場合

「接続を自動的に許可」の設定が[する]に設定されている場合、第三者の機器から本機の音楽データが再生される可能性があります。機器の自動接続を拒否する場合は、「接続を自動的に許可」－[しない]を選びます。

3 **[閉じる]を選ぶ。**

!ご注意

接続拒否に設定された機器は、「接続を自動的に許可」の設定を[する]に設定しても、自動接続が許可されません。[接続機器 手動設定]で接続許可に設定してください。

機器の接続状態を設定するには

特定の機器の接続を許可したり、拒否するよう設定できます。

1 **設定メニューで[サーバ設定]を選ぶ。**

2 **[接続機器　手動設定]を選ぶ。**

3 **設定したい機器を選び、[許可]または[拒否]を選ぶ。**
続けて他の機器を設定したい場合は、手順3を繰り返します。

4 **[閉じる]を選ぶ。**

接続機器を手動で登録するには

接続機器を自動で認識できない場合は、手動で登録できます。
MACアドレスについては、接続機器の取扱説明書などをご覧ください。

1 **設定メニューで[サーバ設定]を選ぶ。**

2 **[接続機器　手動設定]を選ぶ。**
ネットワーク上の機器の一覧が表示されます。

3 **[手動登録]を選ぶ。**

4 **「MACアドレス」を選び、文字入力画面でアドレスを入力し、決定ボタンを押す。**
MACアドレスは、英数字の0-9、A-Fを用いた12文字で入力します。

機器名を変更するには

「機器名」を選び、文字入力画面で名前を入力します。

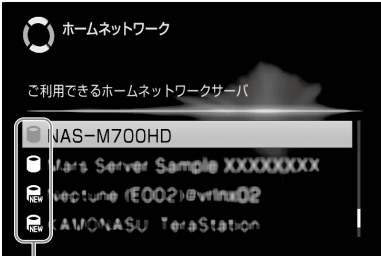
5 **[閉じる]を選ぶ。**

本機をクライアントとして使う

DLNA対応のデジタルメディアサーバ内の音楽データを再生します。

パソコン内の音楽を再生する

1 ホームメニューで[ホームネットワーク]を選ぶ。またはリモコンのホームネットワークボタンを押す(NAS-D500HDのみ)。

サーバ選択画面が表示されます。

アイコン

アイコン	アイコンの意味	サーバの状態
(白または黒*)	接続可能なサーバ	接続可能
(黄緑)	前回接続したサーバ	接続可能
NEW	初めて接続するサーバ	接続可能
	不明なサーバ	接続可能だが、内容が不明な状態

* 画面のデザインの色によってアイコンの色が変わります(115ページ)。上記アイコンは、画面デザインがタイプ1のときのものです。

!ご注意

本機のサーバ機能が動作中の場合は本機も表示されます。

2 サーバ選択画面で接続するサーバを選ぶ。

「ホームネットワークサーバ接続中です」と表示され、メイン画面が表示されます。

3 再生したい曲を選ぶ。

再生が始まります。

!ご注意

サーバの接続中は、サーバの電源を切ったり、曲を削除したりしないでください。

ヒント

サーバ選択画面にサーバが表示されない場合は、オプションメニューで[表示]−[最新情報に更新]を選んでみてください。

その他の操作

こんなときは	操作
再生を止める	■ボタンを押す。
前後の曲を選ぶ	再生中にリモコンの⏮/⏭ボタンで曲を選ぶ。
曲を選んで再生する	⬆/⬇/⬅/➡ボタンで曲を選ぶ。
リモコンの数字ボタンを使って曲番を選ぶ	曲番の数字をリモコンの数字ボタンで押したあと、決定ボタンを押す。
時間表示を切り換える	オプションメニューで[表示]－[時間表示]－[経過時間]または[残り時間]を選ぶ。
繰り返し曲を再生する	オプションメニューで[設定]－[再生モード設定]－[リピートモード]－[OFF](リピート再生しない)または[ON](全曲を繰り返し再生する)、[トラック](1曲だけ繰り返し再生する)を選ぶ。

!ご注意

- リモコンの数字ボタンを使って曲番を選べるのはメイン画面とトラックリスト画面です。
- 停止中は時間表示を切り換えられません。
- 接続しているサーバによっては残り時間が正しく表示されない場合があります。

曲のデータ形式について

サーバ内の曲には、本機で再生できないフォーマットのものもあります。リスト画面に表示される曲のアイコンで確認することができます。

リスト画面

曲のアイコン

アイコン	アイコンの意味
♫	再生可能
?	不明な曲/データ取得前の曲
✕	再生不可能

曲の情報を見る

1 情報を見たい曲を選ぶ。

2 オプションメニューで[表示]－[トラック情報]を選ぶ。

タイトルまたはアーティスト、ジャンルの全文を見るには、[タイトル]または[アーティスト]、[ジャンル]を選びます。
画面をスクロールするには、⬆/⬇ボタンを押します。

スリープタイマーを使う

本機の電源が自動的に切れるまでの時間を30分単位で決めることができます。急用で出かけるときや、眠るときに便利です。

1 リモコンのスリープボタンを押す。

スリープタイマーのポップアップ表示が出ます。
ボタンを押すたびに、以下のように表示が切り換わります。

OFF → 30 → 60 → 90 → 120 → 150 → 180 → OFF …

設定したい時間を表示させるだけで登録は完了です。
スリープタイマー中は、タイマーランプが点灯します。

！ご注意

- タイマーの動作中は、スリープタイマーの設定は取り消されます。
- タイマー録音が設定されている場合、タイマー予約開始時刻にまたがってスリープタイマーを設定することはできません。

ウェイクアップタイマーを使う

毎日指定した時刻に自動的に電源が入り、自動的に切れるように設定できます。音楽の自動再生が可能です。あらかじめ時計を合わせておいてください（29、99ページ）。最大3件まで登録できます。

1 リモコンのタイマーボタンを押す。

予約一覧画面が表示されます。

2 オプションメニューで［新規予約］ー［ウェイクアップ再生］を選ぶ。

3 各項目を設定する。

「ウェイクアップタイマー設定項目」の表にある各項目を選んで設定します。

4 ［決定］を選ぶ。

予約が登録され、予約一覧画面に表示されます。

5 リモコンのタイマーボタンまたは戻るボタンを押す。

タイマーが設定され、タイマーランプが点灯します。
設定した時刻になると、再生/受信が始まります。
HDDジュークボックスファンクションの場合は、最後に再生した曲が再生されます。
CDやMD*ファンクションの場合は、最初の曲が再生されます。
おまかせチャンネルファンクションの場合は、起動時のチャンネルに設定されているチャンネルの曲が再生されます。起動時のチャンネルの変更については、57ページをご覧ください。

！ご注意

- すでにタイマーが設定されている時間帯は、重ねてタイマー設定することができません。
- タイマー開始時刻の約1分半前から、一部の操作ができなくなります。
- タイマー開始直前に行っている操作によっては、タイマーの開始が遅れることがあります。

設定項目一覧

設定項目		設定値
日付		今 日～ 4週間先までの月日 毎(日) ～ 毎(土) 月－金 月－土 毎 日
開始時刻 終了時刻		時/分 時/分
ファンクション		CD
	◆	HDDジューク
		MD*
		おまかせチャンネル
		FM/AM
音量		MIN ~ MAX

（◆：お買い上げ時の設定）

終了時刻以降も再生を続けるには

ウェイクアップ再生中にタイマーを解除することができます。終了時刻設定がキャンセルされるので、再生がそのまま継続します。
ウェイクアップタイマー動作中に、オプションメニューで［タイマーキャンセル］を選びます。

* NAS-M700HDのみ

タイマー録音する

ラジオおよびオーディオ入力端子に接続してある外部機器からの音をタイマー録音できます。あらかじめ時計を合わせておいてください（29、99ページ）。最大10件まで登録できます。

！ご注意

タイマー録音中はサーバ機能が中断します。

ラジオをタイマー録音する

本機のラジオの音声をタイマー録音できます。あらかじめ時計とラジオ局を設定しておいてください。

1 リモコンのタイマーボタンを押す。

予約一覧画面が表示されます。

2 オプションメニューで［新規予約］－［FM/AM録音］を選ぶ。

3 各項目を設定する。

「タイマー録音設定項目」の表にある各項目を選んで設定します。

4 ［決定］を選ぶ。

予約が登録され、予約一覧画面に表示されます。

5 リモコンのタイマーボタンまたは戻るボタンを押す。

タイマーが設定され、タイマーランプが点灯します。

タイマー録音を途中で止めるには

■を押します。

終了時刻以降も録音を続けるには

タイマー録音中にタイマーを解除することができます。終了時刻設定がキャンセルされるので、録音がそのまま継続します。

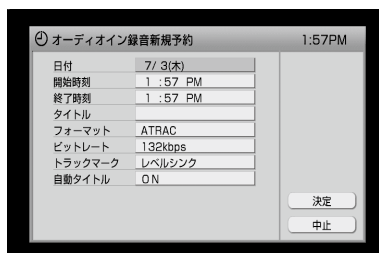
タイマー録音動作中に、オプションメニューで［タイマーキャンセル］を選びます。

！ご注意

- すでにタイマーが設定されている時間帯は、重ねてタイマー設定することができません。タイマーを「保留」することにより、新しいタイマーを優先させることもできます（110ページ）。
- 現在時刻と近い時刻を、終了時刻として設定することはできません。
- タイマー開始時刻の約1分半前から、一部の操作ができなくなります。
- タイマー開始直前に行っている操作によっては、タイマーの開始が遅れることがあります。
- タイトルに何も入力しないときは、自動的に設定内容が入ります。
- タイマー録音中に音を出すには、リモコンの消音ボタンまたは音量＋ボタンを押して、消音状態を解除してください。

外部機器の音楽をタイマー録音する

1 タイマーボタンを押す。

2 オプションメニューで[新規予約]－[オーディオイン録音]を選ぶ。

3 各項目を設定する。

4 [決定]を選ぶ。

5 タイマーボタンまたは戻るボタンを押す。

タイマー録音を途中で止めるには

■ボタンを押します。

終了時刻以降も録音を続けるには

タイマー録音中にタイマーを解除することができます。終了時刻設定がキャンセルされるので、録音がそのまま継続します。

タイマー録音動作中に、オプションメニューで[タイマーキャンセル]を選びます。

設定項目一覧

設定項目	設定値
日付	今 日～ 4週間先までの月日 毎(日) ～ 毎(土) 月－金 月－土 毎 日
開始時刻 終了時刻	時/分 時/分
タイトル	予約名
バンド(ラジオのみ)	◆ FM/AM
プリセット番号(ラジオのみ)	プリセット番号
フォーマット/ビットレート*1	◆ ATRAC: 48kbps, 64kbps, 66kbps, 105kbps, ◆132kbps, 256kbps
	PCM
	MP3: 96kbps, 128kbps, 160kbps, 192kbps, 256kbps
トラックマーク	10分/30分/60分/120分/レベルシンク*2/オート(ラジオのみ) *3
自動タイトル(オーディオインのみ) *4	◆ ON/OFF
入力端子*5	◆ 上/後

*1 フォーマット/ビットレートについて詳しくは、34ページをご覧ください。

*2 レベルシンクについて詳しくは、34ページをご覧ください。またレベルシンクレベルの項目もあわせてご覧ください。

*3 「オート」について詳しくは、34ページをご覧ください。

*4 自動タイトルが「ON」のとき、設定項目の「タイトル」は上書きされます。

*5 オーディオインのみ。NAS-M700HDのみ。

タイマー設定を確認する

1　**リモコンのタイマーボタンを押す。**
予約一覧画面が表示されます。
もう一度リモコンのタイマーボタンを押すと表示が消えます。

1	●	録音タイマー
	▶	ウェイクアップタイマー
2	タイトル	予約のタイトル名が表示されます。
3	日付	予約日が表示されます。
4	時刻	タイマー録音の開始/終了時刻が表示されます。
5	●（青）	待機中
	●（赤）	動作中
	●（グレー）	保留
	✕	失敗 停電などにより録音ができなかった場合に表示されます。ただし、毎日または毎週など繰り返し予約された設定の場合は表示されません。失敗した予約内容は残りますので、削除してください（このページ）。

タイマーを削除するには

1　**リモコンのタイマーボタンを押す。**
予約一覧画面が表示されます。

2　**削除したい予約情報を選ぶ。**

3　**リモコンの削除ボタンを押す。または、オプションメニューで［削除］を選ぶ。**
確認画面が表示されます。

4　**［はい］を選ぶ。**
選んだ予約情報が予約一覧画面から削除されます。
［いいえ］を選ぶと操作がキャンセルされます。

5　**リモコンのタイマーボタンまたは戻るボタンを押す。**

タイマーを変更するには

1　**リモコンのタイマーボタンを押す。**

2　**変更したい予約情報を選び、決定する。**
予約変更画面が表示されます。

3　**変更したい項目を選ぶ。**

4　**登録内容を変更する。**

5　**［決定］を選ぶ。**
変更した予約情報が上書きされ、予約一覧画面に表示されます。

6　**リモコンのタイマーボタンまたは戻るボタンを押す。**

ヒント
オプションメニューでも同じ操作ができます。

定期的な予約を一時的に解除するには—保留

予約を保留すると、保留した予約時間中に他の予約を入れることができます。

1 **リモコンのタイマーボタンを押す。**

2 **保留したい予約情報を選び、決定する。**
予約変更の画面が表示されます。

3 **[この予約を]で、[保留にする]を選ぶ。**

4 **[決定]を選ぶ。**
選んだ予約情報が保留され、選択中の予約情報のアイコンがグレーになります。

5 **リモコンのタイマーボタンまたは戻るボタンを押す。**

機器登録を解除する

本機にau「LISMO」対応携帯電話を接続し、機器登録を行った場合、機器登録を解除するには次のように操作します。

機器登録解除で本機から削除される情報について

- **機器登録の解除**
  本機にau「LISMO」対応携帯電話を接続して行います。
  機器登録の解除を行うと、接続したau「LISMO」対応携帯電話から本機に取込んだEZ「着うたフル®」がすべて削除されます。削除したくないEZ「着うたフル®」は、機器登録解除の実行前に[取込み元へ転送]でau「LISMO」対応携帯電話に転送することをおすすめします。
  また、本機に登録されている接続中のau「LISMO」対応携帯電話のロックNo.、電話番号も削除され、au「LISMO」対応携帯電話に登録された本機の登録情報も削除されます。

- **au「LISMO」関連情報初期化**
  本機にau「LISMO」対応携帯電話を接続せずに本機側だけ機器登録の解除を行います。
  au「LISMO」関連情報初期化を行うと、すべてのau「LISMO」対応携帯電話から取込んだEZ「着うたフル®」が削除されます。削除したくないEZ「着うたフル®」は、au「LISMO」関連情報初期化の実行前に[取込み元へ転送]でau「LISMO」対応携帯電話に転送することをおすすめします。
  また、本機に登録されているすべてのau「LISMO」対応携帯電話のロックNo.、電話番号も削除されます。ただし、au「LISMO」対応携帯電話に登録されている本機の登録情報は削除されません。

機器登録を解除する

取込み元へEZ「着うたフル®」を戻すには

ヒント
この方法を使って、1つのau「LISMO」対応携帯電話から取込んだ曲だけを自動で選択して、簡単に元のau「LISMO」対応携帯電話に戻すことができます。

1 au「LISMO」対応携帯電話のUSB設定を変更する。

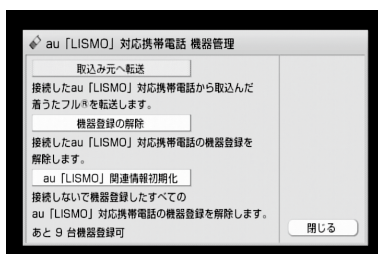
au「LISMO」対応携帯電話の[機能(設定)]－[ユーザー補助]－[データ通信/USB]で、USB設定を「高速データ転送モード」にしてください。
詳しくは、au「LISMO」対応携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

!ご注意
au「LISMO」対応携帯電話がロック中になっている場合は接続できません。ロックを解除してください。
オートロック機能をONにしていると、本機と接続中でもロックがかかる場合があります。ロックがかからないようにするには、オートロック機能をOFFにしてください。詳しくは、au「LISMO」対応携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

2 au「LISMO」対応携帯電話を待受画面にして、本機とUSBケーブルでつなぐ。

！ご注意

- au「LISMO」対応携帯電話からの転送中にUSBケーブルやau「LISMO」対応携帯電話の外部メモリを抜かないでください。本機およびau「LISMO」対応携帯電話が正しく動作しなくなることがあります。
- 転送前に、au「LISMO」対応携帯電話の電池残量が充分にあることを確認してください。転送の失敗、音楽データの破損などについては保証いたしませんので、ご注意ください。

3 HDDジュークボックスファンクションのオプションメニューで[au「LISMO」]－[機器管理]を選ぶ。

4 [取込み元へ転送]を選ぶ。

機器登録画面が表示されたら、機器登録を行ってください。
詳しくは「機器登録するには」（38ページ）をご覧ください。

5 転送するEZ「着うたフル®」を選択し、[実行]を選ぶ。または転送ボタンを押す。

転送先を変更する場合は、[設定]を選び、転送先を変更してから[閉じる]を選んでください。
転送が始まります。

機器登録を解除するには

！ご注意

接続したau「LISMO」対応携帯電話から取込んだEZ「着うたフル®」がすべて削除されます。
あらかじめ「取込み元へEZ「着うたフル®」を戻すには」（111ページ）の操作を行うことをおすすめします。

1 au「LISMO」対応携帯電話のUSB設定を変更する。

au「LISMO」対応携帯電話の[機能（設定）]－[ユーザー補助]－[データ通信/USB]で、USB設定を「高速データ転送モード」にしてください。
詳しくは、au「LISMO」対応携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

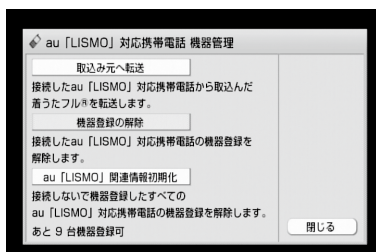
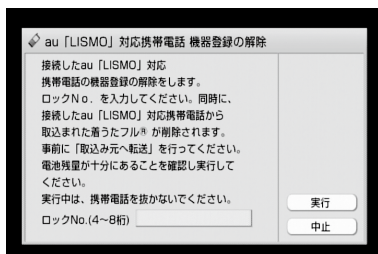
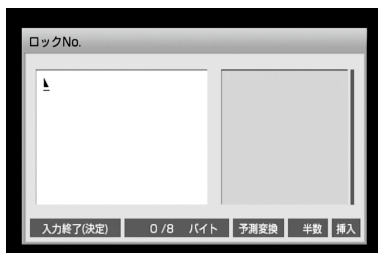
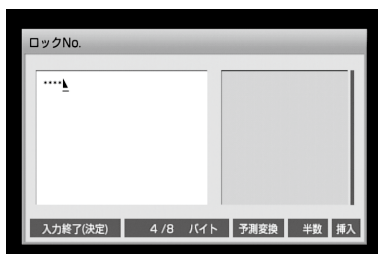
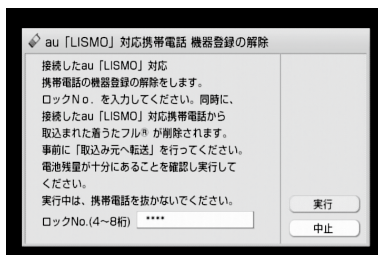
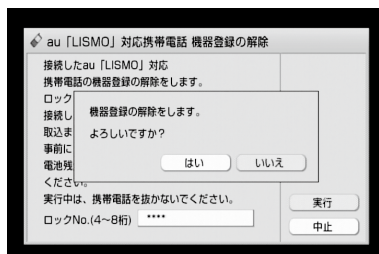
ご注意

au「LISMO」対応携帯電話がロック中になっている場合は接続できません。ロックを解除してください。オートロック機能をONにしていると、本機と接続中でもロックがかかる場合があります。ロックがかからないようにするには、オートロック機能をOFFにしてください。詳しくは、au「LISMO」対応携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

2 au「LISMO」対応携帯電話を待受画面にして、本機とUSBケーブルでつなぐ。

！ご注意

- 機器登録の解除中にUSBケーブルやau「LISMO」対応携帯電話の外部メモリを抜かないでください。本機およびau「LISMO」対応携帯電話が正しく動作しなくなることがあります。
- 機器登録の解除前に、au「LISMO」対応携帯電話の電池残量が充分にあることを確認してください。解除の失敗、音楽データの破損などについては保証いたしませんので、ご注意ください。

3 HDDジュークボックスファンクションのオプションメニューで[au「LISMO」]－[機器管理]を選ぶ。

4　[機器登録の解除]を選ぶ。

5　「ロックNo.(4 〜 8桁)」欄を選ぶ。

6　ロックNo.(半角数字4 〜 8桁)を入力する。

7　決定ボタンを押す。

8　[実行]を選ぶ。

9　[はい]を選ぶ。

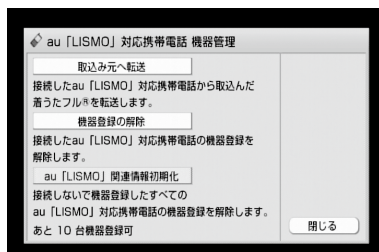
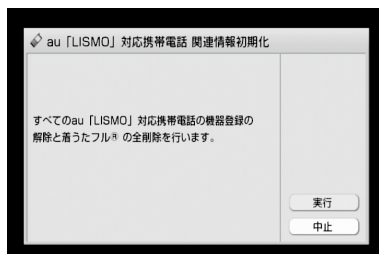
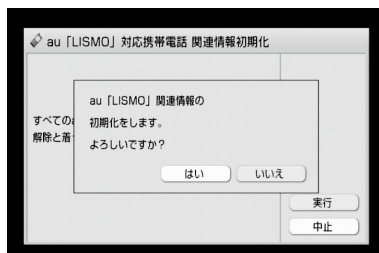
機器登録の解除が完了すると、「機器登録の解除を完了しました。」と表示されます。

本機に登録されているすべてのau「LISMO」対応携帯電話の機器登録を解除するには(au「LISMO」関連情報初期化)

au「LISMO」対応携帯電話が手元にないが機器登録を解除しないといけない場合などに初期化を行ってください。初期化後、au「LISMO」対応携帯電話を接続して機器登録の解除を行うことでau「LISMO」対応携帯電話に登録された本機の登録情報を削除することができます。

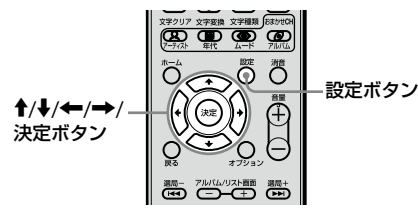
！ご注意

au「LISMO」対応携帯電話から取込んだEZ「着うたフル®」がすべて削除されます。
必要であれば「取込み元へEZ「着うたフル®」を戻すには」(111ページ)の操作を行ってください。

1　HDDジュークボックスファンクションのオプションメニューで[au「LISMO」]－[機器管理]を選ぶ。

2 [au「LISMO」関連情報初期化]を選ぶ。

3 [実行]を選ぶ。

4 [はい]を選ぶ。

「au「LISMO」関連情報の初期化を完了しました。」と表示されます。

本機の設定を変更する

画面の設定をする

画面サイズを変更するには

お好みに合わせて画面サイズを選ぶことができます。

1 **設定メニューで[基本設定]－[省電力/画面設定]を選ぶ。**

設定画面が表示されます。

2 **「本体表示」のプルダウンメニューで[ワイドズーム]または[ノーマル]を選ぶ。**

3 **[閉じる]を選ぶ。**

！ご注意

モニター出力の映像には反映されません。

スクリーンセーバーを設定するには

何も操作しない状態が続くと、パソコンのようにスクリーンセーバーが働くように設定できます。

1 **設定メニューで[基本設定]－[省電力/画面設定]を選ぶ。**

設定画面が表示されます。

2 **「スクリーンセーバー」のプルダウンメニューで[ON]を選ぶ。**

ON	何もボタンを押さない状態で15分経過すると、スクリーンセーバーが起動します。
◆ OFF	スクリーンセーバーは起動しません。

（◆：お買い上げ時の設定）

3 **[閉じる]を選ぶ。**

画面デザインを変えるには

本機の画面デザインを変えることができます。

1 **設定メニューで[基本設定]－[画面デザイン設定]を選ぶ。**

2 **「デザインの選択」のプルダウンメニューで、[タイプ1]または[タイプ2]を選ぶ。**

3 **[決定]を選ぶ。**

選択した画面デザインに変わります。

スタンバイモードの設定をする

1 **設定メニューで[基本設定]－[省電力/画面設定]を選ぶ。**

設定画面が表示されます。

2 「スタンバイモード」のプルダウンメニューで[高速起動]または[標準(省電力)]を選ぶ。

◆ 高速起動(オン/スタンバイランプ:オレンジ)	電源を入れてから起動するまでが早いですが、消費電力は高くなります。本機のサーバ機能が使えます*[1]。
標準(省電力)(オン/スタンバイランプ:赤)	消費電力を抑えて本機を使えますが、電源を入れてから起動するまでに時間がかかります。本機のサーバ機能は使えません。

(◆:お買い上げ時の設定)

*[1] 設定メニューでサーバ機能が[開始]に設定されている必要があります(101ページ)。

3 [閉じる]を選ぶ。

ヒント

- 自動解析中(58ページ)は、電源ボタンを押して本機の電源を切ったとき、オン/スタンバイランプがオレンジ色に点灯します。
- 高速起動スタンバイの場合、電源が切れていても、ときどきファンが動作することがありますが、故障ではありません。

システムを管理する

データをバックアップする

本機のHDDジュークボックスに保存した音楽データを、本機に接続したUSBハードディスクに一括コピーしてバックアップしたり、バックアップしたデータを本機に復元することができます。
また、前回のバックアップデータがある場合、その差分のみをバックアップすることで、バックアップにかかる時間を短縮することができます。
なお、バックアップしたデータを本機に復元する際に、音楽データの有効化が必要です。音楽データの有効化をするには、インターネット経由での認証が必要になるため、音楽データを不正に複製することができないようなしくみになっています。データがある程度たまってきたら、万一に備えてデータをバックアップしておくことをおすすめします。

!ご注意

バックアップしたデータを復元するには、本機をインターネットに接続している必要があります。

バックアップに必要なハードディスクの形式と容量

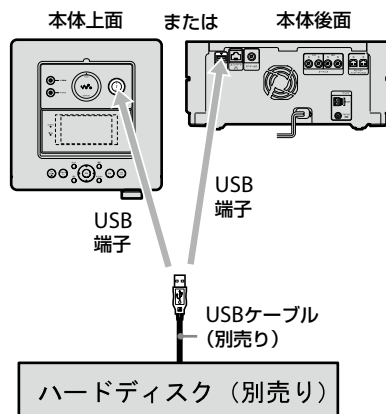
本機のデータをUSBハードディスクにバックアップするためには、FAT32形式でフォーマットされたUSBハードディスクが必要です。
ご使用量以上の容量のHDDをご用意ください。本機のHDDの使用可能容量については、142ページを、HDDの残量については設定メニューの[システム情報]をご覧ください。

!ご注意

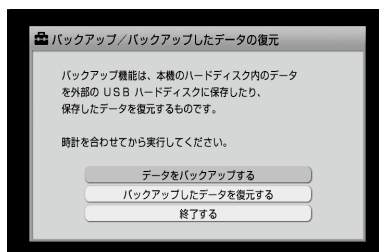
- 本機に保存されているデータ量やUSBハードディスク、ネットワークの状態により、バックアップには長時間(最長数十時間)かかることがあります。
- バックアップしたデータは、本機以外(パソコンなど)にコピーして利用することはできません。
- USB ハードディスクをパソコンなどで既にFAT32形式でフォーマット済みの場合、第一パーティションにバックアップします。このパーティションに必要な空き容量がない場合はバックアップできません。お使いのパソコン等でパーティションを変更して、空き容量を確保してください。
- USBハードディスクをフォーマットしていない場合、本機で第一パーティションをFAT32形式でフォーマットしたあと(119ページ)、バックアップしてください。
- 本機の時計が正しく設定されていないと、差分バックアップが正しく行われないことがあります。

1 USBケーブルを使って本機のUSB端子にハードディスクをつなぐ。

!ご注意

- 上面、後面両方のUSB端子に接続した場合、上面に接続された機器が優先されます。
- 後面につないだUSBハードディスクをバックアップ対象とする場合は、上面のUSB端子につないでいる機器は、はずしてください。

- 外付けハードディスク側のUSB端子の形状は機種によって異なります。
- 本機で使用できるUSBハードディスクの機種は、http://www.sony.co.jp/netjuke-support/の製品別サポートをご覧ください。本機に対応していないUSBハードディスクをつなぐと、故障の原因となることがあります。

2 設定メニューで[本機バックアップ]を選ぶ。

バックアップ設定画面が表示されます。

!ご注意

システム情報画面のトラック総数はこのとき表示できません。

3 [データをバックアップする]を選ぶ。

バックアップ先のドライブ選択画面が表示されます。

4 [バックアップを開始する]を選ぶ。

ドライブの確認画面が表示されます。

5 画面の内容を確認し、[はい]を選ぶ。

バックアップが始まります。
バックアップが終わると「バックアップが正常に終了しました」と表示されます。

過去のバックアップデータがあるときは

1 上記の手順5で[フルバックアップ]または[差分バックアップ]を選ぶ。

フルバックアップ	既存のデータに上書き保存する。
差分バックアップ	既存のデータ以外のデータを保存する。
戻る	バックアップを中止し、前の画面に戻る。

2 [はい]を選ぶ。

バックアップが始まります。
バックアップが終わると「バックアップが正常に終了しました」と表示されます。

バックアップを途中でやめるには

1 バックアップ中に[中止]を選ぶ。

確認画面が表示されます。

2 [処理を中止]を選ぶ。

!ご注意

- バックアップを途中でやめるとバックアップ先のデータが不完全になり、そのデータを復元することができなくなります。その場合は、もう一度最初からフルバックアップしてください。
- USBハブは使用できません。
- USB延長ケーブルをご使用の場合の動作の保証はできません。
- バックアップ中にUSBケーブルを引き抜いたり、本機の電源を切らないでください。故障の原因となります。

データを復元する

外付けのUSBハードディスクにバックアップしたデータを本機に戻します。

1 USBケーブルを使って本機のUSB端子にハードディスクをつなぐ。

2 設定メニューで[本機バックアップ]を選ぶ。

3 [バックアップしたデータを復元する]を選ぶ。

バックアップしたデータの復元画面が表示されます。

!ご注意

システム情報画面を表示しても、トラック総数はこのとき表示できません。

4 [復元を開始する]を選ぶ。

インターネットに接続して認証が行われます。認証が終わると、復元が始まります。
復元が終わると、「データの復元が正常に終了しました。」と表示されます。
復元中に[中止]を選ぶと、復元がキャンセルされます。

USBハードディスクをフォーマットするには

1 設定メニューで[本機バックアップ]を選ぶ。

バックアップ設定画面が表示されます。

2 オプションメニューで[USB-HDDの初期化]を選ぶ。

確認画面が表示されます。

3 画面の内容を確認し、[はい]を選んでいく。

USBハードディスクのフォーマットが始まります。フォーマットが完了すると、「USBハードディスクのフォーマットが正常に終了しました。」というメッセージが表示されます。

4 [終了する]を選ぶ。

バックアップ設定画面に戻ります。

!ご注意

- バックアップしたデータの復元を途中でやめると、本機のハードディスクのデータが不完全になり、本機が正常に動作しなくなることがあります。その場合は、バックアップしたデータをもう一度最初から復元してください。
- フォーマット開始後、途中で中止することはできません。
- USBハブは使用できません。
- USB延長ケーブルをご使用の場合の動作の保証はできません。
- データの復元中にUSBケーブルやネットワークケーブルを引き抜いたり、機器の電源を切らないでください。故障の原因となります。

システム情報を確認する

本機に記録されたトラック総数、ハードディスクの残量、アプリケーションのバージョン情報、システムマイコンのバージョン情報などを確認することができます。

1 設定メニューで[システム情報]を選ぶ。

ヒント

HDD残量は、本機の音楽データを記録する領域の残量を示しています。実際の使用可能領域(100%時)は約142GBです。

本体ソフトウェアを更新する

本体ソフトウェアをダウンロードすることで、新しい機能が追加されるなど、本機をより便利にお使いいただけるようになります。
バージョンアップが可能な場合、本機がインターネットにつながっていると、画面にメッセージが表示されます。

!ご注意

更新中は電源を切ったり、ネットワークケーブルを抜かないでください。

1 設定メニューで[バージョンアップ]を選ぶ。

バージョンアップ画面が表示されます。

2 画面の指示に従って操作する。

バージョンアップが始まります。バージョンアップには数十分かかることがあります。
更新終了後、自動的に再起動します。

システムを初期化する

本機をお買い上げ時の状態に戻します。録音や取込みでHDDジュークボックスに保存した音楽データだけでなく、時計合わせやインターネットの設定などの、すべての情報が消去されるので、ご注意ください。なお、[バージョンアップ]で更新された内容は消去されません。

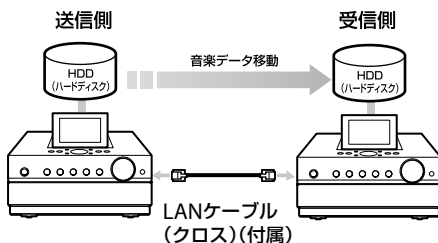
1 設定メニューで[システム初期化]を選ぶ。

システム初期化の確認画面が表示されます。

2 [はい]を選ぶ。

初期化が始まります。
途中で数回自動的に再起動してから数分後に作業が終了し、電源が切れます。

音楽データを移動する

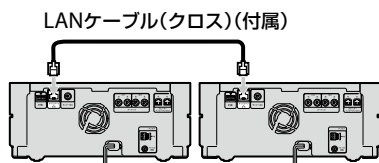
本機のHDDジュークボックスに保存している音楽データを他の"ネットジューク"に移動したり、他の"ネットジューク"のHDDジュークボックスに保存している音楽データを本機に移動することができます。他の"ネットジューク"に音楽データを移動すると、移動した音楽データは送信側から削除されます。
データを移動するには、送信側と受信側のそれぞれの機器の設定メニューに[音楽データ移動]の項目が必要です。項目がない場合は、バージョンアップを行ってください(119ページ)。

必ずお読みください

音楽データの移動には時間がかかる場合があります。
例:5,000曲で約20時間
音楽データの移動を中断し、中断したところから再開することができます。
中断した場合でも、送信側、受信側ともに通常どおりお使いできます。

!ご注意

- 音楽データを移動すると、送信側の"ネットジューク"からその音楽データは削除されます。
- 音楽データの移動を中断した場合、移動されていない音楽データは送信側に残ります。
- 音楽データの移動中に、送信側や受信側の"ネットジューク"の電源を切ったり、リセットしたりしないでください。
- 転送回数制限のある曲を他のデバイスに転送したまま、本機で音楽データの移動を実行すると、送信側と受信側の両方で転送回数を戻すことができません。
- 送信側より受信側のほうが古い機種の場合、音楽データを移動することはできません。
- 以下のデータは移動できません。
  — HDDジュークボックスのお気に入りリスト
  — "エニーミュージック"で設定されたブックマーク
  — "エニーミュージック"での登録情報(ANY MUSIC ID、ニックネーム、パスワード)
  — 設定情報(ネットワーク設定、タイマー予約など)

- 送信側より新しい機種にデータを移動した場合、おまかせチャンネルを使うには、解析する必要があります。
- 送信側の“ネットジューク”で、おまかせチャンネル間で移動した曲は、受信側で元のチャンネルに戻ります。

1 送信側と受信側を付属のLANケーブル（クロス）でつなぐ。

LANケーブル（クロス）（付属）

！ご注意

一般のLANケーブル（ストレート）は使えません。通常ネットワークに接続する際はLANケーブル（ストレート）を使用しています。LANケーブル（ストレート）とLANケーブル（クロス）は形状が同じですのでご注意ください。

2 送信側の機器で、設定メニューから［音楽データ移動］を選ぶ。

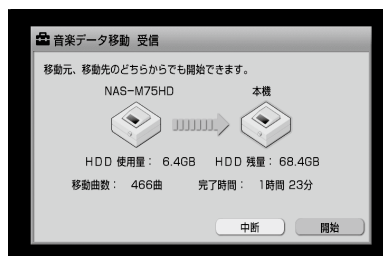
3 「音楽データ移動 はじめにお読みください」をお読みの上、［次へ］を選ぶ。

複数の画面が表示されます。

4 「移動方向」で、データを移動する方向を設定し、［接続確認］を選ぶ。

5 受信側で手順2 ～ 4の操作を行う。

受信側のHDDの容量不足や、フォルダ数制限などにより、すべてのデータを移動できない場合はメッセージが表示されます。データの移動を中断する場合は［閉じる］ボタンを選んで、手順6で［中断］を選んでください。中断した場合、本機を再起動します。

6 音楽データ移動の送信画面が表示されたら［開始］を選ぶ。

7 ［はい］を選ぶ。

データの移動が開始されます。
データの移動が完了すると、「正常に音楽データ移動が完了しました。」と表示されます。再起動後本機の電源は自動的に切れます。

故障かな？と思ったら

本機をご使用中にトラブルが発生したり、調べたいことがある場合は、ソニーの相談窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れに従ってチェックしてみてください。メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

1　本書で調べる

この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べます。また、別紙の"エニーミュージック"からのご案内にもさまざまな情報があります。該当する項目を調べてください。

2　「HDDコンポ〈ネットジューク〉／システムステレオ」サポートページで調べる

http://www.sony.co.jp/netjuke-support/で調べます。
最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。
詳しくは、「サポートページで調べるには」（124ページ）をご覧ください。

3　それでもトラブルが解決しないときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

本機のリセット方法について

通常は本機をリセットする必要はありません。しかし、まれに本体が異常終了して、ボタンや画面上の操作に反応しなくなってしまうことがあります。このような場合は、本体の■ボタン（共通停止ボタン）を押しながら本体の電源ボタンを押して、本機をリセットしてください。

サポートページについて

パソコンをインターネットに接続できる環境の場合、「HDDコンポ〈ネットジューク〉／システムステレオ」のサポートページhttp://www.sony.co.jp/netjuke-support/でトラブルの解決方法や最新情報などを調べることができます。

！ご注意

サポートページの内容は、2008年10月現在のものです。

サポートページを見るには

ブラウザのアドレス欄にhttp://www.sony.co.jp/netjuke-support/と入力してサポートページを表示します。

サポートページでは、以下の情報などを見ることができます。

- ソフトウェアアップデートなどの最新情報
- 製品別サポート情報
- Q&A（よくある問い合わせ情報）

サポートページで調べるには

1　[製品別サポート]から本機の機種名を選ぶ。

本機の機種名を選ぶ。

2　Q&Aを選ぶ。

本機のQ&Aについて、よくある問い合わせを調べることができます。

Q&Aを選ぶ。

Q&A画面の見かた

空欄に単語を入力して[検索]を選ぶと、その単語を含む質問/回答を表示します。

1. 空欄に単語を入力して[検索]を選ぶと、その単語を含む質問/回答を表示します。
2. 「おすすめ順」「更新日順」に並べ替えます。
3. 質問を選ぶと、回答が表示されます。
4. 「CD関連」「ネットワーク設定」など、質問の種類で絞り込みます。

電源

Q 電源が入らない。

A 電源コードをコンセントからはずす。約1分後、もう一度コンセントにコードを差し込み、I/⏻(電源)ボタンを押して電源を入れる。

Q 電源コードを差し込み、電源を入れると、「ただいま起動中です」「しばらくお待ちください」「設定後、自動的に電源が切れます」と表示され、電源が切れる。

A 本機は電源コードを差して電源を入れると、内部の設定を行いスタンバイモードに入るので、異常ではありません。
I/⏻(電源)ボタンをもう一度押すと電源が入ります。

Q 「ただいま起動中です」「しばらくお待ちください」「設定後、自動的に電源が切れます」と表示されたまま、電源が切れるまで時間がかかる。

A 本体に大量の曲が保存されている場合、電源が切れるまで時間がかかることがあります。

Q 電源を入れて「ただいま起動中です」「しばらくお待ちください」と表示されてから、起動するまで時間がかかる。

A ルーターのない環境で本機をお使いになる場合、電源を入れたあと、本機のIPアドレスを自動的に取得して本機が起動するまで、約30秒かかることがあります。

A 本機のIPアドレスが他の機器で使用している数値になっている。
他の機器と異なるIPアドレスに設定し直してください。

Q 電源が切れない。

A 初期設定中や起動中には、I/⏻(電源)ボタンが効かないことがあります。

A 本機が自動解析しているときは、オン/スタンバイランプがオレンジ色に点灯し、イルミネーションランプ(青ランプ)がゆっくりと点滅します。解析を中断して電源を切るには、■ボタンを押してください。

A 本機をサーバ(親機)としてクライアント(子機)で再生中は電源ボタンを押すとイルミネーションがゆっくりと点滅してサーバ動作を継続します。電源を切るには■ボタンを押してください。

A オン/スタンバイランプが赤色のとき、電源コードをコンセントから抜いても、しばらく点灯している場合があります。

Q 電源を切ったのに本体から音がする。または本体が温かい。

A 本機のスタンバイモード設定が高速起動モードの場合、本機の内部の一部が稼動しており、そのためファンが回ることがあります。

画面

Q 画面が乱れる。

A 本機が衝撃や振動に反応した。安定した場所で使用してください。

A ハードディスクの特性上、ごくまれに画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

音声

Q 音が出ない。

A タイマー録音中は、消音状態になっています。

A 外部機器の接続と、オーディオインファンクションの入力端子の設定があっているか確認する。

A スピーカーコードをしっかり差し込む（24、25ページ）。

Q 左右の音のバランスが悪い、または逆転している。

A スピーカーおよび各機器を正しく接続する（24、25ページ）。

Q 音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。

A スピーカーおよび各機器を正しく接続する（24、25ページ）。

Q スピーカーからブーンという音がする。ノイズがひどい、音が歪む。

A スピーカーおよび各機器を正しく接続する（24、25ページ）。

A 音声接続コードをディスプレイや蛍光灯、その他の機器から離してみる。

A ディスプレイやテレビと本機を離して設置する。

A プラグや端子が汚れているときは、アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。

A ディスクに汚れ、傷がある。

HDDジュークボックス

Q CDから録音できない。

A ディスクが音楽CD規格に準拠していない。

A ディスクが傷ついていたり、汚れている。

A MP3CDは録音できません。

Q MDから録音できない*。

A ディスクが傷ついていたり、汚れている。

Q MDから録音中に音が再生できない*。

A デジタル録音のときは、音は再生されません。

Q ファイルが取込めない。

A 一度に取込めるのは、10,000曲までです。

A 拡張子が「.mp3」、「.oma」（著作権保護なし）、「.wma」（著作権保護なし）「.wav」またはAAC形式（著作権保護なし、変換して取込み）のファイルのみ取込むことができます。ただし、上記のフォーマットの音楽ファイルであっても、ファイルによっては本機に取込めない場合があります。

Q MDに転送できない*。

A 転送回数が制限を越えている。

A Hi-MDなどの、対応していないディスクを入れている（141ページ）。

A 1秒未満の曲は転送できません。

A MDに転送できるのは、最大254曲です。

Q MDからの録音が等速録音になる*。

A パソコンや本機などから転送された曲がMDに含まれている場合はアナログ録音になります。

* NAS-M700HDのみ

Q ポータブル機器に接続できない。

A 本機の上面、後面両方にUSBケーブルを接続しているときは、一方をはずす。

A 接続しているUSBケーブルを接続し直す。

Q USBメモリへの転送で、フォルダ名が途中で切れる。

A USBメモリへ転送されるフォルダ名の最大サイズは78バイトです。
- 日本語でおよそ26文字
- アルファベットでおよそ78文字

Q オプションメニューの[転送先からの削除]のMDグループ/トラック削除画面で曲名が表示されない*。

A [表示切換]を選ぶ。半角/全角の表示が切り換わります。

Q MP3音声が再生できない。

A 不正なフォーマットで録音されたMP3音声を再生しようとした。

Q 編集に時間がかかる。

A HDDジュークボックス内のアルバムや曲の数によっては時間がかかることがあります。

A リニアPCM形式の曲を編集する場合は時間がかかることがあります。

Q タイトル情報を取得できない。

A インターネットに接続していない。

A Gracenote® Music Recognition Serviceのデータベースに該当するタイトル情報が存在しない(94ページ)。

A 曲の先頭から録音されていないなど、録音状況が悪い場合、タイトル情報が取得できないことがあります。

A 15秒以下の曲のタイトル情報は取得できません。

Q 曲をつなげない。

A 結合後の合計演奏時間が120分を超えている場合、結合できません。

A 結合する2曲のフォーマットやビットレートが異なる。

Q 結合/分割を繰り返していたら、曲をつなげなくなった。

A ハードディスクのシステム上の制約です。故障ではありません。

Q ラジオ録音がトークと音楽に自動判別されない。

A 録音設定の「トラックマーク」設定が「オート」になっているか確認する。

Q 曲を分けられない。

A 曲の分割位置を先頭または最後付近に指定している場合、分割できません。

A 分割後のHDDジュークボックスの全曲数が40,000曲を超えてしまう場合、分割できません。

* NAS-M700HDのみ

Q SonicStageで保存した曲が取込めない。

A 著作権保護がかかっている曲は取込めません。SonicStageのフォーマット変換で著作権保護を解除してください。詳しくはSonicStageのヘルプをご覧ください。ただし、音楽ダウンロードサイトから購入した著作権保護のかかった曲は著作権保護の解除ができません。

Q イニシャルサーチで、アルバムやアーティストが見つからない。

A どのイニシャルに振り分けるかは、本機の辞書機能が自動的に判断しています。曲によっては、実際とは異なる読みかたで分類される場合があります。一覧表示で見つからない場合は、以下のように検索することをおすすめします。

- 別の読みかたのイニシャルを選ぶ(「永遠(えいえん)に」/「永遠(とわ)に」など)
- イニシャル切り換えで「etc.」を選ぶ
- 別のジャンル(「アーティスト」または「アルバム」)で検索する

おまかせチャンネル

Q 思ったチャンネルに曲が入っていない。

A 12音解析技術に基づいて分類されますので、思ったチャンネルに入らないことがあります。チャンネルを削除することはできませんが、非表示にしたり(57ページ)、別のチャンネルに移動する(57ページ)ことはできます。

Q チャンネルに曲が入っていない。

A 録音設定で「トラックマーク」を「オート」に設定していないと、エアチェックチャンネルに曲は入りません。

A 解析が実行されていないと、チャンネルに曲は入りません。自動解析または手動解析を行ってください(58ページ)。

Q おまかせチャンネルの年代MIXにEZ「着うたフル®」が表示されない。

A EZ「着うたフル®」は年代MIXに含まれません。

CD

Q 再生できない。音飛びが入る。

A 再生できないディスクを入れている(141ページ)。

A 結露している。ディスクを取り出して電源を切った状態で約30分放置し、再びディスクを入れる(139ページ)。

A ディスクがCD規格に準拠していない。

A ディスクが傷ついていたり、汚れている。

Q 再生されない曲がある。

A マルチセッションディスクの音楽用CDフォーマットは、最初のセッションに記録されている曲しか再生できません。

Q MP3音声が再生できない。

A ISO9660レベル1、2またはJolietに準拠していないMP3ファイルが記録されている。

A 拡張子「.mp3」が付いていないMP3形式のファイルは、再生できません。MP3形式以外のファイルに拡張子「.mp3」が付いていると、そのファイルを再生しようとしてしまうため、雑音や故障の原因となります。

A 拡張子は「.mp3」だが、MPEG-1 Audio Layer3以外のデータ形式になっている。

Q アーティスト名が表示されない。

A MP3CDでは、メイン画面にアーティスト名は表示されません。トラック（ID3）詳細情報画面で確認できます（61ページ）。

Q タイトル情報を取得できない。

A インターネットに接続していない。

A MP3モードになっている。

A Gracenote® Music Recognition Serviceのデータベースに該当するタイトル情報が存在しない（94ページ）。

MD*

Q 再生が始まらない。

A 再生できないMDを入れている（141ページ）。

A 楽曲が入っていないMDを入れている。

A 結露している。MDを取り出して電源を切った状態で約30分放置し、再びMDを入れる。

Q 操作できない。音飛びが入る。

A MDが傷ついていたり、汚れている。

Q 曲名が表示されない。

A 半角/全角の設定が異なっている。オプションメニューで[表示]－[タイトル表示]で全角、半角を切り換えてください。

Q HDDジュークボックスに録音中、音が再生できない。

A デジタル録音のとき、音は再生されません。

* NAS-M700HDのみ

Q 本機から転送した音楽ファイルの入ったMDが、カーステレオや他のオーディオ機器で再生できない。

A LPステレオ（MDLP）に対応していないプレーヤーで再生するには、MDの録音設定で[MD録音モード]を[ステレオ録音]に設定してから音楽ファイルをMDに転送してください（47ページ）。

au「LISMO]対応携帯電話

Q au「LISMO」対応携帯電話のロックNo.を変更してしまった。

A ロックNo.を変更しても使用できます。ただし、再度機器登録が必要です（38ページ）。

Q au「LISMO」関連情報初期化に時間がかかる。

A 本機に取込んだEZ「着うたフル®」の曲数が多いほど時間がかかります。

Q 本機のEZ「着うたフル®」がDLNA対応クライアント（子機）から見えず、再生できない。

A 本機に取込んだEZ「着うたフル®」はDLNAによる再生機能には対応していません。

Q 本機からau「LISMO」対応携帯電話に転送した音楽データを着信音に設定できない。

A 着信音に設定できるのはEZ「着うたフル®」のみです。

Q おまかせチャンネルの年代MIXにEZ「着うたフル®」が表示されない。

A EZ「着うたフル®」は年代MIXに含まれません。

ラジオ（FM/AM）

Q 放送が受信できない。

A アンテナを正しく接続する。

A アンテナの向きなどを調節する。

A 屋外アンテナを使用する。

Q オンエア情報が表示されない。

A “エニーミュージック”に登録していない。

A ラジオ局がNOW ON AIR機能を提供していない。

A ユーザーID、パスワードを保存していないか、または“エニーミュージック”への認証に失敗した可能性があります。画面の指示に従って操作してください。再接続するには、オプションメニューで［Any Musicに接続］を選びます。

A AM受信では、オンエア情報は表示されません。

A あらかじめ、プリセットを登録する必要があります。

A FM局を登録するときに［ラジオ局名を］のプルダウンメニューから［地域のリストから選択］または［全国のリストから選択］を選ぶ必要があります。

A ネットワークの接続・設定を確認する。

かんたん音楽転送

Q インストーラーが自動的に起動しない。

A WindowsエクスプローラーでCD-ROMドライブをダブルクリックして開き、setup.exeをダブルクリックして実行してください。

Q 「かんたん音楽転送」ソフトウェアを使って、本機以外の“ネットジューク”に音楽ファイルを転送できない。

A 「かんたん音楽転送」ソフトウェアは、NAS-D500HD/NAS-M700HD以外ではご利用になれません。

Q 外国語版OS（Operating system）のパソコンに「かんたん音楽転送」ソフトウェアをインストールできない。

A 「かんたん音楽転送」ソフトウェアは、外国語版OS（Operating system）のパソコンにはインストールできません。

Q 転送先が見つからない。

A 本機の電源を入れる。

A 本機とパソコンを付属のLANケーブル（クロス）でつないでから、設定メニューの［パソコンから音楽取込］を選んで、パソコンの「かんたん音楽転送」ソフトウェアの［ツール］メニューから［転送先の指定］を選び、転送先一覧から本機を選ぶ。

A セキュリティソフトの設定によっては転送先が見つからない場合があります。

Q LANケーブル（クロス）で接続しても転送先が見つからない。

A 「パソコンから音楽取込」のLANケーブル接続画面で［LANケーブル（クロス）で取込む］を選ぶ。

A 数分待ってから再度パソコンの「かんたん音楽転送」ソフトウェアの［ツール］メニューから［転送先の指定］を選んで、転送先一覧から本機を選ぶ。

A パソコンの「ネットワーク接続」で、「ローカルエリア接続」設定が有効になっているか確認する。

A パソコンの「ネットワーク接続」で、「DHCP」設定が「IPアドレスを自動的に取得する」になっていない場合、下記の手順に従って設定する。

「ローカルエリア接続」のプロパティ画面で[インターネットプロトコル(TCP/IP)] *1のプロパティを選び、「IPアドレスを自動的に取得する」にチェックを入れる*2。

*1 Windows Vistaの場合は[インターネット プロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)]です。

*2 パソコンの設定を変更する場合は、現在の設定をメモなどに記録してください。パソコンの設定を元に戻さないと、以前のネットワークに接続できなくなる場合があります。

A セキュリティソフトの設定により転送先が見つからない場合があります。

Q 曲によって転送に時間がかかる。

A AAC形式のファイルはフォーマット変換するため、他のファイルより転送に時間がかかります。

Q パソコンの「かんたん音楽転送」ソフトウェアを使って転送できない。

A 設定メニューの[サーバ設定]－[接続機器手動設定]で、ネットワーク上の機器の一覧で転送元であるパソコンが拒否設定になっている可能性があります。転送元であるパソコンの接続設定を「許可」に変更して再度「かんたん音楽転送」ソフトウェアを使って転送してください。

A 本機とパソコンを無線LAN接続している場合、再度実行しても転送できないときは、本機とパソコンを付属のLANケーブル(クロス)でつないでから音楽ファイルを取込む。

Q パソコンの「かんたん音楽転送」ソフトウェアを使って転送すると、途中で転送が切れる。

A 本機とパソコンを無線LAN接続している場合、再度実行しても転送できないときは、本機とパソコンを付属のLANケーブル(クロス)でつないでから音楽ファイルを転送してください。

Q タイマー録音されていない。ウェイクアップタイマーで予約した音楽が再生されない。

A パソコンからの音楽取込中は、タイマーは無効になります。

インターネット

Q インターネットに接続できない。

A 設定メニューで[ネットワーク設定]－[接続確認]を選び、現在のネットワーク状態を確認する。

A ネットワーク設定を確認する。ご利用の回線事業者またはプロバイダに問い合わせる。

A ルーターの設定を確認する。
ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書、プロバイダの資料をご覧ください。

A ルーター機能のないモデムに直接接続している場合は、インターネットに接続できません。
ルーター経由で接続してください。

A 同時に1つの端末しかインターネットに接続できない契約の場合、他の末端を先に接続しているときは接続できません。

A 本機を無線LANでインターネットに接続している場合、電波の状況により、接続できないことがあります。

Q ADSLに接続できない。

A スプリッターのDSLポートとTEL（TELEPHONE）ポートを間違えている。

A ADSLモデムやルーターのランプが正しく点灯しているか確認する。
各機器の取扱説明書をご覧ください。

Q 無線LANがつながらない。

A ご使用の無線LANアダプターを確認してください。対応機種はサポートページをご覧ください。

A 無線LANは電波状況の影響を受けます。
電子レンジなどの機器の近くでは電波状況が悪くなる場合があります。
USB無線LANアダプターにUSB延長ケーブルを使用して電波の受信に最適な位置に設置してください。

A USB延長ケーブルを使用して電波の受信に最適な位置に設置してください。

ANY MUSIC

Q "エニーミュージック"に接続できない。

A 設定メニューで［ネットワーク設定］－［接続確認］を選び、現在のネットワーク状態を確認する。

A ネットワーク設定を確認する。ご利用の回線事業者またはプロバイダに問い合わせる。

A 日付が間違っている。時計を合わせる（29、99ページ）。

A ルーターの設定を確認する。ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書、プロバイダの資料をご覧ください。

A "エニーミュージック"に問い合わせる。
http://www.anymusic.jp/

Q 試聴している曲が途切れる。

A ネットワーク環境により、音が途切れることがあります。

A 本機を無線LANでインターネットに接続している場合、電波の状況により、音が途切れることがあります。

Q "エニーミュージック"からダウンロードした曲が再生できない。

A 利用条件を詳細情報で確認してください。

ホームネットワーク

本機をクライアントとして使う場合

Q サーバに接続できない（エラーメッセージが表示される）。

A 設定メニューで［ネットワーク設定］－［接続確認］を選び、現在のネットワーク状態を確認する。

A ネットワーク設定を確認する。ご利用の回線事業者またはプロバイダに問い合わせる。

A 本機のIPアドレスが正しく取得できているか確認する。「DHCP」の設定で「すべて自動設定」にしている場合、正しく取得できている場合は「IPアドレス」の設定画面にIPアドレスが表示されます。IPアドレスが表示されない場合は、下記の項目を確認してください。

- 本機の電源を入れるよりも先に、ルーターの電源を入れたか（85ページ）。
- ネットワーク接続環境に合わせて、本機のIPアドレス取得方法が正しく設定されているか。

A サーバの初期設定が正しく行われているか確認する。

A サーバでインターネット接続ファイヤーウォール(ICF)機能を無効にしてください。

A サーバ側で本機の機器登録がされているか確認する。
サーバで本機の機器登録を削除しても、本機に表示されるサーバ一覧には残っている場合があります。

A 機器登録をやり直してください。

A サーバを再起動してください。

A オプションメニューで[表示]－[最新情報に更新]を選ぶ。画面にサーバが表示されるまで、時間がかかることがあります。

Q 前回接続したサーバに接続できない。

A 本機とサーバをクロス変換ケーブルで接続している場合は、自動接続できないことがあります。ハブを経由して接続してください。

Q 本機をバイオに登録できない。

A ネットワークの接続は正しいか確認する。
下記の項目を確認してください。

- 「確認番号を発行する」のチェックを外しているか。
- 本機の電源を入れるよりも先に、ルーターの電源を入れたか。
- ネットワーク接続環境に合わせて、本機のIPアドレス取得方法が正しく設定されているか(92ページ)。

Q サーバ選択画面にサーバが表示されない。

A オプションメニューで[表示]－[最新情報に更新]を選ぶ。画面にサーバが表示されるまで、時間がかかることがあります。

A 「ミュージックサーバー」が起動しているか確かめる。
VAIO Mediaをご使用の場合は、「VAIO Mediaコンソール」画面で、「状態」が「開始」になっていることを確認してください。

Q サーバに接続するまで時間がかかる。

A ルーターのない環境で本機をお使いになる場合、電源を入れたあと、本機のIPアドレスを自動的に取得し、本機とサーバが接続するまで、約30秒かかることがあります。

A 本機のIPアドレスが、他の機器で使用している数値になっている。他の機器と異なるIPアドレスに設定し直してください。

Q 途中からサーバに接続できなくなった。または再生できなくなった。

A ルーターのない環境で本機をお使いになる場合、途中からルーターを接続すると本機のIPアドレスが変更され、接続できなくなることがあります。サーバ選択画面で最新情報に更新してください(「サーバ選択画面にサーバが表示されない」参照)。

Q 音が途切れる。

A 本機を無線LANでインターネットに接続している場合などネットワーク環境により、電波の状況で音が途切れることがあります。

A サーバに負担がかかりすぎている。サーバ上で動作しているアプリケーションを終了してください。

Q 曲のフォーマットがサーバと本機で異なって表示される。

A 本機では、ネットワーク経由で再生するときのフォーマットが表示されるため、サーバ上で表示されるフォーマットとは異なる場合があります。

Q 「非対応フォーマットの曲が見つかりました」と表示され、再生できない。

A サーバ上で曲のファイルが壊れていたり、削除されていないか確認してください。
詳しくは、ご使用のサーバの取扱説明書をご覧ください。

本機をサーバとして使う場合

Q クライアント(子機)からサーバ(親機)が見えない。またはサーバに接続できない。

A ネットワークが正常でないと接続できません。ネットワークの状態を確認してください。

A サーバ設定の「サーバ機能」を[開始]に設定する。

A サーバへの接続が拒否されています。サーバ設定の[接続機器 手動設定]で確認してください。

A 本機に接続可能なクライアント数の上限の20台を超えています。
サーバ設定の[接続機器 手動設定]で確認して、不要な接続機器を削除してください。

A ネットワーク環境によっては自動で接続ができない場合があります。
サーバ設定の[接続機器 手動設定]から手動で機器登録を行ってください。

A 本機が次の場合、サーバ動作は中断します。操作が終わると、再度サーバ接続されます。

録音中、取込み中、編集中、おまかせチャンネル手動解析中、バージョンアップ実行中、画面デザイン設定表示中、音楽データ移動実行中

自動的にサーバ接続できない場合は、サーバ設定の[接続機器 手動設定]でクライアントが登録されているか確認してください。クライアントが登録されていない場合は、「接続機器を手動で登録するには」(102ページ)の手順に従って、手動で登録してください。

Q クライアント(子機)で曲が表示されない。

A クライアント側で再生できないフォーマットを再生させる場合は本機をホームネットワークファンクションにする。
ただし、この場合、接続できるクライアントは1台のみとなります。

A 本機に取込んだEZ「着うたフル®」はDLNAによる再生機能には対応していません。

Q クライアント(子機)で曲が再生できない。

A 本機に接続して再生できるクライアント数の上限を超えています。
別のクライアントを停止させることで再生できるようになります。

A ネットワーク環境によっては複数のクライアントで同時に再生できないことがあります。
別のクライアントを停止させることで再生できるようになります。

A 録音や編集の操作がサーバ側で行なわれた場合、曲の情報を更新します。そのため情報が取得できないことがあります。その場合は、クライアント側で情報更新を行なってください。

Q クライアント(子機)の再生を止めてもSERVERランプが点灯している。接続数の表示が一致しない。

A クライアントがサーバのデータを読み込むタイミングによって表示が一致しないことがあります。

タイマー

Q タイマー録音されていない。

A 予約待機中に停電があったか、電源コードが抜かれた可能性があります。

A 本機が衝撃や振動に反応した。安定した場所で使用する。

A バックアップ中、復元中、パソコンからの音楽取込中、音楽データの移動中は録音されません。

Q ウェイクアップタイマーで予約した音楽が再生されない。

A 予約待機中に停電があったか、電源コードが抜かれた可能性があります。

A 本機が衝撃や振動に反応した。安定した場所で使用する。

A バックアップ中、復元中、パソコンからの音楽取込中、音楽データの移動中は再生されません。

Q タイマー録音した内容が途中で切れている。先頭、途中が抜けている。

A タイマー録音中に停電があったか、電源コードが抜かれた可能性があります。

A タイマー録音開始直前に、編集やバックアップなどの操作を行っていると、先頭が抜ける場合があります。

A 本機が衝撃や振動に反応した。安定した場所で使用する。

バックアップ

Q 差分バックアップしたデータが、差分バックアップする前のデータ量の2倍になる。

A 時計設定が、前回バックアップ時よりも前のものに設定されています。本機の電源コードを抜いた後に放置した場合、時計設定は、初期設定に戻ります。

A フルバックアップする（117ページ）。

Q 音楽データの復元中に以下のメッセージが表示される。

「OpenMGで著作権保護されているコンテンツのバックアップ･リストアについてただいまお客様がリストア（データの復元）を行われたバックアップファイルは、すでに複数回のリストアが行われております。コンテンツの著作権に配慮し、一定回数以上のリストアを制限させていただく場合がありますので、リストアが複数回行われているバックアップファイルのご使用に際しては、本注意メッセージを表示させていただいております。」

A お使いの周辺機器による不具合が繰り返されるか、製品が著しく不安定なために、リストアしたデータが利用できなくなる場合

- ソニーの相談窓口、または販売店にお問い合わせください。

A 何度音楽データの有効化を試みても、最終的に失敗する場合

- USBハードディスクが破損･損傷している可能性があります。

音楽データ移動

Q 接続に失敗する。

A 受信側、送信側の移動方向の設定を確認してください。

A 受信側、送信側が共に音楽データ移動に対応しているか確認してください。

Q 接続に時間がかかる。

A 送信側の音楽データが多い場合、時間がかかることがあります。

Q 移動できない曲ある。

A 受信側で対応していない形式の曲は移動できない場合があります。

Q 移動した曲のジャケット写真が表示されない。

A 受信側で対応していない形式のジャケット写真は移動できない場合があります。

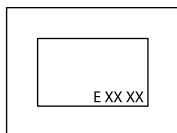
その他

Q 正常に動作しない。

A 静電気などの影響を受けている。このときは、電源ボタンを押して電源を切り、再び電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、リセットする（122ページ）。

A 画面に警告メッセージが出ているときは、メッセージに従ってください。

Q 画面に5桁のアルファベットと数字が表示されている。

A 自己診断機能が働いている。本機の異常を未然に防ぐため、自己診断機能が働くと、画面にアルファベットと数字で5桁のサービス番号（例：E 00 11）を表示します。表示が出たら、ソニーの相談窓口にご連絡ください。そのときにはサービス番号の5桁全てをお知らせください。

Q オン/スタンバイランプ（赤）が点滅する。

A スピーカープロテクト機能が働いている。電源コードをコンセントからはずし、スピーカーケーブルの接続を確認する。
ショートなどの異常がなければ、オン/スタンバイランプが消灯したことを確認してから、電源コードをコンセントにつなぐ。

Q リモコンが働かない。

A 本機の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本機を蛍光灯から離して設置する。

Q 画面に「オーディオデータが壊れています」と表示される。

A ［修復］を選ぶ。

Q 本機が振動したり、通風孔から音が出る。

A HDDが高速回転しており、本体の温度上昇を抑えるためにファンが回ります。回転による振動や音は故障ではありません。

Q CD録音時に振動や音が大きくなる。

A CDの再生時に比べ、高速回転でHDDに録音するためで、故障ではありません。また、CDの種類によっては、振動や音の大きさが異なる場合があります。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではHDD搭載ネットワークオーディオシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーの相談窓口にご相談ください。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品はご同意をいただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

修理について(ハードディスク)

修理・点検の際、不具合症状の発生・改善等の確認のために必要最小限の範囲でハードディスク上のデータファイルを確認したり、プログラムを起動することがあります。ただし、それらのファイル、プログラムをソニー側で複製・保存することはありません。
ハードディスクの初期化または交換が必要となる場合は、弊社の判断で初期化を行わせていただきますのでご了承ください(著作権法上の著作物に該当するデータが発見された場合も含みます)。

なお、初期化により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが全て消去されますので、あらかじめお客様にてバックアップ等保存につき必要な対応をされるようお願いいたします。

ご相談になるときは、以下のことをお知らせください。
● 型名:
● 故障の状態:　できるだけ詳しく
● 購入年月日:

ソニーの相談窓口のご案内(裏表紙)

お買い上げいただいたHDD搭載ネットワークオーディオシステムは、ソニーの相談窓口でも保証サービスを行っております。
製品の品質には万全を期しておりますが、万一、故障などの不具合が生じた場合や、接続や操作の方法がわからない場合は、まず、裏表紙の電話番号にお問い合わせください。
また、製品に対するご意見なども、お気軽にお寄せください。よりよい製品作りに生かしていきたいと考えております。

あらかじめ以下のことをお調べいただくと、対応が円滑に進むこともあります。
お手数をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

- 型名：
- ご契約されているインターネットサービスプロバイダの名前とサービス（コース）の種類
- お使いのルーターやハブのメーカー名と型名

今後ともソニー製品をご愛用くださいますようお願い申し上げます。

注意事項

使用上のご注意

設置場所について

以下のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所
- じゅうたんや布団の上
- 湿気の多い所、風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所
- 極端に寒い所

通風孔をふさがないでください。本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本体後面の通風孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。物を置くなどして、通風孔を絶対にふさがないでください。

設置場所を変えるときは

CDやMD*を入れたまま、本機を動かさないでください。
CDやMD*を入れたまま動かすと、CDやMD*を傷めることがあります。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーをテレビのそばで使うと、テレビの種類により色むらが起こる場合があります。色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15~30分後に再度電源を入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。再生を始める前には、必ず音量を小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、CDやMD*、部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、CDやMD*を取り出しておいてください。
結露が生じたときは、CDやMD*を取り出して、電源を切って約30分放置し、電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口にご相談ください。

輝点・滅点について

画面上に赤や青、緑の点（輝点）が消えなかったり、黒い点（滅点）が表れたりしますが、故障ではありません。
液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。

ハードディスクについて

ハードディスクは記録密度が高いので、長時間録音やすばやい頭出し再生を楽しめます。その一方、ハードディスクはほこりや衝撃、振動に弱い性質があります。
ハードディスクには衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記録したデータを失ってしまうことのないよう、以下の点に特にご注意ください。

- 衝撃を与えないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- コンセントをさしたまま本機を動かさないでください。
- 録音や再生中はコンセントを抜かないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。
- お客様ご自身で、ハードディスクの交換や増設はできません。故障の原因となります。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合は、データの修復はできません。

* NAS-M700HDのみ

データのバックアップについて

修理時に本機のハードディスクに保存されていた音楽データ、設定データなどが再現不可能になることがあります。修理に出される前に、本機に登録した設定内容などは紙に控えてください。また、本機に保存した音楽データは、バックアップ機能（「データをバックアップする」 117ページ）を使用して、外部に接続したUSBハードディスクにコピーしてください。

ハードディスクに記録されたデータは、通常の使用においても壊れる可能性があります。お客様が保存したデータは、定期的にバックアップをとるようにしてください。弊社の修理、また通常の使用において、万一データが消去、あるいは変更されたとしても、弊社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

電源コードを抜くときのご注意

本機がスタンバイモードになり、イルミネーションランプ（青ランプ）が消えていることを確認してから電源コードを抜いてください。

オン/スタンバイランプが緑色またはイルミネーションランプ（青ランプ）がついているときに電源コードを抜くと、内部データの消失や故障の原因となります。

CDの取り扱いかた

- 紙やシールなどを貼ったり、傷つけたりしないでください。
- 本機でお使いいただけるCDは、円形ディスクのみです。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。汚れがひどいときは、少し湿らせた布で拭いたあと、乾いた布で水気を拭き取ってください。ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは使わないでください。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。
- 中古ディスクやレンタルディスクで、シールなどののりがはみ出していたり、付着しているディスクは使用しないでください。プレーヤー内部にディスクが貼り付いて取り出せなくなったり、プレーヤー本体の故障の原因となります。
- 市販のCDレンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

著作権保護技術対応音楽ディスクについて

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生・録音できない場合があります。

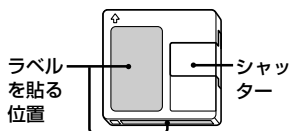
DualDiscについてのご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠したディスクの再生を前提として、設計されています。 DualDiscはDVD規格に準拠した面と、音楽専用の面とを組み合わせた両面ディスクですが、音楽専用の面はCD規格に準拠していないため、本製品で再生できない場合があります。

DualDiscは全米レコード協会（RIAA）の商標です。

MDの取り扱いかた*

MDはカートリッジに収納され、ゴミや指紋を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。ただし、カートリッジの汚れやそりなどが誤動作の原因になることもあります。いつまでも美しい音で楽しめるように次のことにご注意ください。

- シャッターを無理に開けようとすると、こわれることがあります。シャッターが開いてしまった場合は、内部のディスクに直接触れずに、すぐに閉めてください。
- ディスクに付属のラベルは、必ずラベル貼付用のくぼみに貼ってください。ラベルの形はディスクによって異なります。

- 直射日光が当たる所など温度の高い所や湿度の高い所には置かないでください。
- カートリッジ表面についたホコリやゴミを乾いた布で拭き取ってください。

* NAS-M700HDのみ

MP3ファイルを再生するときの制限事項

- 本機はサンプリング周波数32kHz、44.1kHz、48kHz及びビットレート32 ～ 320kbpsに対応しています。それ以外の数値で作成されたファイルを再生すると、再生が停止したり、大きな雑音や音途切れがしたり、スピーカーを損傷する恐れがあります。
- MP3形式以外のファイルに「.mp3」の拡張子をつけると、本機はそれらを再生しようとしてしまい、再生をスキップしたり、雑音や故障の原因となります。
- 本機はMP3PROで記録されたファイルには対応していません。
- 以下の場合、MP3の再生経過時間、または、再生残量時間が実際と異なることがあります。
  - — VBR(Variable Bit Rate、可変ビットレート)のMP3ファイルを再生したとき
  - — 早送り、早戻しをしたとき

対応CD/MD*について

○本機では以下のディスクを再生できます。

CD：　音楽用CD/CD-R/CD-RW/CD TEXT

MP3ファイル：

CD-ROM/CD-R/CD-RW(ISO9660レベル1、2またはJolietに準拠したフォーマットで記録されたもの)、マルチセッション対応

！ご注意

- マルチセッションディスクの音楽用CDフォーマットは、最初のセッションに記録されている曲しか再生できません。
- マルチセッションディスクの音楽用CDフォーマットとCD-ROMフォーマットのセッションの構成により、MP3ファイルが再生できない場合があります。
- CD-R/CD-RWのディスクの特性や記録状態によっては、再生できない場合があります。
- CD-RWは、反射率が他のディスクよりも低いため、再生開始までに時間がかかることがあります。
- ディスクに記録された曲が500を超える場合、501番目以降の曲は認識されません。
- 多くの階層や複雑な構成で記録したディスクは再生開始までに時間がかかることがあります。ディスクにアルバムを記録するときは第2階層までにすることをおすすめします。

ヒント

CDの記録方式について詳しくは、お手持ちのCD-R/RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

×本機では以下のMDなどを再生することはできません。*

- Hi-MD
- MDデータ
- Hi-MDモードで録音されたMD

* NAS-M700HDのみ

主な仕様

アンプ

実用最大出力

20W＋ 20W（8 Ω、JEITA*）

* JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

システム（CD部）

周波数特性

20Hz ～ 20kHz

全高調波ひずみ率

0.1%以下

システム（MD部）（NAS-M700HDのみ）

サンプリング周波数

44.1kHz

周波数特性

20Hz ～ 20kHz

システム（HDDジュークボックス部）

容量

160GB*

* 容量の一部はデータ管理領域として使用されます。
実際の使用可能領域は約142GB（152,471,339,008byte）です。

フォーマット

ATRAC
MP3
リニアPCM
WMA

最大録音時間（ATRAC 48kbps時）

約7,040時間

最大曲数

40,000曲

FM/AM部

回路方式

PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式

受信周波数

FM:76.0 ～ 90.0MHz
AM:531kHz ～ 1,602kHz

入･出力端子

アンテナ入力

FM：75 Ω不平衡型
AM：外部アンテナ端子

モニター出力

ピンジャック
1Vp-p（75 Ω不平衡）

オーディオ入力

上面：ステレオミニジャック
後面：ピンジャック（左、右）（NAS-M700HDのみ）

オーディオ入力レベル

上面：0.8 V（高感度）、1.5 V（低感度）
後面：1.5 V（NAS-M700HDのみ）

オーディオ出力

後面：ピンジャック（左、右）（NAS-M700HDのみ）

オーディオ出力レベル

0.5V（NAS-M700HDのみ）

ネットワーク端子

10BASE-T/100BASE-TX

（USB）端子

USBタイプA
Hi-Speed USB
“ウォークマン”接続用

WM-PORT

WM-PORT搭載“ウォークマン”接続用
DC5V、500mA

ヘッドホン端子

ステレオ ミニジャック

スピーカー（NAS-D500HD）

型式

2Wayスピーカーシステム バスレフ型

スピーカーユニット

ウーファー：120mm コーン型
トゥイーター：25mm バランスドーム型

定格インピーダンス

8 Ω

最大外形寸法

143×250×220mm（幅/高さ/奥行き）

質量

約2.2kg

スピーカー（NAS-M700HD）

型式

2Wayスピーカーシステム バスレフ型

スピーカーユニット

ウーファー：120mm コーン型（アラミド繊維配合HOP*振動板）
トゥイーター：25mm ソフトドーム型
* HOP：High Oriented Polyolefine

定格インピーダンス

8 Ω

最大外形寸法

150×280×223mm（幅/高さ/奥行き）

質量

約2.9kg

電源、その他

電源

AC100V、50/60Hz

消費電力

48 W（JEITA*）

待機消費電力

0.5W以下（標準起動スタンバイ）
18W以下（高速起動スタンバイ）

最大外形寸法

285×143×285mm（幅/高さ/奥行き、突起部含まず）

質量

NAS-D500HD：約 5.0kg
NAS-M700HD：約 5.6kg

許容動作温度

5 ～ 35℃

許容動作湿度

25 ～ 80%

付属品

14ページをご覧ください。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力0.5W以下
- 包装用緩衝材に紙材料を使用

「かんたん音楽転送」ソフトウェアを使用する際に必要なシステム環境

「かんたん音楽転送」をお使いいただくには、次のようなハードウェア/ソフトウェアが必要です。

パソコン	IBM PC/AT互換機 • CPU：Pentium Ⅲ 800MHz以上 • メモリ：512MB以上を推奨 • ハードディスクドライブ：200MB以上（1.5GB以上を推奨）の空き容量 Windowsのバージョンによってはそれ以上使用する場合があります。 • CD-ROMドライブ • Windows®互換サウンドボード • LANコネクタ
OS*	下記、日本語版標準インストールのみ • Windows XP Home Edition（Service Pack 2以上） • Windows XP Professional（Service Pack 2以上） • Windows XP Media Center 2004/2005 • Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate
ディスプレイ	16ビットカラー以上、800×600ドット以上

* このソフトウェアは64ビットOSでは動作の保証はいたしません。
* 上記のOS以外のOSでは動作の保証はいたしません。
* 上記の環境を満たすすべてのパソコンでの動作を保証するものではありません。
また、以下のシステム環境での動作保証はいたしません。
自作パソコン/標準インストールされているOSから他のOSへのアップグレード環境/マルチブート環境/マルチモニタ環境/Macintosh

HDDジュークボックス内の階層一覧

↓：決定ボタンまたは➡ボタンで次の階層へ
↑：⬅ボタンで前の階層へ
⇩：決定ボタンで再生画面へ

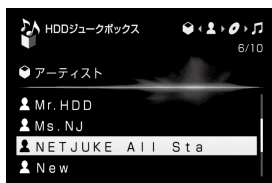
アルバムモード

アルバム一覧(アルバム階層)

トラック一覧(トラック階層)

再生画面

アーティストモード

アーティスト一覧(アーティスト階層)

アルバム一覧(アルバム階層)

トラック一覧(トラック階層)

再生画面

ジャンルモード

ジャンル一覧(ジャンル階層)

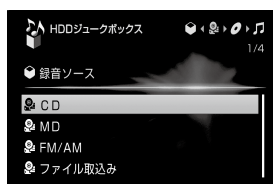
アルバム一覧(アルバム階層)

トラック一覧(トラック階層)

再生画面

↓：決定ボタンまたは➡ボタンで次の階層へ
↑：⬅ボタンで前の階層へ
⇩：決定ボタンで再生画面へ

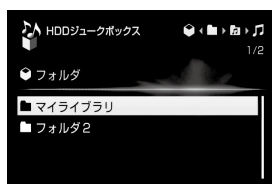
録音ソースモード

録音ソース一覧(録音ソース階層)

アルバム一覧(アルバム階層)

トラック一覧(トラック階層)

再生画面

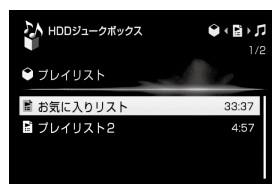
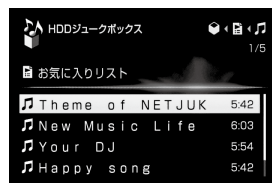
フォルダモード

フォルダ一覧(フォルダ階層)

グループ一覧(グループ階層)

トラック一覧(トラック階層)

再生画面

プレイリストモード

プレイリスト一覧(プレイリスト階層)

トラック一覧(トラック階層)

再生画面

おまかせチャンネルリスト

CH.	カテゴリ名	チャンネル名	内容
◆ 001	ベーシック	おまかせチャンネル –朝のおすすめ –昼のおすすめ –夕方のおすすめ –夜のおすすめ –深夜のおすすめ	時間帯別のおすすめ曲
◆ 002		お気に入りチャンネル	お気に入りリストの曲をシャッフル
◆ 003		気まぐれチャンネル	全曲をシャッフル
◆ 004		新着チャンネル	取込み日付が新しい曲をシャッフル
005		エアチェック(Music) *[1]	ラジオ録音の音楽部分
006		エアチェック(Talk) *[1]	ラジオ録音の音楽以外の部分
◆ 101	フィール	ファイン・デイ	元気が良くて楽しい曲など
◆ 102		レイニー・デイ	しっとり、もの悲しい曲など
103		シフトアップ	ノリの良い曲など
◆ 104		スローライフ	ゆったりとした曲など
201	スタイル	ソファラウンジ	ジャズっぽい曲など
202		フォレスト・ホール	クラシック調の曲など
203		ダンスフロア	リズムに乗ったラップ、R&Bなど
204		エクストリーム	激しいロック曲など
205		エモーショナル	バラード調の曲など
206		ノスタルジア	録音が古い感じの曲など
◆ 301	サウンド	アコースティック	アコースティック楽器を使った曲など
302		エレクトロニック	電子楽器を使った曲など
303		インストゥルメンタル	楽器だけの曲など
304		ボーカル	ボーカルの入った曲など
401	シーン:ライフ	おはようタイム	元気でさわやかなお目覚め曲
402		おやすみタイム	静かで穏やかなベッドルーム向けの曲
403		パーティータイム	アップテンポで明るい曲など
404		おそうじタイム	楽しくおそうじしたいときに
501	シーン:ワークアウト	ウォーク	お散歩、ウォーキングに
502		ラン	ジョギング、エクササイズに
503		メディテーション	集中したいときに
◆ 901	エクストラ	季節のチャンネル –季節のチャンネル・春 –季節のチャンネル・夏 –季節のチャンネル・秋 –季節のチャンネル・冬 –メリー・クリスマス	季節やイベントにマッチする曲など
909		隠れた名曲	どのチャンネルにも含まれない曲

◆該当する曲がなくても常に表示されるチャンネル(お買い上げ時の設定)。
*[1] エアチェックチャンネルは、ラジオの録音時、「トラックマーク」設定を「オート」にすると登録されます。

用語解説

■ 五十音順

【あ行】

イーサネット
米国のゼロックス社が開発したローカルエリアネットワーク（LAN）のモデルの1つ。現在、ローカルエリアネットワークを構成するために広く普及している。

インターネット
世界中のコンピュータが接続された通信網。メールや情報検索サービスなどが利用できる。

【か行】

楽曲クリップ
NOW ON AIRで表示される、FM放送で放送された楽曲の情報を本機に保存すること。

かんたん音楽転送
パソコンから音楽ファイルを取込む（「パソコンから音楽取込」）際に、パソコン側で利用する音楽転送ソフトウェア。

機器登録
本機とau「LISMO」対応携帯電話の間で機器情報を互いに登録すること。機器登録を行うと、本機にはau「LISMO」対応携帯電話の機器情報（ロックNo.と電話番号）が暗号化して保存される。

区点コード
日本工業規格（JIS）が一般に使用する文字に定めたコード番号。

結露（露つき）
暖房を入れて室温が急に上がったときなどに、本機内部に水滴が付くこと。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置する。

【さ行】

サンプリング周波数
音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要がある。この作業をサンプリングと呼び、1秒間に記録する回数をサンプリング周波数という。音楽CDの場合、1秒間に44,100回記録しており、サンプリング周波数を44.1kHzと表す。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になる。

【た行、な行】

転送
ハードディスク上で著作権保護技術「OpenMG」対応ソフトウェアで管理している音楽データを、"ウォークマン"などの外部機器・メディアに移すこと。また、外部機器・メディアに移した音楽データを元のハードディスクに戻すこと。著作権保護技術「OpenMG」により、暗号化してハードディスクに記録されるため、不正な使用や配信などを防止できる。一度転送したデータをハードディスクに戻したあと、再び転送することも可能。ただし、転送したデータを、他のハードディスクに転送することはできない。

【は行、ま行】

バイト
パソコンなどのデジタルデータを表す基本的な単位のひとつ。デジタルデータは、「0か1か」で表されるが、このデータひとつが1ビット、8ビットで1バイトという単位になる。半角文字は1バイトで表すため1バイト文字、一般的に全角文字は2バイトで表すため2バイト文字という。

ハードディスク
パソコンなどに使われている大容量データ記憶装置の1つ。磁気ディスクと駆動機構が一体になっているため、非常に高速で読み書きすることができ、データの検索性にすぐれている。

ビットレート
データの情報量を表す。単位として、ビット毎秒（bps: bit per second）を使うことが多く、音楽データに1秒あたりどのくらいの情報量があるか表す。

プロキシ
ファイアウォール（外部からの不正侵入防御壁）内にいるコンピュータが外部へアクセスできるようにしたり、インターネットのホームページなどを高速に表示したりできるプログラムまたはサーバ。

ブロードバンド

広域の周波数帯域を使用して、大容量の映像·音声データを高速で送受信できる回線の総称。現在、ブロードバンドと言われるものには、ADSL、CATV、光ファイバーなどがある。

プロバイダ

「インターネットサービスプロバイダ(ISP)」とも言う。インターネットへの接続サービスなどを提供する事業者。

【や行】

予測候補

予測変換機能で入力した文字に対して予測される単語や語句。

予測変換機能

入力した頭文字から単語全体を予測したり、入力した単語から文脈を予測する入力機能。学習機能があり、使えば使うほど、入力の手間が省けて便利に入力できる。

【ら行、わ行】

リニアPCM

非圧縮のデジタル音声データ形式。本機では、音楽CDと同じくサンプリング周波数44.1kHz, 16bitで記録される。

ルーター

ネットワーク間を中継する装置のことで、相互のネットワークのプロトコルやアドレスの変換を行う。ADSLやケーブルテレビでインターネットに接続する場合、ADSLモデムやケーブルモデムという機器を使うが、複数の端末からインターネットに接続するときは、ルーターという機器を使う。

アルファベット順

【A、B】

ADSL

非対称デジタル加入者回線(Asymmetric Digital Subscriber Line)の略。ブロードバンド回線の1つ。従来の銅線のアナログ電話回線を使用するが、音声信号とは別の高周波帯域を利用するため、大容量のデータ伝送が可能。上り方向(ユーザーの端末から送信する方向)の通信速度に対して下り方向(電話局からユーザーの端末へ流す方向)の通信速度が高速なため「非対称」の名前がついている。通信速度は契約しているサービスにより異なる。

ATRAC

ソニー株式会社が開発した音声圧縮技術。高圧縮率かつ高音質を実現。

【C】

CD TEXT

ディスク名、アーティスト名、曲名などの文字情報を記録した音楽CDの呼称。

【D、E、F、G、H】

DHCP

動的ホスト構成プロトコル(Dynamic Host Configuration Protocol)の略。インターネットの接続に必要な設定値を端末に自動的に割り当てるためのしくみ。

DLNA

デジタルリビングネットワークアライアンス(Digital Living Network Alliance)の略。デジタルコンテンツをネットワークを通じ、共有するための規格ガイドラインを策定している非営利団体。
詳しくは、http://www.dlna.org/jp/home/をご覧ください。

DNS

Domain Name Systemの略。マシン名からIPアドレスへ、またIPアドレスからマシン名への置き換えを行うサーバで、IPアドレスで特定されている。「DNSサーバ」などとも言う。

DSEE

Digital Sound Enhancement Engineの略。ソニーが独自に開発した高音域補完技術。MP3やATRACなどに圧縮する際に取り除かれた高音域を補完することで、音楽CDの原音により近い、自然で広がりのある音を再現する。

【I、J、K】

ID3

MP3ファイルに記録される曲名やアーティスト名などの情報。本機では、MP3形式の曲の詳細情報は、このID3タグを表示している。

IPアドレス

TCP/IP (伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル)ネットワークで使用される識別情報。
通常は、3桁までの数字4組を点で区切ったもの(192.168.239.1など)。
ネットワーク上のマシンには、必ずこのアドレスが付いている。

ISO9660

国際標準化機構(ISO)が制定したCD-ROMの論理フォーマット。

【L】

LAN

ローカルエリアネットワーク(Local Area Network)の略。オフィスや学校、ビルの中などの限定された地域に置かれたコンピュータやプリンタ、ファクシミリなどを相互接続して通信できるように構成されたネットワークの総称。

【M】

MP3

「MPEG-1 Audio Layer3」の略で、ISO（国際標準化機構）のワーキンググループであるMPEGで定めた音声圧縮の規格。音声データをCDの約1/10に圧縮できる。符号化アルゴリズムが公開されているので、さまざまなエンコーダーやデコーダーが存在する。パソコンの世界で広く普及している。

MSC

本機ではUSB Mass Storage Classを表す。MSCとはUSB Implementers Forumによって定義された転送プロトコルで、USB接続された外部機器とデータをやり取りするための規格。USBハードディスクやUSBメモリで使用されている。

MTP

Media Transfer Protocolの略。Microsoft社が開発したデータ転送技術で、画像や音楽、動画などのデータを、対応のポータブル機器に転送する技術。

【N、O、P、Q、R、S、T】

NOW ON AIR

本機で利用できる“エニーミュージック”のサービスの1つ。FM放送で放送中の内容が本機に表示される。

【U】

USBメモリ

本書では、USB Mass Storage Class規格に対応したUSB機器で、パソコンのUSB端子に接続するだけでリムーバブルディスクとして使える記憶装置のことを指す。
例えば、USBプレーヤーなども、USB Mass Storage Class規格に対応していれば、USBメモリとして使える。

【V】

VAIO Media

ソニーバイオコンピューターに搭載されているホームネットワークソフトウェア。本機と接続するには「VAIO Media Ver.4.1」以降が必要。

【W、X、Y、Z】

WM-PORT

“ウォークマン”を接続するための専用マルチ接続端子。

索引

かな

た

な

は

ま

や

ら

アルファベット

A

C

D

E

F

G

I

L

M

N

S

U

W

数字

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、本製品をご購入されたお客様（以下「お客様」とします）とソニー株式会社（以下「弊社」とします）との間での、本製品に搭載されている又は本製品に搭載する目的で弊社より提供するソフトウェア(以下「許諾ソフトウェア」とします)の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。

なお、許諾ソフトウェアには弊社が第三者より直接的に又は間接的に使用の許諾を受けたソフトウェアが含まれており、一部の第三者は本ソフトウェア使用許諾契約書とは別にお客様に対して使用条件等を定めております。かかるソフトウェアについては本契約が適用されませんので、別途提示させていただきます「ソフトウェアに関する重要なお知らせ」を必ずご確認下さい。

第1条　（総則）

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法律によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従い弊社からお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条　（使用権）

1. 弊社は、許諾ソフトウェアの非独占的な使用権をお客様に許諾します。
2. 本契約によって生ずる許諾ソフトウェアの使用権とは、お客様が許諾ソフトウェアを本製品に搭載されている状態で又は提供された許諾ソフトウェアを本製品1台に1部インストールして、本製品上においてのみ使用する権利をいいます。
3. お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写したり、これに対する修正、追加等の改変をすることができません。

第3条　（権利の制限）

1. お客様は、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
2. 各許諾ソフトウェアはそれぞれ1つの製品として、本製品における使用を条件に許諾されています。お客様は許諾ソフトウェアの全部若しくは一部又はその構成部分を複数のコンピュータでの使用のために分離してはならないものとします。
3. お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、弊社又は第三者の著作権等の権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。
4. お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
5. お客様は、本契約に基づいて、本製品と一体としてのみお客様の許諾ソフトウェアに関する権利の全てを譲渡することができます。但しその場合、お客様は許諾ソフトウェアの複製物を保有することはできず、許諾ソフトウェアの一切（全ての構成部分、媒体、マニュアルなどの関連書類、電子文書、リカバリディスク及び本契約書を含みます）を譲渡し、かつ譲受人が本契約の条項に同意することを条件とします。

第4条　（許諾ソフトウェアの権利）

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、弊社又は弊社が本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利を弊社に認めた原権利者（以下「原権利者」とします）に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約第2条に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条　（責任の範囲）

1. 弊社は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、又は許諾ソフトウェアが中断なく稼動することを保証しません。但し、弊社は弊社の裁量により、当該エラー、バグ等の不具合の修補若しくはバージョンアップを行うため、許諾ソフトウェアの全部又は一部を書き換える新たな許諾ソフトウェアのWeb、郵送等による配布、若しくは許諾ソフトウェア中の第三者製ソフトウェアについての問い合わせ先の通知を行うことがあります。なお、かかる配布により修補若しくはバージョンアップが行われたソフトウェアについても、特段の定めがない限り本契約の規定が適用されるものとします。
2. 弊社は、許諾ソフトウェアに関連して弊社及び原権利者が第三者の知的財産権を侵害していないことを保証するものではありません。
3. 弊社は、お客様が本契約に基づき許諾された使用権を行使することによりお客様又は第三者に生じた損害に関していかなる責任も負わないものとします。
4. 弊社は、許諾ソフトウェアに関連して弊社又は第三者が提供するサービスの開始又は継続を保証しません。
5. お客様に対する弊社の損害賠償責任は、いかなる場合にもお客様が証明する本製品の購入代金を上限とします。

第6条　（契約の解約）

1. お客様が本契約の規定に違反した場合、弊社は直ちに本契約を解約することができるものとします。この場合お客様が許諾ソフトウェアを使用する権利は消滅いたしますので、お客様は直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。
2. 前項の規定により本契約が解約され、弊社から要請があった場合、お客様は弊社が本製品から許諾ソフトウェアを削除するために本製品を弊社が指定する場所に送付するものとし、弊社は削除後すみやかに本製品をお客様に返還するものとします。

第7条　（その他）

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある国内外の輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及び弊社は誠意をもって協議し、解決するものとします。

以上

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

本製品に搭載されるソフトウェアには、ソニー株式会社（以下「弊社」とします）が第三者より直接的に又は間接的に使用の許諾を受けたソフトウェアが含まれております。これらのソフトウェアに関する本お知らせを必ずご一読くださいますようお願い申しあげます。

GNU GPL/LGPL 適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）またはGNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。

お客様は添付のGPL/LGPLに従いこれらのソフトウェアソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

パッケージリスト

MAKEDEV
SysVinit
acl
apmd
attr
bash
bc
busybox
coreutils
cups
db4
device-mapper
diffutils
e2fsprogs
elfutils
findutils
gawk
gdb
glib
glib2
glibc
grep
hashalot
hotplug
hwdata
initscripts
ipl+eth
iproute
iptables
lftp
libcap
libgcc
libselinux
libsepol
libstdc++
libtermcap
libusb
linux
logrotate
module-init-tools
ncurses
net-tools
newt
openssh
openssl
pam
popt
prelink
procps
readline
rsync
samba
sed
setserial
sh-lilo
slang
smartmontools
sysklogd
tar
termcap
tree
usbutils
util-linux
vim
wirelesstools
xfsprogs

これらのソースコードは、Webでご提供しております。
ダウンロードする際には、PC等のWebブラウザで以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.
To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library.
The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing nonfree programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used nonfree libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

    a) The modified work must itself be a software library.
    b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
    c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
    d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

    (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

    These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

> <one line to give the library's name and an idea of what it does.>
> Copyright (C) <year> <name of author>
>
> This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.
>
> This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.
>
> You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA
>
> Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

> Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.
>
> signature of Ty Coon, 1 April 1990
> Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
   c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

    a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange;or,
    b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
    c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details
type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright
interest in the program `Gnomovision' (which
makes passes at compilers) written
by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

その他第三者ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には弊社が第三者より直接的に又は間接的に使用の許諾を受けた下記ソフトウェアが含まれております。

1. Open SSL（「Original SSLeay」と称するライブラリを含む）
2. Tiff
3. D3DES
4. JPEG
5. flex
6. ftp
7. portmap
8. telnet
9. file
10. bsdiff

当該ソフトウェアの著作権者の要求に基づき、弊社は以下の内容をお客様に通知いたします。

1. OpenSSL

This product includes software developed by the OpenSSL.
Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/).

Original SSLeay License

2. Tiff

This code is derived from software contributed to Berkeley by James A. Woods, derived from original work by Spencer Thomas and Joseph Orost.

3. D3DES

4. JPEG

本製品の一部には、Independent JPEG Groupの研究成果を使用しています。

"this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group"

5. flex

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors

6. ftp

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors

7. portmap

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors

8. telnet

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors

9. file

Software written by Ian F. Darwin and others;
maintained 1994-2004 Christos Zoulas.

10. bsdiff

以上

商標およびライセンスについて

- 本ソフトウェアの一部分に、Independent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- “ATRAC”、OpenMGおよびそれぞれのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- “ウォークマン”およびそのロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- “着うたフル®” “着うた®”は、株式会社ソニー･ミュージックエンタテインメントの登録商標です。
- 「au by KDDI」「au」、「LISMO」、「LISMO」ロゴは、KDDI株式会社の登録商標です。
- 本機はドルビーラボラトリーズの米国および外国特許に基づく許諾製品です。
- 本機はFraunhofer ⅡS及びThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- MicrosoftおよびWindows、Windows vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- エニーミュージックは、エニーミュージック株式会社の登録商標です。
- 「AOSS」は、株式会社バッファローの商標です。
- 本製品は、株式会社ジャストシステム開発の読み仮名変換モジュールを搭載しています。 また、読み仮名変換辞書は、ソニーとジャストシステムの共同開発です。
- 本製品に搭載されているフォントの書体「新ゴR」は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。
- Built with Linter Database.
  Copyright © 2006-2008 株式会社ブライセン.
  Copyright © 1990-2003 Relex, Inc., All rights reserved.
- Music recognition technology and related data are provided by Gracenote®. Gracenote is the industry standard in music recognition technology and related content delivery. For more information visit www.gracenote.com.
  CD and music-related data from Gracenote, Inc., copyright © 2000-2008 Gracenote. Gracenote Software, copyright © 2000-2008 Gracenote. This product and service may practice one or more of the following U.S. Patents: #5,987,525; #6,061,680; #6,154,773, #6,161,132, #6,230,192, #6,230,207, #6,240,459, #6,330,593, and other patents issued or pending. Some services supplied under license from Open Globe, Inc. for U.S. Patent: #6,304,523.
  Gracenote and CDDB are registered trademarks of Gracenote.
  The Gracenote logo and logotype, and the “Powered by Gracenote” logo are trademarks of Gracenote.

Gracenote®エンドユーザー使用許諾契約書

本アプリケーション製品または本デバイス製品には、カリフォルニア州エメリービル市のGracenote,Inc.(以下「Gracenote」)のソフトウェアが含まれています。本アプリケーション製品または本デバイス製品は、Gracenote社のソフトウェア (以下「Gracenoteソフトウェア」) を使用することにより、ディスクやファイルを識別し、さらに名前、アーティスト、トラック、タイトル情報 (以下「Gracenoteデータ」) などの音楽関連情報をオンラインサーバーから、或いは製品に実装されたデータベース(以下、総称して「Gracenote サーバー」) から取得し、さらにその他の機能を実行しています。お客様は、本アプリケーション製品または本デバイス製品の本来、意図されたエンドユーザー向けの機能を使用することによってのみ、Gracenoteデータを使用することができます。

お客様は、Gracenote データ、Gracenoteソフトウェア、および Gracenoteサーバーをお客様個人の非営利的目的にのみに使用することに同意するものとします。お客様は、いかなる第3者に対しても、Gracenoteソフトウェアやモデータを、譲渡、コピー、転送、または送信しないことに同意するものとします。お客様は、ここで明示的に許可されていること以外に、Gracenoteデータ、Gracenoteソフトウェア、またはGracenoteサーバーを使用または活用しないことに同意するものとします。

お客様は、お客様がこれらの制限に違反した場合、Gracenoteデータ、Gracenoteソフトウェア、およびGracenoteサーバーを使用するための非独占的な使用許諾契約が解除されることに同意するものとします。また、お客様の使用許諾契約が解除された場合、お客様はGracenoteデータ、Gracenoteソフトウェア、およびGracenoteサーバーのあらゆる全ての使用を中止することに同意するものとします。 Gracenoteは、Gracenoteデータ、Gracenoteソフトウェア、およびGracenoteサーバーの全ての所有権を含む、全ての権利を保有します。いかなる場合においても、Gracenoteは、お客様に対して、お客様が提供する任意の情報に関して、いかなる支払い義務も負うことはないものとします。お客様は、Gracenote,Inc.が直接的にお客様に対して、本契約上の権利をGracenoteとして行使できることに同意するものとします。

Gracenoteのサービスは、統計処理を行う目的で、クエリを調査するために固有の識別子を使用しています。無作為に割り当てられた数字による識別子を使用することにより、Gracenoteサービスを利用しているお客様を認識、特定しないで、クエリを数えられるようにしています。詳細については、Webページ上の、Gracenoteのサービスに関するGracenoteプライバシーポリシーを参照してください。

Gracenoteソフトウェアと Gracenoteデータの個々の情報は、お客様に対して「現状有姿」のままで提供され、使用許諾が行なわれるものとします。Gracenoteは、Gracenoteサーバーにおける全てのGracenoteデータの正確性に関して、明示的または黙示的にかかわらず、一切の表明や保証を致しません。Gracenoteは、妥当な理由があると判断した場合、Gracenoteサーバーからデータを削除したり、データのカテゴリを変更したりする権利を保有するものとします。Gracenoteソフトウェアまたは Gracenoteサーバーがエラーのない状態であることや、或いはGracenoteソフトウェアまたはGracenoteサーバーの機能が中断されないことの保証は致しません。Gracenoteは、Gracenoteが将来提供する可能性のある、新しく拡張、追加されるデータタイプまたはカテゴリを、お客様に提供する義務を負わないものとします。また、Gracenoteは、任意の時点でそのサービスを中止できるものとします。

Gracenoteは、市販可能性、特定目的に対する適合性、権利、および非侵害性について、黙示的な保証を含み、これに限らず、明示的または黙示的ないかなる保証もしないものとします。Gracenoteは、お客様によるGracenoteソフトウェアまたは任意のGracenoteサーバーの使用により得られる結果について保証をしないもとのとします。いかなる場合においても、Gracenoteは結果的損害または偶発的損害、或いは利益の損失または収入の損失に対して、一切の責任を負わないものとします。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
なお、本文中では™、®マークは明記していません。